

服飾芸術科
専門教育科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：必修
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
ナンバリング：F31A01			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 2年間の学修成果をディプロマポリシーに基づいて振り返り、履修モデルに即したテーマを設定し、プレゼンテーションを行う。 (授業目標) プレゼンテーション資料の制作過程におけるデータ収集、データ整理、考察、内容の構成、発表における効果的な伝え方や見せ方のスキルを身につける。 (学習成果) ◎D：ディプロマポリシーに基づき、2年間で身につけた知識を的確に理解し、自分の考えを論理的に述べることができる。
授業計画	<p>1 学長講演（服飾芸術科専任教員） 学長講演</p> <p>2 本ゼミナールの概要、制作（1）（服飾芸術科専任教員） 研究計画の概要、資料収集およびプレゼンテーションの手法について</p> <p>3 制作（2）（服飾芸術科専任教員） 研究テーマと概要、調査方法、制作方法をまとめる</p> <p>4 制作（3）（服飾芸術科専任教員） 資料収集およびプレゼンテーションの個別指導</p> <p>5 制作（4）（服飾芸術科専任教員） 資料作成およびプレゼンテーションの個別指導</p> <p>6 プレゼンテーション（1）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価</p> <p>7 プレゼンテーション（2）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価</p> <p>8 PROGテストの実施 PROGテストの実施</p> <p>9 「生涯の学び」（菊池桃子客員教授） キャリア形成に必要な考え方について</p> <p>10 プレゼンテーション（3）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価</p> <p>11 プレゼンテーション（4）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価</p> <p>12 プレゼンテーション（5）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価</p> <p>13 プレゼンテーション（6）（服飾芸術科専任教員） ゼミ代表者による合同発表、「卒業後の生き方について」講義</p> <p>14 PROGテストの解説 PROGテストの解説</p> <p>15 2年間の学びの振り返り（服飾芸術科専任教員） 2年間の学びを振り返る</p>
到達目標・基準	◎D：ディプロマポリシーに基づき、2年間で身につけた知識を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：設定したテーマを表現するにあたり、どのような手法がふさわしいかを考えること（25分）。 事後学習：進捗過程に合わせて教員に指導を仰ぎ、友人と意見交換を行いながら修正を行うこと（20分）。
指導方法	2年間の学修成果のまとめ方を指導する。研究内容やプレゼンテーション方法について、個別もしくはグループでの指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③採点（評価）返却、④授業後における採点について質疑応答

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：プレゼンテーション内容を評価する。 課題 70%、授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし
参考書	適宜、指示する
履修上の注意	2年間における学修成果の達成状況を確認するゼミである。日頃から他の履修科目を主体的な態度で学び、図書館の文献、メディア情報、店舗等における実態調査、映画、美術館等を活用することが大切である。
アクティブ・ラーニング、PBL	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F21A02	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 卒業後の未来を見据えた服飾芸術科の学びの基本となるホスピタリティの理論と実践を教える授業。今後さらに人とAIの業務の区別が明確になり、人にはホスピタリティ理論に裏付けされた共感力コミュニケーションスキルが求められていく。特に接客業においては、マーケティングオートメーション化できないラグジュアリー、あるいはビヨンドラグジュアリーの業界では必須のスキルである。わかりやすい理論に裏付けされているため、高い再現性を期待できる。 (授業目標) ホスピタリティの持つフラットな考え方をもとに、ユニバーサルな視点を育む。本学の校訓である「知好楽」の意味を授業を通じて理解し、大学ならではの知識教養を身につける。 (学習成果) ◎D：ホスピタリティ理論を正しく理解し、日常生活に活かす事ができる ◎C：個別対応が基本となる事の必要性を理解し、日常生活のシーンで「THEの対応」を考え出す事ができる
授業計画	1 ホスピタリティの必要性 ホスピタリティは何故必要なのか？ 2 共感力とは何か？ 共感力の概念の理解と事例紹介 3 ホスピタリティ理論（1） ホスピタリティのファーストステップの概念と国際感覚 4 ホスピタリティ理論（2） ホスピタリティのセカンドステップの概念と3つの効果 5 ホスピタリティ理論（3） ホスピタリティの二つのアビリティ 右脳編 6 ホスピタリティ理論（4） ホスピタリティの二つのアビリティ 左脳編 7 ホスピタリティ理論（5） THEのコミュニケーションの作り方 8 想定能力と水平思考 かもしれないゲームによる想定能力の磨き方 9 共感力を高める知識教養とナレッジツリー 教養とは何か？知識教養の広げ方と楽しみ方 10 共感力会話（1）グループワーク 共感力を使った二つの会話スキル 11 共感力会話（2）グループワーク 共感力を使った質問手法を知る 12 ファッション業界事例 ファッション業界で活かせるホスピタリティ 13 ビューティ業界事例 ビューティ業界で活かせるホスピタリティ 14 ウエディング業界事例 ウエディング業界で活かせるホスピタリティ 15 これからのホスピタリティ 就職活動や日常生活にどうホスピタリティを活かしていくか
到達目標・基準	◎D：ホスピタリティ理論を正しく理解し、自分の言葉で説明する事ができる ◎C：ホスピタリティのセカンドステップの重要性を理解し、自分の言葉で説明する事ができる
事前・事後学習	◎D：リーディングワークシートに沿ってテキストの指定されたページを熟読した上でシート記入をし、内容を整理する。（90分） ◎C：毎回の課題に取り組む。授業で学んだコミュニケーションシーンを自分の別の日常生活に置き換え記録しておく（90分）
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用いた講義形式を中心とし、グループディスカッションを通じて毎回の課題を授業内でまとめる。

	フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：ホスピタリティ理論を正しく理解しているか C：ホスピタリティ理論を基に具体的な行動に導く事ができるか 課題提出50%、受講の主体的姿勢40%、授業内確認小テスト10%
テキスト	ホスピタリティ・コミュニケーション ～ホスピタリエ認定講座テキスト～ 日本ホスピタリエ協会
参考書	なし
履修上の注意	単位取得者は(一般社団法人)日本ホスピタリエ協会認定資格「ホスピタリエ」の認定講座修了者として認められホスピタリエ認定試験の受験資格が得られる。 服飾芸術の学びの根幹となる考え方であるため、授業内で「考える姿勢」を持つ事。 ホスピタリティの学びの場であるため、教室内のホスピタリティにも気を配る事。 ディスカッションタイムも多いため、積極的に他学生とのコミュニケーションを取り、主体性を持って授業に臨む事。
アクティブ・ラーニング、PBL	授業内でグループに分かれてワークショップをする。毎回クラスルームに提出し、その内容を次回の授業内で共有する。講師と学生、学生同士の意見交換をする事により、深い思考を促す。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F11A03			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 衣服を考える時、自然環境や歴史、習慣や職業、着心地やファッションセンスなど、様々な条件が挙げられる。その基本は、個々の人体に対する快適な衣環境として、素材・デザイン・縫製等が不可欠であり、体型に適合した衣服を着用することが快適な衣生活の条件と考えられる。衣服の起源から既製衣料までを大きく「環境」「人体」「生産」「消費」の項目に分け、平面構成服と立体構成服の違い、人体構造、人体計測、アパレル製品のJISサイズ、素材、パターン設計について広く学修する。 (授業目標) 衣服を選択するための基礎知識を身につけ、快適な衣生活を実践できることを目標とする。 (学修成果) ◎D：着衣基体である人体構造と素材、デザイン、パターン設計の関係について理解し、体型に適合する衣服を選択することができる。
授業計画	1 衣服の起源と推移 衣服の起源、衣服の機能、生活様式の影響 2 衣服と環境（1） 立体構成服と平面構成服 3 衣服と環境（2） 日本の伝統衣裳、和服の形態的特徴 4 衣服と環境（3） 和服の基礎知識 5 衣服と人体（1） 日常生活における動作と衣服圧 6 衣服と人体（2） 人体計測 7 衣服と人体（3） 衣服の美的因子と身体因子 8 衣服と人体（4） シルエット とディテール 9 衣服と生産（1） 素材と造形性能 10 衣服と生産（2） 注文服の製造工程 11 衣服と生産（3） 既製服の製造工程 12 衣服と生産（4） 衣服の種類とサイズ表示 13 衣服と生産（5） パターン設計におけるゆとり 14 衣服と消費（1）（グループワーク）（PBL） なぜ着物の利用頻度は減少したか？ 15 衣服と消費（2） 既製服衣料の選択と購入
到達目標・基準	◎D：体型分類、寸法、布地の扱い方を理解し、体型に適合する衣服について説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業計画のテーマについて検索し、知識を得ておくこと（90分）。 事後学習：人体と衣服の関係性を多面的に捉え、実証できるように、知識と技術の理解を深め復習をしておくこと（90分）。
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、衣服に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。 フィードバックの仕方：①小テスト実施②小テスト実施後、質疑応答

アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、授業内小テスト、授業への貢献度、課題を評価する。 定期試験50%、小テスト20%、授業への貢献度20%、課題10%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布
参考書	『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編』：笠井フジノ, 他6名, 文化出版局 『アパレル構成学 着やすさと美しさを求めて』：富田明美, 株式会社朝倉書店
履修上の注意	衣服製作を行うための基礎となる理論を学修する。日頃着用する衣服がどのような構造によってできているのか、また着心地に関して考えること。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：必修
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F11A04	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ブランドを経営する上で商品以外にも関わるデザインは多い。平面的なデザインに重点を置き、なぜそれが多くの人の心を動かしたのか、相手にどのように表現すれば、意図が伝わるのかを構想する力をつける。 (授業目標) ポートフォリオなどのレイアウト術に活かせる基本を身に付ける。 (学習成果) 広がるファッションの分野で様々な活かせるデザインを学び、実践に活かせる力を身につける。 ◎D：ブランドや商品を研究しコンセプトやターゲットに合うデザインを自己肯定感を持って考えることができる。 ○E：習得した事を活かし、商品をより良く伝えるデザインを論理的に導くことができる。
--	---

授業計画	1	アート思考 デザインとアートの違いを知り、0から1を生み出すアウトプットの重要性を知る。 アートを鑑賞をし、鑑賞から作り上げたストーリーを共有し、相手との感じ方の違いを知る。
	2	デザイン思考 デザイン思考で生まれた商品などを知る。デザイン思考のプロセスを体感する。
	3	デザインの歴史(PBL) 時代と共に変わるデザインを知る 流行にとらわれず、社会を知ること、生まれるデザインを考える 身近にあるデザインがどの時代の影響を受けたものか調査しまとめてディスカッション
	4	デザインの種類(PBL) 様々なデザインの種類を学びデザインによって行動変容が起きることを知る 優れたデザインを見つけ、何が優れているのか考察し、どんなデザインの種類で構成されているかや行動がどう促されているかまとめて共有し合う
	5	ビジュアルアイデンティティー(PBL) ブランドとお客様のコミュニケーション ブランディングに関わるデザインを調べる 実在のブランドを設定しブランド発信に使用されているデザインを調査し有効的に使われている部分や効果を導く
	6	ロゴデザイン・フォント ロゴの持つ役割とブランドストーリーを知り、表現する力をつける 企業をロゴのコンセプトを考察し、同じコンセプトで違うマークを考える
	7	コーポレートカラー&ブランドカラー・デザインエレメント(PBL) 色の作用やデザインのパーツによりブランディングを強化する ファッション業界においてブランドとしてどんな色やエレメントが多いか調査しなぜかの理由をディスカッション
	8	配色(PBL) 色の特性を知り言葉からイメージされる配色を作り表現する 季節やテーマごとに変わる販促に有効に活かす 言葉ではなく配色だけで相手に伝わるか制作し相手に問う 調査を踏まえお互いにより良い配色を見つける
	9	フォント フォントデザインの基本と印象 様々なフォントを知り、使ってみる
	10	文字のジャンプ率(PBL) デザインの基本要素である対比を学ぶ 情報の優先順位を文字だけで伝えるデザインを作る ジャンプ率を用いて作ったデザインが適切に伝わるか相手に講評してもらい、お互いの改善点を見つける
	11	レイアウト(デザインの4原則) (PBL) 商品解説やウェブページでも重要なレイアウトの4原則を学ぶ。 写真や文字など全ての情報を整理し、どのように配置すればいいかの法則を知る。 4つの法則を使ったデザイン制作をし、相手に法則を見つけてもらい、デザインの意図をディスカッション
	12	レイアウト(構図) 要素の配置をどうすれば、効果的なデザインができるかを知る 雑誌の表紙や写真などをメインにデザインの考察をする

	13 視線誘導 (PBL) デザインを通してユーザー視線の流れをコントロールし、誘導するテクニックを学ぶ 視線誘導を使ったデザインを制作し、伝えたい順番と伝わった順番が一致するかディスカッションし改善点を導き合う
	14 適材適所のデザイン (PBL) POPの種類・場所に合わせた活用方法・コンセプトに応じたレイアウト・制作 商品開発と共に繰り返されるマーケティングと販売促進の為のデザイン 身近なでデザインをピックアップし、そのデザインが場所を変えるとどんなデザインにしなければならぬか 制作し鑑賞意見し合う
	15 時代と共に変わる企業とデザイン 世の中の変化でブランドにも変化が起こっている ブランド変化に伴うデザインの変化とこれからの考察する
到達目標・基準	◎D: コンセプトに沿ったデザインを作ることができる。 ◎E: 身の回りにあるデザインがどんな法則で作られているか考えることができる
事前・事後学習	事前学習: ファッションに限らず様々なデザインに目を向ける。雑誌・広告・パッケージデザインを見て商品の何を伝えたいのか推測する。課題に備え、ECサイトなどで良いと感じた平面的デザインをスクラップしておく (60分)。 事後学習: 毎回ワークを実施するので、完成させ提出する (120分)
指導方法	パワーポイントなどの視覚媒体を多用し、視覚で感じながら解説を行う。毎回のワークでは、各自自分で内容を設定し、学んだ事を活かしたデザインワークを行う。伝わるデザインになっているか、改善方法などディスカッションしアウトプットする力を養う。 授業内での課題提出と定期試験がある。課題のフィードバックは全員に共有し口頭で行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D: 課題、リアクションペーパー E: 定期試験 定期試験20%、課題70%、授業態度および貢献度10%
テキスト	なし 適宜プリント配布。
参考書	
履修上の注意	ブランド発信に関わる様々なデザインに目を向け、感じたことや傾向を記録しておく。 なぜそのような色や型になったのか自分なりに理由付けができるよう心がける。 毎回PC持参
アクティブ・ラーニング、PBL	ディスカッション・PBL・デザインの自己表現

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F21A05	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 自身のキャリアビジョンを描くには、企業での生き方や働き方が深く関わってくる。顧客への対応、上司と部下、同僚との関係構築、取引先との折衝など、全ての場面でビジネスにおけるコミュニケーションスキルは重要となる。企業から必要とされる人材になるためのビジネス的な手法を身につける。 (授業目標) ビジネスで円滑な人間関係を構築するための手法を知り理解することを目的に、主にファッション業界で働くうえで必要とされるビジネスマナーやビジネス知識、仕事術を修得する。 (学習成果) ◎C：『目標と計画を立てて課題を解決する力』ファッションに関心を持ち、課題解決のために合理的な計画を立てて主体的に取り組める。
授業計画	<p>1 ビジネスキャリアとは 本講義の概要、ステップアップをするキャリアビジョンについて</p> <p>2 キャリアプランとは 理想像・自分比較・到達手段・中間目標について</p> <p>3 キャリアプラン作成 キャリアや自己の武器を分析し未来に向けたシナリオを作成</p> <p>4 企業と組織 ファッション業界の企業と組織</p> <p>5 企業研究・キャリアアッププラン ファッション業界でのキャリアアップについて、企業研究・IR資料の読み方</p> <p>6 ノンバーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーションとビジネスコミュニケーションについて</p> <p>7 職場でのコミュニケーション 挨拶の効果、依頼・断る・謝罪、好かれる力、反省力、巻き込み力</p> <p>8 職場でのプレゼンテーション (PBL) アイデアと企画・ターゲットについて・企画書作成 (課題)</p> <p>9 ビジネス知識・ビジネスマナー ファッション業界のワード、一般的なビジネスマナー</p> <p>10 仕事術・PDCAサイクル (PBL) 仕事の方法、手順と優先順位、PDCAサイクル作成 (課題)</p> <p>11 ビジネスフレームワーク PDCA以外のビジネスフレームワーク</p> <p>12 情報分析力 仕事に役立つ分析力、顧客分析力</p> <p>13 ワークライフバランス ワークライフバランス、女性のキャリア開発、ブラック企業問題、ダイバーシティ経営</p> <p>14 ターゲット分析・自己のSWOT分析 コーチングで使用するターゲット別攻略法、SWOT分析</p> <p>15 ペルソナ像設定とプロファイリング ペルソナ像設定、プロファイリングについて 期末課題説明</p>
到達目標・基準	◎C：成果を出すために役立つ枠組みについてを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：インターネット等で最新のビジネス情報を得る。毎回の授業内課題対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと (60分) 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる (120分)。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内での授業内課題の提出、およびアンケート提出がある。 授業内PC使用 (Word、PowerPoint)

	クラスルーム課題にてフィードバックする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：授業内確認課題、期末課題を評価する。 期末課題50%、課題35%、授業態度・貢献度15%
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで最新のビジネスに関する情報を得ておくこと。 パソコン使用
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
秋元未奈子			
ナンバリング：F11C06			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 色彩の基礎的な知識と技術を習得する。物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面を日常の中にある実例や実習を通して学ぶ。色彩検定、デジタル色彩士検定受験者に必要な基礎知識も含む。 (授業目標) 色彩の基礎を学ぶことで色に対する視点を広げ、自在に扱えるようになるためのベースを作ることができる。 (学習成果) ◎D：色の基礎的な知識を習得した上で、場面に応じた的確な色彩を選ぶことができる。 ◎E：色の基礎的な知識を習得した上でカラーイメージを理解し、配色のパリエーションを広げることができる。
授業計画	1 色彩概論 色の役割 色を使う目的 色の使われ方 2 色彩の基礎 光と色 混色 照明 目のしくみ 3 色彩生理(実習) 色と脳の関係 色が心身に与える影響 4 色の歴史と色名(実習) 色の歴史 色の名前の分類 5 色の表示と分類1 カラーシステムの種類 色の分類(有彩色と無彩色、純色と清色と中間色) 色の三属性(色相、明度、彩度) PCCSによる色の表示 トーンのカラーイメージ 6 色の表示と分類2(実習) PCCSによる色の表示 7 配色基礎1(実習) 色相の配色(同一・隣接・類似・中差・対照・補色色相配色) 8 配色基礎2(実習) トーンの配色(同一・類似・対照トーン配色) 色相×トーンの配色 9 色の見えの効果(実習) 色の心理効果 対比・同化現象 面積効果 錯視 10 カラーイメージ1(実習) カラーイメージが作られる要因 イメージ戦略 カラーイメージチャートによるイメージ分類 カラーイメージチャートを使った配色手順 11 カラーイメージ2(実習) カラーイメージチャートによるイメージの展開① 12 カラーイメージ3(実習) カラーイメージチャートによるイメージの展開② 13 配色応用1(実習)

	<p>カラーイメージを活用した配色</p> <p>14 配色応用2（実習） セパレーション、ドミナント、グラデーション</p> <p>15 配色応用3（実習） ベースカラー、アクセントカラー、ポイントカラー</p>
到達目標・基準	<p>◎D：色の基礎的知識を習得する。色のしくみを説明することができる。</p> <p>○E：色の基礎的知識を習得し、カラーイメージや配色の違いを説明することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：前回の授業内容を復習する（60分）</p> <p>事後学習：学んだ内容を日常生活の中で意識し積極的に取り入れる（90分）</p>
指導方法	<p>プロジェクターを使用して実例を多く提示し、机上のカラーコーディネート論ではなく、使えるカラーコーディネートを目指す。</p> <p>カラーカードや色鉛筆による実習で講義内容を早く深く実感してもらう。</p> <p>色彩検定、デジタル色彩士検定受験希望者が基礎的な知識を得られるような内容とする。</p> <p>フィードバックの方法は、授業内にて課題提示→課題提出→指摘事項を口頭で講評または記入し返却（課題により異なる）</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D：定期試験での評価</p> <p>E：課題での評価</p> <p>定期試験40%、課題40%、授業態度・貢献度20%</p>
テキスト	<p>「よくわかるカラーの本」（ファッション 教育社）</p> <p>「デジタル色彩デザイン」（グラフィック社）</p> <p>「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社）</p> <p>「新配色カード199用演習台紙」（日本色研事業株式会社）</p> <p>「カラーインデックス」（日本カラーイメージ協会）</p>
参考書	<p>「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト3級」（色彩検定協会）</p> <p>「新版カラーイメージチャート」（グラフィック社）</p>
履修上の注意	<p>授業内容によりテキストと持ち物が異なるため、事前連絡に必ず目を通す。</p> <p>身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心がける。</p> <p>1年後期「カラーコーディネート演習」は本科目を単位修得済であることが履修の条件となる。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	制作実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
秋元未奈子			
ナンバリング：F21C07			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 「カラーコーディネート論」で学んだ知識を生かす、演習を中心とした授業。ファッション、メイク、インテリア、フラワー等の色彩についてより実践的に学ぶ。演習で様々な手法に触れ、多角的に色彩を見つめられるようにする。カラーイメージを専門的に学び、配色で的確に表現できることを目指す。色彩検定、デジタル色彩士検定受験者に必要な知識も含む。 (授業目標) シチュエーションに合わせて色彩を魅力的に表現できるようにする。 (学習成果) ◎D：色の専門的な知識と技術を習得する。ジャンルによって異なる色の特性を知り、提案できる力を養う。 ○B：演習を通じてセンスや感性を磨く。同時に他者の感性にも触れて、色彩表現の幅を広げる。		
授業計画	1	ファッションとメイクの配色1 (実習) 色相の配色	
	2	ファッションとメイクの配色2 (実習) 明度と彩度の配色	
	3	ファッションとメイクの配色3 (実習) メインカラーとサブカラーの配色	
	4	インテリアの配色 (実習) ベースカラー、アクセントカラー、ポイントカラーの配色	
	5	流行色 流行色のしくみ 流行色の歴史 流行色の提案	
	6	カラーイメージ1 (実習) ロマンチック、エレガント、ナチュラル、プリティ、クリアのイメージ	
	7	カラーイメージ2 (実習) カジュアル、フレッシュ、スポーティ、ダイナミック、アバンギャルドのイメージ	
	8	カラーイメージ3 (実習) ゴージャス、セクシー、エスニック、ワイルドのイメージ	
	9	カラーイメージ4 (実習) モダン、ノーブル、シック、クール、フォーマル、ダンディ、クラシックのイメージ カラーイメージの配色手順	
	10	嗜好色 (実習) 好きな色から自分を知る	
	11	自分らしさの色 (実習) 自分らしさとは何かを色で表す	
	12	花の配色1 アーティフィシャルフラワーによるブーケの制作① カラーイメージ選定 配色計画 花材選び	
	13	花の配色2 アーティフィシャルフラワーによるブーケの制作② 花材下準備 制作	
	14	花の配色3 アーティフィシャルフラワーによるブーケの制作③ 制作 リボン仕上げ 撮影	
	15	花の配色4 (実習) 生花による配色計画 生花を使った実習	

到達目標・基準	◎D：色の専門的な知識と技術を習得する。ジャンルによって異なる色の特性を説明できる。 ○B：演習を通じてセンスや感性を磨くことができる。
事前・事後学習	事前学習：前回の授業内容を復習する（60分） 事後学習：学んだ内容を日常生活の中に取り入れ、他者に提案する場合はどのようにするか考える（90分）
指導方法	プロジェクターで実例や使用方法を提示し、演習を行う。 演習はカラーカードによる色の選択、色鉛筆での着彩、コラージュ、フラワーアレンジメントなど。 色を扱う職種で色彩を強みにできるような指導を行う。 フィードバックの方法は、授業内にて課題提示→課題提出→指摘事項を口頭で講評または記入し返却（課題により異なる）
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：課題での評価 B：課題での評価 課題70%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「よくわかるカラーの本」（ファッション 教育社） 「デジタル色彩デザイン」（グラフィック社） 「新版カラーイメージチャート」（グラフィック社） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） 「カラーインデックス」（日本カラーイメージ協会） ※「新版カラーイメージチャート」以外は新たに購入の必要はなし（カラーコーディネート論で購入したものを使用するため）
参考書	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト3級」（色彩検定協会）
履修上の注意	授業内容によりテキストと持ち物が異なるため、事前連絡に必ず目を通す。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心がける。 1年前期「カラーコーディネート論」を単位修得済であることが履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング、PBL	制作実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F21C08	実務家教員による授業		
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>(授業内容) その人らしい装いには、スタイル分析による体型、パーソナルカラー診断による身体の色素、アイデンティティ分析によるイメージ、商品知識やファッショントレンドなど、多くの情報を同時にまとめるための知識と構成力が必要である。なりたい自分のイメージを明確にし、トータルコーディネートの実践的な力を身につける。多くの要素をまとめる力は、他人へのコーディネート提案に応用ができる。 (授業目標) ファッションが自分らしさの自己表現であることを実習を通して学び、個性を生かしたトータルコーディネート提案ができる。 (学習成果) ◎C：パーソナルカラー診断をグループワークで行い、他人へのコーディネート提案ができる。 ○E：スタイル分析により体型の特徴を理解し、着こなしの提案ができる。</p>		
授業計画	1	ファッション用語（1） ファッション用語のカテゴリー10分類 カテゴリーごとの用語例	2
	2	ファッション用語（2） コーディネートの説明文を分析	3
	3	スタイル分析（1） 共通のものさし プロポーション測定 理想と現実のプロポーション	4
	4	スタイル分析（2） 理想と現実のプロポーション	5
	5	スタイル分析（3） 顔型、上半身、下半身のスタイル分析	6
	6	スタイル分析（4） ファッションアイテム：トップス、ボトムスの分類 顔型、ヘアスタイルの分析	7
	7	パーソナルカラー（1） 4つのタイプ 6つの得意な要素 カラーペーパーによるパーソナルカラー診断	8
	8	パーソナルカラー（2） ドレープによるパーソナルカラー診断	9
	9	パーソナルカラー（3） ドレープによるパーソナルカラー診断	10
	10	パーソナルカラー（4） 診断結果まとめ 4つのタイプ、6つの得意な要素による自分の色素の特徴	11
	11	パーソナルカラー（5） 診断結果まとめ 4つのタイプ、6つの得意な要素による自分の色素の特徴	12
	12	自分らしさを生かすファッション 自分らしさを生かさない色、形、質感 自分らしさを表現するための色、形、質感	13
	13	なりたい自分のイメージ（1） アイデンティティによるイメージ分析	14
	14	なりたい自分のイメージ（2） イメージカラー制作	15
	15	発表（プレゼンテーション） PPT「自分らしいファッションとは」 1人2分間のプレゼンテーション	
到達目標・基準	◎C：パーソナルカラー診断を的確に行うことができる。 ○E：スタイル分析により体型の特徴を理解することができる。		

事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し予習（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。
指導方法	トータルコーディネートに必要な多様な診断方法を紹介し、学生自ら考え分析し実践し構成できる実践力が身につくように指導する。 提出課題ごとに、よかった点、改善点について各自にコメントする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：パーソナルカラー診断と活用を評価する。 E：スタイル分析と活用を評価する。 課題提出70%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト2級」 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」 *1年次に購入していない場合や購入したが紛失した場合に購入。 「新配色カード199a」 *1年次に購入し紛失したり、カードが少なくなった場合に購入。
参考書	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」
履修上の注意	「カラーコーディネート論」および「カラーコーディネート演習」を単位修得済であることがこの科目を履修する条件である。 ふだんから、いろいろな人の身体（肌、目、髪）の色、いろいろなファッション商品のデザイン（色、形、素材）を見比べて、違いを見分けられるよう興味をもつ。
アクティブ・ラーニング、PBL	イメージコラージュ制作 グループワーク プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服飾：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F11C09			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 平面的な描画法や歴史を実際に描きながら習得する。画力に関わるあらゆる技能を、画法として分解し、理解する。 (授業目標) 人体や空間的な理解を深め、授業を通して個々の進路との関連性を見つけ、探求・搜索活動をすることができる。 (学習成果) ◎C：写実力を高め、独自の発案や課題解決に向けたアウトプットできる知識を身につける。 ◎E：基礎技術への理解をもとに発案ができ、自分なりに言語化できる。
授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明）スケッチについて 「描画の種類や歴史」 2 スケッチ画法1 「人をスケッチする①」 3 スケッチ画法1 「人をスケッチする②」 4 スケッチ画法1 「人をスケッチする③」 5 スケッチ画法1 「人をスケッチする④」 6 スケッチ画法2 「物をスケッチする①」 7 スケッチ画法2 「物をスケッチする②」 8 スケッチ画法2 「物をスケッチする③」 9 スケッチ画法3 「風景をスケッチする①」 10 スケッチ画法3 「風景をスケッチする②」 11 デッサン画法1 「光と影」 12 デッサン画法2 「色と質感」 13 デッサン画法3 「リアクションワークによる探究①」 14 デッサン画法3 「リアクションワークによる探究②」 15 デッサン画法3・まとめ 「リアクションワークによる探究③」
到達目標・基準	◎C：それぞれの技法の基礎を身につけ、想像をヴィジュアル的に具体化できる。 ◎E：学んだことを応用することで描き表現し、他人に伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時の指示に従い、画法について調べる（30分）。 日頃から身のまわりのモチーフに関心を寄せ、描くよう心がける（30分）。 事後学習：講義内容を復習し、理解を確実なものにする。（120分）。
指導方法	パワーポイントや実技映像などで基本的知識の講義や描き写すという行為を取り入れながら進行する。毎時の進行状況や成果物は随時レポートを行い提出する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：基礎力の定着度、発案の内容を評価。 E：基礎知識による表現力を評価。 課題60%、提出物20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチやアーカイブ、制作などがある為、必要に応じてノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリントが配布される場合がある為、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	リアクションワークなど

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服飾：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F11C10			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) デッサンなどの平面的な描画を通して、ファッションやビューティーにおけるデザイン性や、クリエイティブの根幹である写実の能力を高める。 (授業目標) 課題によって人体への理解を深めたり、空間的理解を深めたりするなど、授業を通して個々の進路との関連性を見つけ、探求・搜索活動を行うことができる。 (学習成果) ○D：それぞれの画法を学び実践的に応用し、独自の発案と共にアウトプットできる。 ○E：基礎技術をもとに、独創的な制作ができ、かつ言語化できる。
授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明）スケッチ・デッサンについて 「描画の種類や歴史の紹介、制作準備」 2 スケッチ・デッサン演習1 「静物デッサン・モチーフ①」 3 スケッチ・デッサン演習1 「静物デッサン・モチーフ②」 4 スケッチ・デッサン演習1 「静物デッサン・モチーフ③」「講評会①」 5 スケッチ・デッサン演習2 「人物デッサン・自画像①」 6 スケッチ・デッサン演習2 「人物デッサン・自画像②」 7 スケッチ・デッサン演習2 「人物デッサン・自画像③」「講評会②」 8 スケッチ・デッサン演習3 「クロッキー①」 9 スケッチ・デッサン演習3 「クロッキー②」 10 スケッチ・デッサン演習3 「クロッキー③」「講評会③」 11 スケッチ・デッサン演習4 「人物デッサン・全身像①」 12 スケッチ・デッサン演習4 「人物デッサン・全身像②」 13 スケッチ・デッサン演習4 「人物デッサン・全身像③」 14 スケッチ・デッサン演習4 「人物デッサン・全身像④」 15 スケッチ・デッサン演習4・まとめ 「人物デッサン・全身像⑤」「講評会④」
到達目標・基準	○D：それぞれの技法の基礎を身に付けられる。 ○E：モチーフを理解しスケッチ・デッサンとして形にすることができる。
事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。（20分） 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。（25分）
指導方法	パワーポイントや映像などで基本的知識の講義を取り入れながら、制作を中心に進行する。毎時の進行状況や成果物は随時レポートを行い提出する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：基礎力の定着度、デザイン発案の内容を評価。 E：制作物や展示、プレゼンテーションのクオリティと内容を評価。 課題60%、展示、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンに使用する画材で、自身の愛用品があれば持参しても構わない。 ・リサーチやアーカイブ、制作などがある為、必要に応じてノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリント配布される場合がある為、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	制作、講評

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服飾：選択
担当教員			
廣瀬純子			
ナンバリング：F11C11	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) シンプルなセンテンスで魅力を伝え、人の心を掴む文章術、セールスライティング。ファッションメディアでも、さまざまなコミュニケーションチャンネルで、その手法が活かされている。本授業では、ファッション界の仕組みを知り、専門的な知識を理解・修得するために、instagram、プレスリリース、ファッション記事を想定したライティング演習を行う。わかりやすく情報を伝え、共感を呼ぶライティング手法について学ぶ。</p> <p>(授業目標) 伝えるためのライティングについて理解し、伝わる文章を書くことができる。</p> <p>(学習成果) ○D：ファッションに関する情報を収集、取捨選択することができる。 ○E：ファッション界への理解を深め、仕事につながるライティングスキルを修得する。</p>		
授業計画	1	セールスライティングとは。 本講義の概要。	
	2	ソーシャルメディア、その社会的役割。 ソーシャルメディアの社会的役割を理解し、適切かつ効果的な活用の仕方について考える。	
	3	ソーシャルメディアとファッション。 ソーシャルメディアとファッションの関係について学ぶ。	
	4	SNS ライティング演習① instagram 投稿を想定した、ライティングについて学ぶ。	
	5	SNS ライティング演習② プレゼンテーション、講評も行う。	
	6	SNS ライティング演習③ プレゼンテーション、講評も行う。	
	7	企業が発信、プレスリリースとは。 パブリックリレーションズの考え方を理解する。	
	8	プレスリリース ライティング演習① プレスリリースを実際に書き、その手法を学ぶ。	
	9	プレスリリース ライティング演習② プレゼンテーション、講評も行う。	
	10	プレスリリース ライティング演習③ プレゼンテーション、講評も行う。	
	11	ファッションメディア。 ファッションメディアの役割について学ぶ。	
	12	アイデアを生み出すために。情報収集とアイデア発想のコツ。 ライティングに欠かせない、情報収集やアイデア発想法について学ぶ。	
	13	ファッションメディア ライティング演習① プレゼンテーション、講評も行う。	
	14	ファッションメディア ライティング演習② プレゼンテーション、講評も行う。	
	15	全体のまとめ 総評。質疑応答。レポート作成。	
到達目標・基準	○D：ファッションに関する情報の収集・整理することができる。 ○E：ファッション界への理解を深め、仕事につながるライティング技能について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日々ファッションメディアに目を通し、新聞や雑誌のコラムをチェックする（30分）。 事後学習：授業内容を振り返り、ポイントを整理する。授業時に取り組んだ課題を見直し、必要に応じて改善を行う（30分）。		
指導方法	パワーポイント、及び授業内容に則した画像、映像などの視聴覚資料を用いた講義と、学生に実際に文章を書かせ、発表、改善をさせる、ライティング演習を行う。		

	フィードバックの仕方: 授業での課題をGoogle Classroom を使用して提出→次の授業で講評→再提出
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D: 課題を評価する。 ◎E: 課題、プレゼンテーションを評価する。 課題 70% 授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	毎回、スマホ、PCを持参すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	演習、プレゼンテーション。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
原田弘美			
ナンバリング：F11C12			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 西洋における服飾の変遷を時代背景とともに解説する。 衣服の起源と役割、及び古代から近代までの時代様式の特徴と服飾の関連性を解説する。20世紀以降は各年代の代表的なファッションデザイナーとその作品を紹介し、過去の装いと現代ファッションとの共通点・相違点を探る。更に毎回、講義内容に合わせた映画やコレクション映像を使用し、現代の文化芸術に過去の服飾が反映されていることを視覚的に確認しながら理解を深める。 (授業目標) 古代から現代まで各時代様式と服飾の特徴を関連づけ、服飾の観点から西洋の歴史を読み取る力を身に付ける。 (学習成果) ◎E：時代背景を考察し、服飾の特徴から各時代を読み取ることができる。
授業計画	<p>1 衣服の起源 衣服の起源と衣服の役割</p> <p>2 古代の服飾（1） 古代エジプトの装飾モチーフと衣服</p> <p>3 古代の服飾（2） 古代ギリシャの服飾 古代ローマの服飾</p> <p>4 中世の服飾 [レポート課題① Google Classroomを活用] (PBL) キリスト教文化とビザンティンの服飾の関連性 ゴシック建築と服飾の関連性</p> <p>5 近世の服飾（1） ルネサンス芸術と服飾の関連性</p> <p>6 近世の服飾（2） 17世紀バロックのオランダモードとフランスモード</p> <p>7 近世の服飾（3） 18世紀ロココの華やかなフランス宮廷モード</p> <p>8 近代の服飾（1） 19世紀初頭新古典主義とナポレオン1世時代の服飾</p> <p>9 近代の服飾（2） 19世紀女性服のシルエットの変化 パリオートクチュールの誕生</p> <p>10 近代の服飾（3） [レポート課題② Google Classroomを活用] (PBL) 19世紀末アール・ヌーボー様式の特徴と服飾</p> <p>11 20世紀初頭のファッション 女性のコルセットからの解放</p> <p>12 1920年代のファッション アール・デコ様式の特徴と服飾 ガブリエル・シャネルの活躍</p> <p>13 1930年代～1950年代のファッション クリスチャン・ディオールの登場と第二次世界大戦後のパリモード</p> <p>14 1960年代のファッション [レポート課題③ Google Classroomを活用] (PBL) ロンドンファッションとミニスカートの流行</p> <p>15 1970年代～2000年代のファッション オートクチュールからプレタポルテへ 多様化する現代ファッション</p>
到達目標・基準	◎E：近代以前の服飾と現代の服飾の特徴が区別できる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスを参考に次回の授業内容を確認しながら、教科書の該当する部分を読み、各時代の世界史、美術史の知識を得ておく。(20分程度) 事後学習：講義内容を復習しながら学んだデザイナーや芸術家について調べ、出題された課題に対するテーマ

	案を作成する。(20分程度) 課題に対するテーマを決定させ、レポートの作成に取り組む。(50分程度) 講義で使用した映画をDVDや動画配信サービスなどで鑑賞し理解を深める。(90分程度) 講義で紹介した展覧会に向き実物を鑑賞し知識を増やす。
指導方法	毎回パワーポイントを使用し、画像と映像(DVD)を多用しながら視覚的に理解しやすいよう講義を進める。Google Classroomを活用し、時代区分ごとにレポート提出の課題を提示する。 フィードバックの方法：課題及び課題返却時のコメントへの質疑等は個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	各時代の時代背景と服飾との関連性が理解できているかを評価する。 ◎E：定期試験と提出課題を評価する。 定期試験40%、課題40%、授業態度・貢献度20%
テキスト	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑩「改訂版・西洋服装史」文化出版局
参考書	
履修上の注意	講義の進度により、授業計画や課題が一部変更される場合がある。 授業中は撮影禁止。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
竹田久美子			
ナンバリング：F11C10	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 日本の民族衣装である「きもの」について、基礎的な知識を学ぶ。現代のスタイルへと変化していった歴史や「きもの」に不可欠な伝統文様、伝統色、家紋、染織技術について解説していく。また、「節目のきもの」や目的に合わせた「きもの」の選び方について理解を深める。 (授業目標) きものに関する一般的な基礎知識を修得する。 (学習成果) ◎D：普段着から礼装まで、目的にあった「きもの」を理解し説明できる。
授業計画	1 日本文化の中におけるきもの 授業概要 きもの知識 2 きもの歴史（1） 古代～中世：きもの原形が成立する流れ 宮廷文化と武家文化における特徴 戦国～近世：きもの確立時代、この時代に生まれ特徴 近代：明治から現代への変遷 3 きもの着装 訪問着・小紋・浴衣それぞれの着方の違い 体型別の補整について 4 きもの調和（1） TPOに応じた装い ミスの装い ミセスの装い 女袴の装い 男物の装い 男性の装い 5 紋／日本の色 家紋について 日本の色 6 染色の基礎知識 糸染めからきものが作られる工程 「染めのきもの」の産地とその特徴 「織りのきもの」の産地とその特徴 7 きものに関する基礎知識（1） きもの種類と格について 帯の種類と格 8 きものに関する基礎知識（2） きもの各名称 袴・単衣・薄物について 和服のたたみ方 9 きものに関する基礎知識（3） きものと小物の名称 衣替えについて 10 結婚式の装い 花嫁衣裳の着付け 男性の紋付羽織袴の着付け 11 きもの文化について（1）（PBL） きもの文化の普及について 12 きもの文化について（2）（PBL） きもの文化の普及についての発表 13 美しい立ち居振る舞い（1） 振袖の自装・他装 和室における立ち居振る舞い

	<p>襖の扱い 座布団の扱い 美しい立ち居振る舞い（2） 訪問時の心得 応接の心得 風呂敷・袱紗の扱い</p> <p>15 きものの管理 きものの洗い きものの仕立て直し 「振り返り」</p>
到達目標・基準	◎D：普段着と礼装の違いまた、主な「節目のきもの」について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日頃から、雑誌やインターネット等で、振袖姿・袴姿など「きもの」について、色・模様・小物に注目しながら数多くの画像や解説を視聴し情報を得る。（90分程度） 事後学習：講義内容について、その都度ノートや配布資料(Classroomに同じ資料をアップ)をまとめ理解を深める。（90分程度）
指導方法	パワーポイントや映像を用い講義形式で進める。 実物を見ながらの講義もある。 Classroomを利用理解度を深めていく。 フィードバックの仕方：振り返りシートの提出。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D:定期試験、振り返りシート、受講態度また授業への貢献度を評価する。 定期試験50%、振り返りシート30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じて、プリントを配布する。 ciassroomに掲載
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	欠席した場合、配布プリント(Classroomに同じ資料をアップ)を確認すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F12C13	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ファッションデザインの中でも、主にアパレルデザインに重きを置き、ファッションブランドの商品企画の手法を修得する。 (授業目標) アパレルデザイナーや商品企画職を目指すためのコンセプトワーク、テーマに基づくファブリケーション、そして商品企画の流れを理解及び体験することにより、ポートフォリオ作成手法も並行して修得する。(スタイル画・平絵での描写課題あり) (学習成果) ◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題解決策や商品企画提案できる。		
授業計画	1	ファッションデザインとは 本講義の概要説明、デザインの分類と、アパレルデザインについて	
	2	ファッション用語 ファッション基礎用語について (教科書使用)	
	3	コレクションブランドの分析 コレクションブランドのスタイリング・素材イメージ・カラー・柄展開・アイテム分析 それに伴うファッション基礎ワードについて (教科書使用) コレクション分析 (課題)	
	4	ファッション素材概要 ファッション素材の基礎について (教科書使用) 小テスト	
	5	ブランドコンセプト ファッションブランドのコンセプト設定とイメージマップについて コンセプトイメージマップ作成 (課題)	
	6	ターゲット設定 (ワーク) ファッションブランドのターゲット設定とイメージマップについて ターゲットイメージマップ作成 (課題)	
	7	シーズンテーマ シーズンテーマに基づくシーンイメージ設定とイメージマップについて シーンイメージマップ作成 (課題)	
	8	シーンに基づくファブリケーション及びカラー展開 シーンの中のスタイリングを構成する素材ストーリーとそのカラー展開について ファブリケーションマップ作成 (教科書使用) (課題)	
	9	スタイル画 スタイル画の役割と表現手法について スタイル画作成 (課題)	
	10	アイテム画 アイテム画 (平絵) の役割と表現手法について 平絵作成 (教科書使用) (課題)	
	11	同素材デザイン展開 1 同一素材を使用したアパレルデザイン展開について 確認課題	
	12	同素材デザイン展開 2 同一素材を使用したアパレルデザインの展開について 同素材デザイン展開平絵作成 (課題)	
	13	デザイナーのマーチャンダイジング 1 商品企画構成上のマーチャンダイジングについて 確認課題	
	14	デザイナーのマーチャンダイジング 2 商品企画構成上のマーチャンダイジングについて 同素材デザイン展開企画の確認及び修正 (課題)	
	15	最終企画構成確認修正 ブランドコンセプト・ターゲット設定に基づく商品企画 ポートフォリオ確認及び修正	

期末課題として提出	
到達目標・基準	◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、商品企画の手法を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：本学図書館に於いて指定されている書籍でファッションデザインの知識を得ておくこと。(90分) 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを基に分析し要約しておくこと。(90分)
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。毎回テーマごとに進めていき、描絵での表現を含むポートフォリオをシナリオ的に作成していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：最終課題及び授業内課題を評価する。 最終課題50%、授業内課題30%、授業態度・貢献度20% クラスルーム課題にてフィードバックする。
テキスト	「スタイリングブック」高村是州著、株式会社グラフィック社
参考書	なし
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典、PEN、マリークレールビジュアール、VOGUE、BAZAAR、View、Wearを一読すること。 授業内PC使用（主にパワーポイント）、猫絵あり 2年前期「商品企画演習」は、本科目を単位取得済みであることが履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング、PBL	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
江頭誠			
ナンバリング：F12C14	実務家教員による授業		
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>(授業内容) ファッションデザインに必要なデザイン画、スタイル画の基礎となる基本プロポーションやポーズから人体ディテールの研究、アイテム図の表現法や着装表現、基本シルエットと着彩表現、各種画材の特性について学ぶ。 (授業目標) 市場調査を交え、常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性とその表現力を養うことを目標とする。 (学習成果) ○C：描く対象物やディテールに適した技法を判断し表現できる。 ◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 講師紹介、ガイダンス 講師の紹介（制作物、メディア情報等の紹介） ファッション イラストレーションAの授業の概要説明</p> <p>2 基本プロポーション説明 ファッションイラストにおける人体の基本プロポーションについて（正面、横） イラスト制作に便利なツールの紹介</p> <p>3 アイテム図の表現 スカート、パンツ、ジャケットの描き方、画材の使用方法について 諸所の画材を用いて実験</p> <p>4 スカートのスタイル画（1） スカートのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>5 スカートのスタイル画（2） スカートのスタイル画、線画の完成</p> <p>6 スカートのスタイル画（3） スカートのスタイル画の着彩、仕上げ</p> <p>7 イラスト模写 イラストからポージング、アイテムの描き方を参考にし模写</p> <p>8 写真模写 ファッション雑誌等のモデル写真からポージング、顔の表情を参考にし模写</p> <p>9 パンツスタイルのスタイル画（1） パンツスタイルのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>10 パンツスタイルのスタイル画（2） パンツスタイルのスタイル画、線画の完成</p> <p>11 パンツスタイルのスタイル画（3） パンツスタイルのスタイル画、着彩、仕上げ</p> <p>12 オリジナルテーマのスタイル画（1） オリジナルテーマのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>13 オリジナルテーマのスタイル画（2） オリジナルテーマのスタイル画、線画の完成</p> <p>14 オリジナルテーマのスタイル画（3） オリジナルテーマのスタイル画、着彩、仕上げ</p> <p>15 総評 本授業の総評。 今までの作品の振り返りをし、上達したところを再確認する。</p>
<p>到達目標・基準</p>	<p>○C：指定された課題を仕上げることにより、アイテムのディテールを理解する。 ◎E：人体にフィットする服をディテールを理解しながら描くことができる。</p>
<p>事前・事後学習</p>	<p>事前学習：流行している服や色について市場調査する習慣を身につける（30分）。 事後学習：授業で学んだ技術の復習を行い、分野を問わず、アートやデザインに触れて感性を磨く努力をする（30分）。</p>

指導方法	資料や配布プリント、デモンストレーションなどによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品に加筆や、上達のためのアドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：授業で説明したプロポーションなどの注意点が提出課題にて意識できているかを、採点の際の基準とする。 E：授業で説明した描く対象物に応じた適切な画材の使用ができているかを、採点の際の基準とする。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリント配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げること。 ・課題提出物の期限は厳守すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
飯田淳			
ナンバリング：F22C15	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 切り離して考えられない生活とファッション。その関係を意識して、オリジナリティーのあるファッションイラストレーションを制作する。多様化した生活、環境、時間、空間を調査分析して、「着ている人」を視覚化する。 (授業目標) 基礎的な表現方法を指導して、企画、構成、描写、そしてプレゼンテーションを通してコンセプトを人に伝えるコミュニケーション力を身につけることを目標とする。 (学習成果) ○C：様々な生活スタイルから感じ取ったデザインや着こなしを企画提案する。 ◎E：色彩と形のバランス、ボリューム感を考え、着ている人物の生活も感じさせる表現技術を身につける。
授業計画	1 ガイダンス イラストレーションの仕事を見ながらファッションとの関係を解説 2 色彩とシルエット 様々な画材を用いて色面を制作、シルエットに当てはめ、人物と服とのボリュームを考える 3 色彩とシルエット 色面で出来たシルエット画を発表して講評する 4 生活スタイルとファッション（1） 同世代の生活スタイルを調査分析してディスカッションを行い企画案を考える 5 生活スタイルとファッション（2） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する 6 生活スタイルとファッション（3） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する 7 色彩とライン 様々な画材を用いて線画を制作、ラインで人物の骨格を表現する 8 色彩とライン 色彩と線画で出来た作品を発表して講評する 9 生活スタイルとファッション（1） 自分にとっての理想の生活スタイルを考え、ディスカッションを行い企画案を形にする 10 生活スタイルとファッション（2） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する 11 生活スタイルとファッション（3） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する 12 自由課題 生活スタイル1、2をもとに自由な表現で作品を制作する 13 自由課題 好きな画材とサイズで制作する 14 自由課題 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する 15 全体講評とまとめ 全課題を展示して、自身の感覚と考え方を俯瞰的に捉えて、将来の仕事に生かす為のアドバイスを行う
到達目標・基準	○C：生活スタイルとファッションの関係を意識して表現に繋げる事ができる。 ◎E：ボリュームと色のバランスを構成にいかし表現できる。
事前・事後学習	事前学習：ファストファッションからハイブランドまで、実際に展開されているショップを観察してファッションのトレンドとライフスタイルの切り口を調査し情報を収集する。(30分) 事後学習：雑誌、web等の情報からファッションの流れを予測して、画像等をファイリングして次の課題につなげる。(30分)
指導方法	企画、アイディア出し、ラフスケッチ、制作、完成までを共に考えアドバイスしながら個性を生かした作品に仕上げる。

	表現したいイラストレーションの技法に関して、画材の選択等の指導をする。 フィードバックの仕方：発表段階でより完成度の高い作品に仕上げる為のポイントを講評時に行う。ディレクショナルな指摘も行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：生活スタイルが感じられる表現が出来ているか、企画が新鮮かを評価する。 E：伝えたい事が描けていて、オリジナリティーも感じられるかを評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリントを配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を自由な発想と分析で理解し、作品を完成させること。 ・課題提出の期限を厳守すること。 ・多くの画材に触れて特性を体験すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C16	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業目標) モノ消費からコト消費へのニーズに合わせた価値創造が出来るようデザイン思考のプロセスを用い建設的なクリエイティブを目指す。人と物やサービスをどの様に繋げるかをWebやアプリを通したプログラミング的な要素で、課題発見を解決する構想力をつける。テーマを決めグループワークと個人ワークを繰り返す。共感・問題定義・アイデア創出・プロトタイプング・テストを繰り返し、答えを導く。なぜその答えに至ったのかのプロセスに重きを置き、ビジネスで有効な伝えるデザインを目指す。 (授業目標) 「adobe XD」を使用し、webなどを制作しながらリサーチすることで、現状のビジネスを知り、新しいビジネスに繋がるきっかけや発信方法を考察することができる。 (学習成果) ◎B: デジタルの制作技術を活用し、自己肯定感をもってコンセプトに基づく制作ができる。 ◎A: 主体性を持ってグループで企画を進める事ができる。
授業計画	1 本講座とAdobeソフトについて 今後の企画内容のガイダンスとAdobeソフトについて 2 UIとUXデザインについてとグループディスカッション (PBL) ユーザー視点に立ってサービスや商品の本質的な課題 (例：日頃のファッションに関する悩み) を挙げ、課題を解説するためのデザイン設計概要をディスカッション 3 ワイヤフレーム製作 (PBL) リサーチを繰り返し人と物やサービスをどのように繋げればいいのかの枠組みを決め、グループでの共通認識を持ち、作業方針を決めていく 4 基本操作(色・形・文字) (PBL) XDの基本操作を習得しワイヤフレームを元に構造のベースを設定 5 トップページ制作 (PBL) サービスやブランドの顔を作ることで全体のデザインの方向性を決めていく グループで決めたコンセプトや設計に基づき作業分担を決める 6 基本的なUIデザインのパターンとデザインの共通概念 (PBL) 企画に合う基本的なデザインパーツを制作しトップページを完成させる 相手の視線が誘導され、クリックしたくなるデザインを調査し制作に反映させる 7 基本操作(動き) (PBL) ユーザーの意識が対象に向くよう動きを調査し 動きの付け方や試行方法を習得する 8 詳細ページ制作 (PBL) ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる 9 詳細ページ制作 (PBL) ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる 10 詳細ページ制作 (PBL) ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる 11 一覧ページ制作 (PBL) サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する 12 一覧ページ制作 (PBL) サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する 13 作品全体を通しての試行 (PBL) グループ内で作品を試行し、課題解決になっているか問題発見と解決を目指しディスカッションとブラッシュアップ 14 回遊 (PBL) 作品内でユーザーを回遊させる方法を考察し魅了するビジネスに繋げる 様々な切り口で関連する情報を見せ作品を完成させる 15 学修成果発表 講評 (PBL) プラン完成後、全員で作品を試行し、評価し合う。これからのビジネスにどのように活かせるかなど考察する

到達目標・基準	◎B:デジタルの制作技術を活かし、自己肯定感をもち伝えたいことを形にすることができる ○A:計画性を持ってグループで企画を進める事ができる
事前・事後学習	事前学習：普段何気なく使用しているアプリやサイトに対して、なぜ使いやすいのか、機能的な表現がどうなっていると伝わりやすいかをリサーチする。XDの使用に慣れる為基本操作動画を見て事前確認をする。(20分) 事後学習：作品で使用する画像や動画など教室ではできない撮影や素材集め(40分)
指導方法	プロジェクターにて制作の過程や操作方法を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 各学生からの質問に対しては個別に対応し、表現したいデザインに合わせて応用技術の指導を行う。 各回で課題制作確認とフィードバックを口頭で行いながら進める
アセスメント・成績評価の方法・基準	B:課題と成果物による評価 A:課題や授業への貢献度を評価 作品60%、授業態度・貢献度30%、その他課題10%
テキスト	適宜フォーマット配布
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 各自PC持参 「ファッションデジタル演習B」のAdobeソフト使用の科目を履修する事で、よりデジタルスキルの向上を目指せ、就活やビジネスに活かせるポートフォリオ作りに繋がる。 制作課題に対するフィードバックは学生同士の作品鑑賞時に講評する。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業(ディスカッション・グループワーク・制作実習)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C17	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業目標) 一つの商品を企画する時に、商品のデザインだけでなく、その商品をどの様に販売していくか、それにまつわるデザインを企画し、活用方法を考察する。ポートフォリオにまとめながら、デジタルスキルを向上させる。本授業では、商品を各自選定し、そこからターゲットなどのコンセプトを決め、そのパッケージ・カタログ・グッズや服などのデザインを企画し、実際に製作する。紙面上ではなく、複数のデザインを実際に目にする事で、一貫したブランディングがなされていたか、適切にお客様に伝わるデザインだったかを考察する。 (授業目標) 「Adobe Illustrator」の使い方に重点を置き、「Adobe Photoshop」と併用しながらグラフィック系ソフトの使い方を習得する事ができる。プランニングすることで、デザインの思考を養い、プレゼンテーション資料制作や平面的デザインを身につけることができる。 (学習成果) ◎C：デジタルの制作技術を活用し、伝えたいことを明確にし検証改善を繰り返し制作ができる。 ○B：主体性を持ち最後まで追求しながらデザイン製作を行う。
授業計画	1 本講座について 今後の企画内容のガイダンス Photoshop、Illustratorの基本的操作と違いと互換性について 2 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画(PBL) 基本的なフォントや文字の配置方法 色や型による印象などをディスカッション 3 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画(PBL) 画像のレイアウト・コラージュ方法 自分表現する色や型を模索し自分を表現し、相手に講評してもらいブラッシュアップ 4 ブランド企画とロゴマーク(PBL) ブランド企画をし、コンセプトに基づいたロゴマーク作成 前回課題を元に自分ブランドを作る 5 ブランド企画とロゴマーク(PBL) コンセプトに基づいたロゴマーク作成 ブランドコンセプトシートを作り発表し合い、伝えたいコンセプトが伝わるデザインになっているかディスカッション 6 ブランディングにおけるビジュアル・アイデンティティ調査・考察(PBL) 前回制作のロゴマークを元にブランドの視覚的な一貫性を図るため、ブランドさしさを伝えるデザインの広がり例を調査し、自分ブランドに繋げていく 7 ブランディングにおけるビジュアル・アイデンティティ制作(PBL) 自分ブランドを視覚的に統一し伝えることができているかを制作、ディスカッションを繰り返す 8 パッケージ・ラッピングデザイン制作 前回制作を元に紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる(紙袋・ギフトボックス・ラッピングペーパー)など 相手にブランドが理解浸透してるかディスカッションしながら進める 9 パッケージ・ラッピングデザイン制作 前回制作を元に紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる(紙袋・ギフトボックス・ラッピングペーパー)など 相手にブランドが理解浸透してるかディスカッションしながら進める 10 その他販促品制作 前回制作を元に紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる(紙袋・ギフトボックス・ラッピングペーパー)など 相手にブランドが理解浸透してるかディスカッションしながら進める 11 その他販促品制作 デザインを展開させ、様々なアウトプットを制作 12 その他販促品制作 デザインを展開させ、様々なアウトプットを制作 13 作品撮影 今までの作品を振り返り、ポートフォリオに入れる為の撮影とデータのまとめ 14 企画書まとめ 今までのデザイン案をまとめ、製作物を撮影してポートフォリオとしてまとめる

	15 ブランディングデザインが効果的におこなわれているか見える形にする 学修成果発表 講評 プラン完成後、鑑賞会・講評
到達目標・基準	◎C：「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」他グラフィック系のソフトやアプリの基本的な技術を用いてグラフィック制作ができる。 ○B：好奇心を持ってプランを完成できる。
事前・事後学習	事前学習：コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(20分) 事後学習：授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、課題を完成させる(40分)
指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 操作に遅れの出る学生の出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。 課題のフィードバックは適宜口頭で行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題提出物、B：受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物70%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜、プリントやフォーマットデータを配布
参考書	
履修上の注意	事前学習にしっかり取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や各自材料の購入し持参することが必要 ファッションデジタル演習Aを合わせて履修することにより、Adobeソフトの使用がよりスムーズに作業することができる。
アクティブ・ラーニング、PBL	全体を通して一つのPBL型授業（ディスカッション・デザイン制作・発表）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C16	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 戦略的に店舗の売上を向上させるビジュアルの知識を養う。VMDによってより良いお買い場作りを学ぶ。HPなどの平面だけでなく、空間的なビジュアルに重点をおく。購入までの道筋を総合的に考えることで、様々なショップの形に活かす。より良いVMD計画を毎回の授業の学びを取り入れつつ、ディスカッションや調査を通して徐々に完成させていく。 (授業目標) ブランドを商品だけで見るのではなく商品に関わる全てのビジュアルによってお客様により良い購入体験ができるよう創出できる。 (学習成果) ◎D：VMDの学びを活かし商品やターゲットに合わせどのようなビジュアルや構成が向いているか提案できる。 ○E：学びを理解しショップのコンセプトやターゲットに合わせたVMD計画を習得する		
授業計画	1	ビジュアルの重要性 ビジュアルに左右される行動や心理 VMD導入の意味と意義と仕掛け方	
	2	購買行動とビジュアル (PBL) オンラインとリアル店舗の共通点と相違点を明確にし お客様が目にする全てのビジュアルを考える 実在するブランドコンセプトを分析し、ディスカッションしまとめる	
	3	デザインテイストの規格化と店舗デザイン (PBL) ブランドテイストや商品を考慮したショップスタイリング 前回制作の資料を元に店舗内でコンセプトを表現するにはを調査しまとめる	
	4	店舗ツール (PBL) ビジュアルを左右するマネキンや什器について知る 前回制作の資料を元に、適するツールやマネキンを実在する企業を調べリストアップする	
	5	売り場作り (PBL) ゾーニングやグルーピングを学び、店内レイアウトを考える 前回制作の資料を元に、店内レイアウトを制作する	
	6	3つのゾーンの役割 (PBL) VP/PP/IPに空間を分け、お客様を集客し分かりやすい買い場を作る 前回制作の資料を元に、3つのゾーンに分ける	
	7	IP (陳列の基本) 陳列の種類とわかりやすい・見やすい陳列を探る	
	8	IP (陳列の基本) (PBL) カラーテクニックやアイテム別の魅せ方 前回制作の資料を元に、IP内のプランを制作する	
	9	PP (ゾーンのポイント) (PBL) 効果的な配置場所とディスプレイ構成 前回制作の資料を元に、PPディスプレイをシュミレーションし資料にまとめる	
	10	VP (店舗の顔) 構成の種類と効果を実施写真で考察・分析 実際のショーウィンドウなどから構成を発見する	
	11	VP (店舗の顔) (PBL) 販促テーマを効果的にビジュアル化する方法を学ぶ 前回制作の資料を元に、どのようなVPがふさわしいかとまとめる	
	12	MP技法・ライティング効果 商品を美しく魅せる技法やライティングすることで商品に与える影響や印象を学ぶ	
	13	年間のお買い場づくり (PBL) 商品の入れ替えに合わせて効果的にビジュアル化する 前回制作の資料を元に、年間の店舗ディスプレイや陳列における販促計画を制作	
	14	季節の装飾 (PBL) 旬なおもてなしでお客様の心を掴む 前回制作の資料を元に、年間販促計画から一つをピックアップし、具体的なVMD計画を表現する	
	15	店内再編集とこれからの時代のVMD (PBL) 商品ライフサイクルを反映する売り場の再編集方法 アフターコロナやオンラインなど変わる時代の店舗像	

	これまでの課題をまとめ、コンセプトが伝わるVMD計画ができているか、他グループと意見交換や講評をする
到達目標・基準	◎D：店内のディスプレイや陳列を見極めて構成できる。 ○E：より良いお買い物づくりにつながるVMDとは何かを習得する
事前・事後学習	事前学習：店舗ごとにショップ内の自分が好きな箇所と嫌いな箇所をまとめておく（60分）。 事後学習：講義の中でのキーワードをチェックリストにし、実際の店舗をリサーチする。課題やワークを完成させる（120分）。
指導方法	講義内容に関連する写真や映像等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う 毎回授業内のワークで課題に取り組む。ワークは課題として提出期限を設ける 課題は全員に共有し口頭でフィードバックしブラッシュアップできるようにする
アセスメント・成績評価の方法・基準	D、E：スライド制作課題、定期試験を評価する。 定期試験 30%、課題60%、授業態度・貢献度 10%
テキスト	なし 適宜プリント配布 参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	
履修上の注意	百貨店や駅ビルなど様々な商業施設に足を運ぶ。 PCを毎回持参する
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク・ディスカッション・PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F22C17	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 小売業で重要なビジュアルを空間で捉えることで、発想したものをカタチにする力を養い、お客様に伝えるビジュアル企画を目指す。またPCで作ったものを実際に具現化する事で、表現力を養う。 本授業では、ショップのターゲット設定しそのお客様の心に訴えるビジュアルを目指す。 ショップ全体のイメージ・陳列イメージ・年間のビジュアル販促スケジュール・小物用ショーウィンドウプラン企画・実施することで、販売促進の一環であるお客様に伝えるビジュアルを目指し、ビジネスに活かす。 (授業目標) 「Adobe Photoshop」の使い方に重点を置き、「Adobe Illustrator」と併用しながらグラフィック系ソフトの使い方を習得する。プランニングすることで、デザイン的思考を養い、プレゼンテーション資料制作や空間的デザイン制作を身につけることができる。 (学習成果) ◎C：コンセプトやターゲットを理解し、商品やテーマが伝わるビジュアルデザインを創造することができる。
授業計画	<p>1 店舗におけるビジュアル (PBL) 今後の企画内容のガイダンスとターゲット設定 ディスプレイデザインの事例調査と各自課題設定</p> <p>2 操作について IllustratorとPhotoshopの操作確認 写真合成などの練習ワーク</p> <p>3 操作について 商品やブランドコンセプトに合う店舗空間マップ制作 IllustratorとPhotoshopの操作確認 写真合成などの練習ワーク</p> <p>4 コンセプトに基づく陳列コンセプト制作 (PBL) 商品やブランドコンセプトに合う商品陳列のイメージマップ制作 Photoshop画像編集を習得しながらマップ制作</p> <p>5 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 (PBL) 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画</p> <p>6 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 (PBL) 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画</p> <p>7 ディスプレイ構成 (PBL) 商業施設のディスプレイを考察・分析し、美しいとされるディスプレイの構成を学ぶ 今後企画の参考になる写真をコラージュ</p> <p>8 ディスプレイ計画 (PBL) テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得</p> <p>9 ディスプレイ計画 (PBL) テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得</p> <p>10 ディスプレイ計画 (PBL) テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得</p> <p>11 ディスプレイ立体製作 (PBL) PCプランをもとに必要な装飾品を製作し実際に組み立てる</p> <p>12 ディスプレイ立体製作 (PBL) PCプランをもとに必要な装飾品を製作し実際に組み立てる</p> <p>13 ディスプレイ立体製作・撮影 (PBL) PCプランをもとに実際に組み立てる 完成後撮影をする</p> <p>14 プランまとめ (PBL) 実施写真を制作プランに入れ込み、コンセプトから実施まで一つのプランにする</p> <p>15 学修成果発表 講評 (PBL) 課題のプレゼンテーションと意見交換</p>
到達目標・基準	◎C：販促活動の一環として、企画し実施することができる。

事前・事後学習	事前学習:コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(40分)。 事後学習:授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う(20分)。
指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。 課題製作の際、適宜フィードバックを行う。最終授業時に講評発表
アセスメント・成績評価の方法・基準	C: 課題提出物、受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物80%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 各自PC持参 事前学習にしっかり取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や購入持参するものがある
アクティブ・ラーニング、PBL	全体を通し一つのPBL (ディスカッション・デザイン制作・発表)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F12C20			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 服飾の素材としての観点から繊維、糸、布などの基礎知識やその性質について講義や体験を通して学ぶ。 (授業目標) 服飾造形において素材選びはデザインの一部であり、素材は服飾を構成する要素として重要な役割を果たしていることを理解し、服飾造形構想のヒントを手に入れる。 (学習成果) ○C：修得した知識を基に服飾造形の際には適した素材が選択できるようになる。また、実際の衣生活に役立てる応用力を身に付けて説明できる。 ○D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質を理解できる。快適で衛生的な衣生活の知識を修得できる。
授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明）・ファッション素材の基礎 「ファッション素材の分類・三原組織と主な編物組織」 2 繊維の分類と特徴（1） 「天然繊維①植物繊維」 3 繊維の分類と特徴（2） 「天然繊維②動物繊維」 4 繊維の分類と特徴（3） 「化学繊維①再生繊維」 5 繊維の分類と特徴（4） 「化学繊維②合成繊維」 6 繊維の分類と特徴（5） 「化学繊維③合成繊維」 7 繊維の分類と特徴（6） 「化学繊維④合成繊維・半合成繊維」 8 繊維の分類と特徴（7） 「その他の繊維や新しい繊維」 9 ファッション素材の管理（1） 「品質管理・取扱絵表示」 10 ファッション素材の管理（1） 「ファッション素材の保管・管理」 11 ファッション素材の管理（1） 「機能加工、視覚的効果のある加工」 12 服地の種類と特徴（1） 「用途別服地の紹介と特徴①」 13 服地の種類と特徴（2） 「用途別服地の紹介と特徴②」 14 服地の種類と特徴（3） 「用途別服地の紹介と特徴③」 15 服地の種類と特徴（4）・期末試験ガイダンス 「用途別服地の紹介と特徴④・まとめ」
到達目標・基準	○C：実際の衣生活に役立てる繊維製品の扱い方を判断できる。 ○D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の違いを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業時の指示に従い、翌週の授業で扱う素材について予め調べる。（30分） 日頃から身のまわりのファッション素材に関心を持ち、自らの手で触れ、比較観察し、着用するよう心がける。（30分） 事後学習：講義内容を復習し、理解を確実なものにする。（120分）
指導方法	パワーポイントや映像などで講義を行う。授業内でのリアクションペーパーやレポート、小テストなどの提出がある。

	フィードバックの仕方：①確認問題実施、②採点（評価）返却、③授業後に解答について質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：繊維製品に関する判断力をリアクションワークによって評価する。 D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の知識を修得しているか定期試験によって評価する。 定期試験またはレポート50%、提出物30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチやリアクションなどに必要な為、ノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリント配布があるため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	アクションシート制作

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F12C21			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) 衣服製作の経験が少ない学生を対象に、基礎的な製作技術の修得を目的としている。課題は「基礎縫い」と「服飾雑貨」製作とし、学習内容に沿った製作工程と使用器具の扱いなどを学修する。</p> <p>(授業目標) 基礎縫いでは手縫い、ミシン縫い、副資材(ボタン付け等)に関する基礎的な縫製技術を修得し、日常生活における衣服トラブルを自ら解決する技能を身に付ける。服飾雑貨製作では、機能性を考えた実用的なバッグ製作を行うことで立体的な組み立て方を学修する。</p> <p>(学習成果) ○D：基礎的な縫製技術を理解し、日常生活における衣服トラブルを自ら解決することができる。 ○E：基礎的な製作技能を理解、修得し、課題を製作することができる。</p>		
授業計画	1	基礎縫い(1) (実習) 玉どめ、なみ縫、ぐし縫の基礎技法	
	2	基礎縫い(2) (実習) 半返し縫、本返し縫、星どめの基礎技法	
	3	基礎縫い(3) (実習) ミシン、ロックミシンの使用方法について	
	4	基礎縫い(4) (実習) 置きじつけ、まつり縫、千鳥がけの基礎技法	
	5	基礎縫い(5) (実習) 置きじつけ、奥まつり縫の基礎技法 ボタン等の使用方法を実習	
	6	基礎縫い(6) (実習) スナップ、ホック等の使用方法を実習	
	7	服飾雑貨製作基礎(1) (実習) ポケットのデザイン考案	
	8	服飾雑貨製作基礎(2) (実習) 作図、裁断、印をつける	
	9	服飾雑貨製作基礎(3) (実習) 布端の処理、ポケット製作	
	10	服飾雑貨製作基礎(4) (実習) 持ち手を製作し胴に縫いつける	
	11	服飾雑貨製作基礎(5) (実習) 胴、まち、底を縫う	
	12	服飾雑貨製作応用(1) (実習) 作図、裁断、印をつける、布端の処理	
	13	服飾雑貨製作応用(2) (実習) ファスナーをつける	
	14	服飾雑貨製作応用(3) (実習) 胴、まち、底を縫う	
	15	衣服トラブルを解決する(実習) (PBL) 日常生活における衣服トラブルを解決する手段を学ぶ	
到達目標・基準	○D：日常生活における衣服トラブルの解決方法を説明できる。 ○E：基礎的な製作技能を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：基本的な縫い方(手縫い、ミシン等)を練習する(30分)。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく(30分)。		
指導方法	パワーポイントや動画を使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：課題は評価を行い返却する。質問は授業後、直接個別対応する。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	D：課題の完成度を評価する。 E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。
参考書	なし。
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。 「服飾造形応用」は、本科目の履修者に限り受講できる。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F12C22			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) 服飾造形基礎を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。実習で修得した知識、技術を基に製作技術を学び、課題として「ワンピース」を製作する。製作工程に関する配布プリントに沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。</p> <p>(授業目標) 衣服の組み立て方と製作手順を学修し、製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、基礎的な縫製技術を身に付けることを目的とする。</p> <p>(学習成果) ○C：縫製手順を理解し、自ら計画を立て課題を製作することができる。 ◎E：服飾造形基礎で学修した技能、知識を活かし、課題を製作することができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明	
	2	採寸、作図（実習） 採寸、パターン作図	
	3	作図、布地選択（実習） パターン作図、素材決定	
	4	裁断、印つけ（実習） 裁断、印をつける	
	5	芯の裁断と接着、裁断（実習） 必要な部分にアイロンで芯を接着	
	6	組み立て（実習） しつけ糸を使用し組み立て	
	7	組み立て、試着補正（実習） しつけ糸を使用し組み立て、試着補正	
	8	本縫い（布端の始末）（実習） 布端をロックミシンで始末	
	9	本縫い（後ろタック、肩縫い）（実習） 後ろ身頃のタック、身頃の肩を縫う	
	10	本縫い（見返し）（実習） 見返しの肩を縫い、身頃と見返しの衿ぐりを縫い合わせる	
	11	本縫い（前タック）（実習） 前身頃のタックを縫う	
	12	本縫い（脇縫い、袖口の始末）（実習） 脇縫い、袖口の始末	
	13	本縫い（フィッティング、丈の選定）（PBL） スカート丈と下肢形状の関係を理解し、スカートの丈を考える	
	14	本縫い（裾の始末）（実習） 裾をミシンまたは手縫いで始末	
	15	作品発表（プレゼンテーション）（実習） プレスボール等のプレス器具を使用して、仕上げアイロンをかける 着装発表を行う	
到達目標・基準	○C：縫製手順を説明することができる。 ◎E：課題を製作するための正しい縫い方を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：服飾造形基礎で修得した縫い方や作業工程を各回で使用できるように復習しておく（30分）。 事後学習：授業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（30分）。		
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：課題は評価を行い返却する。質問は授業後、直接個別対応する。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	C：プレゼンテーションを評価する。 E：課題の完成度を評価する。 課題70%、授業への貢献度20%、プレゼンテーション10%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形基礎」を単位取得済であることがこの科目を履修する条件である。 作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、プレゼンテーション、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平林芳子			
ナンバリング：F12C23			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) 染色の基礎技法であるロウケツ染め、型染め、絞り染めについて、技法や素材との関係、工程を学ぶ。基本の染め方による試作により技法と表現、工程についての理解度を高める。それぞれの染め方の技法と工程に適したデザインを考え染色作品を完成させる。</p> <p>(授業目標) 染色の基礎技法を実習することにより、ファッションやインテリアにおけるテキスタイルデザインの特徴についての理解を深める。</p> <p>(授業成果) ○D：既存の染色作品やテキスタイル製品に関心を持って知識を深め、技法と工程を理解した上で作品に活かすことができる。 ○E：技法や素材、工程について理解した上で、その特徴を活かしたオリジナルのデザインによる染色作品を制作することができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス・ロウケツ染めのハンカチ制作（1）	<ul style="list-style-type: none"> 制作課題についての説明 ロウケツ染めの素材、技法、表現についての説明 ロウケツ染めの試作を染める
	2	ロウケツ染めのハンカチ制作（2）	<ul style="list-style-type: none"> ロウケツ染めの試作を染める 試作提出 デザイン画を描く
	3	ロウケツ染めのハンカチ制作（3）	<ul style="list-style-type: none"> デザイン画を実物大に描く 布にロウを置く
	4	ロウケツ染めのハンカチ制作（4）	<ul style="list-style-type: none"> 反応染料による彩色
	5	ロウケツ染めのハンカチ制作（5）	<ul style="list-style-type: none"> ロウを取る 仕上げ 作品提出
	6	型染めのエコバッグ制作（1）	<ul style="list-style-type: none"> 型染めの素材、技法、表現についての説明 型紙の作り方考え方をプリントで演習 演習プリント提出
	7	型染めのエコバッグ制作（2）	<ul style="list-style-type: none"> デザイン画を描く→Google Classroomに提出
	8	型染めのエコバッグ制作（3）	<ul style="list-style-type: none"> デザインを実物大で描く 型紙を切り抜く
	9	型染めのエコバッグ制作（4）	<ul style="list-style-type: none"> 顔料で試作を染める 顔料でエコバッグに染める 仕上げ 作品提出
	10	絞り染めのハンカチ制作（1）	<ul style="list-style-type: none"> 絞り染めの素材、技法、表現についての説明 絞り染めの試作を染める 試作提出
	11	絞り染めのハンカチ制作（2）	<ul style="list-style-type: none"> デザインを描く デザイン画を実物大にする 布を縫う
	12	絞り染めのハンカチ制作（3）	<ul style="list-style-type: none"> 布を縫う
	13	絞り染めのハンカチ制作（4）	<ul style="list-style-type: none"> 縫った糸を絞る
	14	絞り染めのハンカチ制作（5）	

	<ul style="list-style-type: none"> ・藍による浸染 ・乾燥 15 絞り染めのハンカチ制作（6） <ul style="list-style-type: none"> ・絞った糸をとる ・仕上げ ・作品提出
到達目標・基準	○D:既存の作品や製品から興味のあるデザインを選択して模倣することができる。 ◎E:基本的な技法により染色作品を制作することができる。
事前・事後学習	事前学習：積極的に展覧会や美術館に行くなど、さまざまな製品、作品を見て見識を深めること。技法や工程などを資料や動画で予習しておくこと（60分） 事後学習：授業で学んだ表現方法をもとにアイデアを進展させておくこと。また、技法や工程などを資料や動画で復習しておくこと。（30分）
指導方法	実習作品の全体像を把握できるよう、技法と表現について解説する。 課題毎にサンプルの試作または、演習をして理解度を高める。 参考作品を提示して具体的なデザインの考え方や作業工程、注意事項などを説明した上で実習を進める。 フィードバックの方法：デザインアイデアのスケッチに対してGoogle Classroomも活用して、技法に適したアドバイスをする。 Google Classroomにデザイン画の提出（学生）→アドバイスを記入し返却、または授業中にアドバイスをする →再提出
アセスメント・成績評価の方法・基準	D:提出課題により、工程や技法についての理解度（工程や技法に適したデザインを考えることができているか等）を評価する。 E:提出課題の完成度（工程や技法に適したデザインを考えられた上で、仕上がりの美しさを意識した丁寧な作業ができているか等）を評価する。 提出課題90%、授業態度・貢献度10%
テキスト	資料を配布、またはGoogleClassroomにアップする
参考書	なし
履修上の注意	探究心と興味を持って作品の制作に取り組むこと。 課題の作業工程を把握し、進行状況にも気を配りながら作品の完成度を高めること。 危険な薬剤を使用する工程もあるので、注意事項を聞き逃すことなく作業を進めること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F22C22			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) 現代の「ファッション」を取り巻く様々な問題に目を向け探求し、リメイクの視点から解決に向けたプロセスをデザイン・構築する。</p> <p>(授業目標) 実際のグループワーク制作から生まれたファッションプロダクトに対し、運用を前提としたブランディングデザインを設計し、創作物の実践的な発信力を身に付ける。</p> <p>(学習成果) ○A：問題探究、創作、ブランディング、発表までの流れの中で、チームワーク、主体性が発揮できる。 ◎C：諸問題の探求を通して新たな発見・発案を行い、問題解決力や実現性・再現性を身に付ける。</p>		
授業計画	1	ガイダンス (授業概要の説明) 「授業の流れ、生産と消費が抱える問題と背景」	
	2	リメイク技法の探求 「リメイク技法及び事例のサーチと考察」	
	3	リメイク技法を用いたデザイン立案 「リメイクデザイン案の作成」	
	4	リメイク技法を用いた制作1 「リメイク作品の実制作」	
	5	リメイク技法を用いた制作2 「リメイク作品の仕上げ」	
	6	リメイク作品のプレゼンテーション 「制作した作品の発表」	
	7	リメイクプロダクト企画1 (グループワーク) 「コンセプトの構築」	
	8	リメイクプロダクト企画2 (グループワーク) 「ブランドイメージとデザイン案の作成」	
	9	中間プレゼンテーション (グループワーク) 「コンセプト、ブランディングの中間発表」	
	10	リメイクプロダクト制作 (グループワーク) 「プロダクトの実制作①」	
	11	リメイクプロダクト制作 (グループワーク) 「プロダクトの実制作②」	
	12	リメイクプロダクト制作 (グループワーク) 「プロダクトの実制作③」	
	13	リメイクプロダクト制作 (グループワーク) 「プロダクトの実制作④ (仕上げ、撮影)」	
	14	プレゼンテーション資料の制作 「プレゼンテーション資料の完成、発表準備」	
	15	最終プレゼンテーション (グループワーク) 「制作したプロダクトを用いた最終発表」	
到達目標・基準	○A：グループワークを通して組織の中での主体性を身に付けられる。 ◎C：デザイン、ブランディングコンセプトなどで積極的かつ思考性に富んだ発案ができる。		
事前・事後学習	事前学習：制作や探求に必要な基礎知識の調査、及び準備。(20分) 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。(25分)		
指導方法	テーマに対する探求や制作は、講義も交えて指導していく。授業の流れは、前半は個人で取り組み、後半はグループワークで行う。毎時の進行状況や成果物は随時レポートする。 フィードバックの方法：①課題を提示、②制作物、プレゼンテーションを評価し、返却、③評価に関する質疑応答		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	A：グループワーク内での貢献度、プレゼンテーション内容で評価。 C：制作物のクオリティと発案内容を評価。 プレゼンテーション40%、制作物40%、授業態度と貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント等を配布
参考書	授業内で提示
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチやアーカイブ、制作などに必要な為、ノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリント配布があるため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	探求、グループワーク、制作、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F22C23			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) アクセサリや小物など多岐にわたる立体造形の基本制作（原型制作、型取り、複製）を通して装飾技術を経験する。</p> <p>(授業目標) 立体的な技法を学び、様々な素材による造形表現方法を身につけ、商品開発などにおける基礎的な知識や、立体制作の実践に応用できる。</p> <p>(学習成果) ○D：それぞれの技法を学び実践的に応用し、独自の発案と共にアウトプットできる。 ○E：基礎技術をもとに、一貫したテーマを持ち独創的な制作と言語化できる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス（授業概要の説明） 「立体造形の歴史とデザイン」	
	2	立体造形1 「ポリマークレイによる原型制作①」	
	3	立体造形1 「ポリマークレイによる原型制作②」	
	4	立体造形1 「ポリマークレイによる原型制作③」	
	5	立体造形1 「ポリマークレイによる原型制作④」	
	6	立体造形1 「ポリマークレイによる原型制作⑤」	
	7	立体造形2 「シリコン樹脂による雌型制作①」	
	8	立体造形2 「シリコン樹脂による雌型制作②」	
	9	立体造形2 「シリコン樹脂による雌型制作③」	
	10	立体造形2 「シリコン樹脂による雌型制作④」	
	11	立体造形3 「レジン樹脂による複製素体制作①」	
	12	立体造形3 「レジン樹脂による複製素体制作②」	
	13	立体造形4 「修正作業と塗装①」	
	14	立体造形4 「修正作業と塗装②」	
	15	展示・プレゼンテーション 「展示・プレゼンによる発表」	
到達目標・基準	○D：それぞれのデザインの基礎力身に付け、発案に活かせる。 ○E：自分の考えをデザインにし、形にすることができる。		
事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。（20分） 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。（25分）		
指導方法	パワーポイントや映像など基本的知識の講義を取り入れながら、制作を中心に進行する。毎時の進行状況や成果物は随時レポートする。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：基礎力の定着度、デザイン発案の内容を評価。 E：制作物や展示、プレゼンテーションのクオリティと内容を評価。 課題60%、展示、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチやアーカイブ、制作などがある為、必要に応じてノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリント配布される場合がある為、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	制作、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ			
ナンバリング：F22C24			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ハンドクラフトニットでは、手編み技法の学修を行うことで編み方の技術や構造を理解することができる。編み地はニットとも言われ、かぎ針を用いて毛糸などを使い、ループを作りそのループに次のループを引っかけて1本の糸を編み上げていくことで編み地を製作していく。製作に使用する、かぎ針の素材はプラスチック、木、金属などがあり、編み針の太さは号数で表している。 (授業目標) 基本である技術を学修することで、かぎ針と糸の適合性、糸の特性、編み図記号などを理解することができる。数種類の基礎編みを習得した後に、各自で形状を決め材料を調達し応用作品の完成を目指す。課題は基礎編み、モチーフ基礎編み、応用作品とする。 (学習成果) ◎E：基礎編みで学修した基礎技術を組み合わせて編地の表現方法を理解する。
授業計画	1 かぎ針編み基礎技法 (実習：基礎技法) 授業内容ガイダンス、編み図説明、かぎ針の持ち方、糸の扱い方、作り目、くさり編み技法 2 かぎ針編み基礎技法 (実習：細(コマ)編み) 細(コマ)編みの技法 3 かぎ針編み基礎技法 (実習：長編み) 長編みの技法 4 かぎ針編み基礎技法 (実習：透かし編み) 透かし編み技法 (1) 5 かぎ針編み基礎技法 (実習：透かし編み) 透かし編み技法 (2)、仕上げ方法、糸始末 6 かぎ針編み基礎技法 (実習：モチーフ編み) 円形モチーフ編み技法 7 かぎ針編み基礎技法 (実習：モチーフ編み) 四角形モチーフ編み技法 8 かぎ針編み基礎技法 (実習：モチーフ編み) 六角形モチーフ編み技法、仕上げ方法、糸始末方法 9 かぎ針編み基礎技法 (実習：モチーフ編み) グラニースクエア編み技法、糸変え方法、仕上げ方法、糸始末方法 10 かぎ針編み基礎技法 (実習：モチーフ編み) 花モチーフ編み技法、仕上げ方法、糸始末方法 11 応用作品製作 (1) (実習：同左) 応用作品のデザイン決定、作品製作について相談 12 応用作品製作 (2) (実習：同左) 応用作品の編地決定、作品製作について相談、作品製作 (1) 13 応用作品製作 (3) (実習：同左) 作品製作 (2) 14 応用作品製作 (4) (実習：同左) 作品製作 (3) 15 応用作品製作 (5) (実習：同左) 作品製作 (4)、仕上げ、完成
到達目標・基準	◎E：基礎編みの技術を組み合わせ課題作品に応用することができる。
事前・事後学習	基礎技術を理解するために事前事後学習をすること。 事前：動画とプリントに目を通し予習をしておくこと (20分)。 事後：各回のテーマで学修した編み図を理解し課題を仕上げておくこと (25分)。
指導方法	・製作工程に関するプリントを配布し、PowerPointと動画を交えて基礎技術の説明を行う。 ・講義と個別指導を交えながら基礎技術を理解し、応用作品完成までの工程について指導を行う。 フィードバックの仕方：課題を評価し返却する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	E：説明に対する理解力と応用作品の完成度 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし プリント配布
参考書	
履修上の注意	授業進度に遅れている場合は空き時間などを利用して進めるように注意すること。 課題提出日は厳守すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
永田貴恵子			
ナンバリング：F22C25			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 刺繍は針と糸から生まれる美しい手芸 (Hand craft) です。技法はたくさんありますが、基本となるフランス刺繍から始めます。 (授業目標) 刺繍の材料 (布・糸・針) や用具の扱い方を学び、実際に作品を制作しながら技術を習得します。布の目数を数えて刺すクロスステッチも学習します。 (学習成果) ◎E：基礎刺しの名称と刺し方を理解し正しく刺繍ができる。
授業計画	1 ガイダンス 授業内容や授業の進め方の説明 刺繍の材料や用具の取り扱い方の説明 実際に刺繍された作品を見て刺繍を知る (世界各国の様々な刺繍を知り見識を深めるためにパソコンやスマートフォンを活用する) 2 フランス刺繍 実習① フランス刺繍のサンプラー (基礎刺し見本) を制作する 刺繍布の準備、裁断・三つ折り縫い実習 3 フランス刺繍 実習② 図案の写し方説明 布に図案を写す ランニングステッチ バックステッチの刺し方実習 4 フランス刺繍 実習③ アウトラインステッチ チェーンステッチ レイジーデイズステッチの刺し方実習 5 フランス刺繍 実習④ フライステッチ フレンチノットステッチ バリオンステッチの刺し方実習 6 フランス刺繍 実習⑤ サテンステッチ ロングアンドショートステッチの刺し方実習 7 フランス刺繍 実習⑥ スパイダーウェブローズステッチの刺し方実習 8 ビーズ刺繍 実習⑦ ビーズスパンコールの用具の取り扱い方の説明 ビーズ・スパンコールの刺し方説明 スパンコールをビーズで留める ビーズ平刺しの刺し方実習 9 オリジナルの図案を刺繍する 実習⑧ フランス刺繍の基礎刺しの応用としてオリジナルの図案を考える (図案作成の資料収集のためにパソコンやスマートフォンを活用する) オリジナルの図案を刺繍する 10 オリジナルの図案を刺繍する 実習⑨ オリジナルの図案を刺繍する 11 オリジナルの図案を刺繍する 実習⑩ 刺繍作品の仕上げ方説明 サンプラーを完成させる 12 クロスステッチ 実習 1 クロスステッチの布や針の説明 図案の読み方 刺し方実技の説明 基本的な刺し方の実習 13 クロスステッチ 実習 2 クロスステッチをはめ込むポーチを制作する オリジナルの図案・配色を考える (図案作成の資料収集のためにパソコンやスマートフォンを活用する) クロスステッチ実習 14 クロスステッチ 実習 3 クロスステッチ実習 15 クロスステッチ 実習 4

	クロスステッチの仕上げ方説明 クロスステッチをはめ込むポーチを完成させる
到達目標・基準	◎E：基礎刺しを正しく理解した上で図案を構成し刺繍で表現できる。
事前・事後学習	事前学習：刺繍の技法や作品について調べる。配布されたプリントを読む。(20分) 事後学習：授業終了後には学習した刺繍の技法を確認し課題の完成に努める。(25分)
指導方法	サンプラーを標準として示し、基本的な刺し方・用具の取り扱い方・図案の写し方を指導する。刺繍技法は小グループに分かれ実習指導をする。 フィードバックの仕方：①実習 ②作品提出 ③採点（評価）返却 ④質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：作品の完成度を評価する。 作品80% 授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布。
参考書	
履修上の注意	授業時間内での完成を目指すが、期日までに提出できない場合は各自で時間外に実習を進めること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小松千佳			
ナンバリング：F22C26			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 日本の和装や装身具の歴史に触れながら装飾に関わる日本工芸技術である、つまみ細工を中心に技法を体得する。 (授業目標) 日常生活や式典など、実際に自身が装着することを想定とした課題の中で、身につけた技法を取り入れたデザインを構築し、実制作まで行う。 (学習成果) ○D：つまみ細工の技法を学び実践的に応用し、独自の発案と共にアウトプットできる。 ◎E：基礎技術をもとに、独創的な制作ができ、かつ言語化できる。
授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明）・和小物について 「日本の装身具の歴史・制作準備」 2 つまみ細工技法の説明 「つまみ細工の基本技法（剣つまみと丸つまみ）」 3 つまみ細工技法を用いた制作 「つまみ細工の基本①（装身具の実制作）」 4 つまみ細工技法を用いた制作 「つまみ細工の基本②（装身具の実制作）」 5 つまみ細工技法を用いた制作 「つまみ細工の基本③（装身具の実制作）」 6 つまみ細工技法を用いた制作 「つまみ細工の基本④（装身具の実制作）」 7 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作①」 8 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作②」 9 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作③」 10 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作④」 11 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作⑤」 12 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作⑥」 13 髪飾りのデザインと制作 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作⑦」 14 髪飾りのデザインと制作、プレゼンテーション準備 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作⑧・展示準備」 15 展示・プレゼンテーション 「制作作品の発表とフィードバック」
到達目標・基準	○D：それぞれの技法の基礎を身に着けられる。 ◎E：自分の考えをデザインにし、形にすることができる。
事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。(20分) 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補習と確認。(25分)
指導方法	パワーポイントや映像などで基本的知識の講義を取り入れながら、制作を中心に進行する。毎時の進行状況や成果物は随時レポートする。 フィードバックの方法：①課題を提示、②課題提出、③評価及び改善点を記入し返却、④評価内容に関する質疑応答

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：基礎力の定着度、デザイン発案の内容を評価。 E：制作物や展示、プレゼンテーションのクオリティと内容を評価。 課題60%、展示、プレゼンテーション20%、授業態度と貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント等配布
参考書	授業内で提示
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチやアーカイブ、制作などがある為、必要に応じてノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリントが配布される場合がある為、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	制作、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小椋啓司			
ナンバリング：F22C27	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) リングやネックレス、ブレスレットなど、普段使いできるアクセサリーの課題制作を行うことで、金属材料からつくる彫金技法での基礎的な制作技術を体験・学修する。また制作の過程で素材や流通の知識を学ぶ。講義全体の前半部分では基礎を学び、後半部分では応用としてオリジナリティある作品のデザイン、制作を行う。 (授業目標) 基礎的なアクセサリーの制作技術を理解した上で、様々なデザインや素材に触れ、自由な発想でオリジナルのアクセサリー制作を行う。 (学習成果) ◎E：金属材料によるアクセサリー制作の基礎技法を理解し、応用してオリジナルデザインの制作ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業概要・各課題の説明、工具の知識、評価方法の説明 (実習:2～14回)</p> <p>2 シンプルデザインのリング制作 (実習:2～14回) 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作</p> <p>3 シンプルデザインのリング制作 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作</p> <p>4 ロストワックス技法による金属パーツの原型制作 ロストワックス技法の説明、デザイン、原型制作</p> <p>5 ワックス原型制作 デザイン、原型制作</p> <p>6 刻印を用いたバングル制作 オリジナルのメッセージを刻印したバングルを制作</p> <p>7 リング制作応用 ワイヤーを用いたオリジナルデザインリングの制作</p> <p>8 チャームアクセサリーの制作 ロストワックス技法により鋳造された金属パーツのアクセサリーへの組み立て</p> <p>9 オリジナルセットアクセサリーのデザイン (1) デザインシート作成</p> <p>10 オリジナルセットアクセサリーのデザイン (2) デザインシート提出、素材集めなど</p> <p>11 オリジナルセットアクセサリーの制作 (1) 制作方法の説明</p> <p>12 オリジナルセットアクセサリーの制作 (2) 2アイテム以上のアクセサリーの制作 (1)</p> <p>13 オリジナルセットアクセサリーの制作 (3) 2アイテム以上のアクセサリーの制作 (2)</p> <p>14 オリジナルセットアクセサリーの制作 (4) 2アイテム以上のアクセサリーの制作、仕上げ、提出</p> <p>15 作品講評 学生評価を加味した上で選定した優秀作品制作者によるプレゼンテーション。 展示した作品をビデオでプロジェクターへ投影し、デザインのポイントや作品のコンセプトなどを説明する。</p>
到達目標・基準	◎E：課題に沿った内容の基礎的なアクセサリー制作をすることができる。
事前・事後学習	事前学習：アクセサリー専門店や展示会などで実物に触れてみる。(30分) 雑誌やインターネットなどでアクセサリーの多様なデザインを知る (30分) 事後学習：各課題に対する制作方法の手順について参考資料を見直し復習する。(30分)
指導方法	各課題の実習の際に、プロジェクターでの動画紹介や配布資料による説明を行う。 各課題終了時に完成した課題作品を提出してもらい評価をする。

	フィードバックの仕方：課題制作の詳細については担当講師が制作実演、またサポート、デザインなどのアドバイスを行う。 オリジナル作品課題について、講師より作品への評価、アドバイスをコメント記載し、返却する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：それぞれの提出課題と、オリジナリティを求めて授業へ取り組む姿勢を評価する。 課題提出80%、授業姿勢20%、
テキスト	なし プリント資料を配布
参考書	各ファッション雑誌、SNSなど
履修上の注意	細やかで地味な作業もある集中力のいる実習であることを理解したうえで受講すること。 積極的な好奇心と自由な発想でもって制作に取り組むこと。 薬品や火器、その他怪我をする可能性のある工具による作業があるので、十分に注意して作業に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C30	実務家教員による授業		
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>(授業内容) 小中高校でも金融について学ぶ時代となった今、将来は企業に就職するだけでなく、副業、起業、個人事業などワーキングスタイルは多様化していく。労働に対して報酬を受け取るという受け身の姿勢から、自分自身が経営者の視点を持ち利益創出を目指す事も求められていく社会になる。そこで自分自身の価値を最大限発揮できる仕事をするためには、ビジネスについての広く深い知識を持つ事が必要不可欠となる。講義ではビジネスの基本となる「会社」について深く学ぶ。会社とは何か？会社の使命は何か？会社のしくみは何か？など会社を経営する視点から組織についての理解を深める。株式、金融、暗号資産、メタバースなど新たな時代の会社経営の知識にも触れる。</p> <p>(授業目標) 身近なファッション、ビューティ、ウエディングなどの業界の企業を例に学びながら、自然に経営的視点を身に付ける。</p> <p>(学習成果) ◎D：会社のしくみを理解し、組織図を読み解く事ができる。事業計画書や決算書などを読み解く事ができる。 ○C：企業情報から経営状態を分析したり、今後の方向性を示す事ができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 この授業で学べる事 経営を学ぶ事により、自分の将来の働き方について軸のある計画を立てられるようになる。経営学がもたらしてくれる恩恵について学ぶ。</p> <p>2 会社って何だろう？(オンデマンド予定) 会社という概念とその社会的意義。何のために会社は存在するのか？を学ぶ。</p> <p>3 企業理念は何故必要なのか？ どの企業にもある企業理念。その目的をミッション、ヴィジョン、バリューの三段階に分けて役割と具体事例を学ぶ。</p> <p>4 会社を構成する人達1 トップマネジメント、ミドルマネジメント、スタッフという3層に分けて会社に属する役割と立場を学ぶ。</p> <p>5 会社を構成する人達2(オンデマンド予定) 組織図を見ながらそこで働く人達がどのような役割でどのような仕事をするのか、職種別に学ぶ。</p> <p>6 人事異動と人事評価 会社に勤めると必ずしも希望する職種の仕事ができるわけではない。同時に働く場所も異動の事例が出ることもある。組織を運営するために、何故転勤や異動があるのかを考える。また社員の評価はどのようにすると平等性やモチベーションがあがるのかを探る。</p> <p>7 会社の種類 よくみかける「(株)」という言葉。これが意味することは何か？4つの会社の種類とその違いを学ぶ。</p> <p>8 会社の1年 学校に学年があるように企業にも一年という営業期がある。1年を4つに分割して経営を計画していく企業ならではの1年間の動きを学ぶ。</p> <p>9 会社に入るお金、出るお金(オンデマンド予定) 会社を経営するためには売上利益が必要だが、会社を維持するためには必要な経費もある。入るお金、出るお金のバランスをどうとっていくか。具体的事例を通じて学ぶ。また経営に必要な事業計画書のしくみを学び、計画的な経営手法を通じて企業経営の哲学を学ぶ。</p> <p>10 決算書という答合わせ 経営が健康に営まれているかどうかを見極めるために、決算書のしくみと読み方を学ぶ。それにより、一般企業の経営状態も読み取れるようになる。</p> <p>11 メタバースと暗号資産 デジタル時代に特有なメタバースの世界観とビジネスへの応用、また資産価値としての暗号資産のしくみと経営への活用方法を学ぶ。</p> <p>12 企業経営研究1 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。</p> <p>13 企業経営研究2 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。</p> <p>14 企業経営研究3(オンデマンド予定) 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。</p> <p>15 経営学から学んだ事 14回の授業を通じて学んだ経営的視点が自分の生活にどのような変化を生んだのか、またその経験を今後の就職活動にどのように生かせるかを振り返る。</p>

到達目標・基準	◎D：会社のしくみを理解し、自分の就職活動に役だてる事ができる。 ○C：会社の特徴や個性を理解し、自分の適性に照らし合わせる事ができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの指定されたページを読み込み、知らない語句について調べておく(90分) 事後学習：前回の授業で出た課題を行う(90分)
指導方法	就職活動で「会社」を選ぶ際に、実は会社という組織そのものについての詳しい知識がない事が多い。多様性の高い社会で働く将来のためにも、会社についての知識を高めながら、同時に会社の価値や働き方についての思考力、判断力を磨いていく。 難解に捉えられている経営学を、日常の視点に置き換えてわかりやすく指導する。 理解に欠かせないディスカッションや意見の共有などアクティブ・ラーニングを中心に経営理論が自然に身に着く手法を取り入れている。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答(オンラインでも実施)
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題の提出率と内容による評価 ○C：課題の提出率と内容による評価 定期試験50% 授業への貢献度・積極性：20% 課題：30%
テキスト	ベーシックマネジメントスタディーズ 日本ホスピタリエ協会
参考書	無し
履修上の注意	対面授業が基本だが、月1回オンデマンドで授業を行う。詳細は授業計画に記載、及び初回授業で説明をする。資料作成やグループディスカッションなど主体的な姿勢で授業に臨む学生を歓迎します。自分の価値を最大限発揮できる仕事を目指す人に役立つ内容です。将来、より自由によりアクティブに仕事を楽しめるようになるための基本となる知識を得ることができます。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13C31	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ファッションビジネス検定3級のテキストを使用しながらアパレルの基礎を学び、ファッションビジネスの変遷に伴うアパレル業界の仕組みの変化を理解する。 (授業目標) ファッショントレンドと商品のライフサイクルの関係をマーケティング面・マーチャンダイジング面にて理解する。アパレル会社の利益構造も理解しながら今後のファッション産業の展開を予測する。 (学習成果) ◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題解決策や行動計画を提案できる。		
授業計画	1	ファッション業界研究 本講義の概要説明、ファッション基礎用語解説、ファッション業界の現状について 3-8回は”ファッションビジネス3級”教材を使用しファッションビジネスの基礎を習得する	
	2	ファッションビジネスの変遷 日本のファッション業界の歴史および仕組みについて ファッション業界の将来予測 (課題)	
	3	ファッションビジネス [I] 第1章について ファッションビジネスの概要について 小テスト	
	4	ファッションビジネス [I] 第2章について ファッション消費と消費者行動について 小テスト	
	5	アパレル産業と小売産業について ファッション流通について 小テスト	
	6	ファッションビジネス [I] 第4章について ファッションマーケティングについて 小テスト	
	7	ファッションビジネス [I] 第5章について ファッションマーチャンダイジングについて 小テスト	
	8	ファッションビジネス [I] 第7章について ビジネス基礎知識について 小テスト	
	9	アパレルマーチャンダイジングのフロー (PBL) ファッショントレンドと商品及びブランドのライフサイクル、商品企画から生産管理の流れについて 長生きファッションブランドの商品戦略をリサーチ及び考察する (課題)	
	10	ファッションマーケティングの実務 (PBL) ファッションビジネスのプレス・広告宣伝活動 ファッション雑誌タイアップページ分析 (課題)	
	11	マーチャンダイジングの知識 1 (PBL) SPAアパレルの年間52週のMD戦略について 年間型数表作成 (課題)	
	12	マーチャンダイジングの知識 2 (PBL) 月度のアイテム計画とVMDについて 月度MD表作成 (計算課題)	
	13	アパレル会社の収益構造 (PBL) SPAアパレルの特徴及び店舗の収支計画について 月度収支計画プラン作成 (計算課題)	
	14	XR領域 ゲスト講師 (嶋野様) による” 出版社が取り組むXR領域 (V R , AR, web3など) に関する講演 XR領域が一般化したファッション業界を予想する (課題)	
	15	今後のファッション業界の展望	

	これからのファッション業界について アンケート 期末試験に向けての振り返り
到達目標・基準	◎D：日本のファッション業界の仕組みを説明できる。
事前・事後学習	事前学習；ファッション誌やファッションサイト等で最新のファッショントレンドの知識を深めておくこと。 課題・小テスト対策として、次回授業計画の内容を調べておく（60分）。 事後学習；実店舗やECサイトを企業と顧客、双方の視点から分析すること（120分）
指導方法	パワーポイントや画像を使用し講義形式で行う。毎回授業内での小テストの提出、および課題提出がある。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：課題・定期試験を評価する。 定期試験40%、課題30%、小テスト15%授業、態度・貢献度15% クラスルーム課題にてフィードバックする。
テキスト	ファッションビジネス3級 新版 （日本ファッション教育振興協会）
参考書	ファッションビジネス [I] 一般財団法人 日本ファッション教育振興協会 前半にて使用 授業内で指示する。
履修上の注意	毎日 テレビ・インターネット・SNSなどで最新のファッションやビジネスに関する情報を得ておくこと。 また、今後のファッションビジネスの可能性と変化に興味を持つこと。 パソコン使用（パワーポイント・エクセル・ワード）
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C32	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) 「卒業したら就職」という従来の選択肢から「卒業したら起業」という選択肢もある時代に、アントレプレナーという起業家の視点から起業について学ぶ。</p> <p>(授業目標) 学生生活の身近なテーマから商品企画や販売方法などを自ら考え、ビジネスモデルを構築する。</p> <p>(学習成果) ◎A：アントレプレナーに求められる主体性を磨き、他責ではなく自己責任を負う視点からビジネスモデルを構築することができる。 ◎C：ビジネスを成功させるために、客観的視点を持ち、冷静な分析や明確なビジョンを創り出すことができる。</p>		
授業計画	1	アントレプレナーという働き方を知る 起業するとはどういうことか？起業するのに必要な考え方は？	
	2	会社を作るためにこれだけは必要 会社設立に最低限必要な物や手続きとは？	
	3	売るものを考える《ワークショップ1》 会社の利益を生み出す商品。まずはどんな商品売るのがよいのかをワークショップを通じて考える。	
	4	売るものを考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、商品企画、商品製造について学ぶ。	
	5	売る相手を考える《ワークショップ2》 ビジネスはターゲットを絞り込み、詳細な分析をする事が成功の基になる。自分の商品はどんな人達に向けて売りたいのかをワークショップを通じて考える。	
	6	売る相手を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、ターゲットの絞り込みと特徴について学ぶ。	
	7	売り方を考える《ワークショップ3》 店舗展開、ECなど商品の売り方はさまざま。資金や経験がない環境でどんな売り方があるのかをワークショップを通じて考える。	
	8	売り方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、販売戦略、販売方法について学ぶ。	
	9	広め方を考える《ワークショップ4》 広告やSNS発信など、自分の商品をどのようにして認知してもらうかをワークショップを通じて考える。	
	10	広め方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、広告手法について学ぶ。	
	11	売り続け方を考える《ワークショップ5》 ビジネス設計の時点からリピーターを想定することはビジネスの必須要素。ワークショップを通じてリピーターをどう創出するかを考える。	
	12	売り続け方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、リピーターが生まれやすいビジネスモデルについて学ぶ。	
	13	起業のドレスリハーサル1 個人又はグループで商品企画、ターゲティング、販売戦略、広告戦略、再来のしくみというプロセスに沿って起業の青写真を作成する。	
	14	起業のドレスリハーサル2 個人又はグループで作成した事業計画のプレゼンテーション	
	15	起業のドレスリハーサル3 個人又はグループで作成した事業計画のプレゼンテーション	
到達目標・基準	◎A：アントレプレナーの精神を理解できる ◎C：企業がどのように誕生するのかのプロセスを理解できる		
事前・事後学習	事前学習：テキストの指定されたページを読み込み、知らない語句を調べておく(90分) 事後学習：毎回出される課題を行う(90分)		

指導方法	身近な出来事をヒントにし、起業という一見難しそうな出来事を具体的事例を交えながらわかりやすく指導する。ワークショップと理論を交互に学ぶ事によってより実践的な学びができる。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答（オンラインでも実施）
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：課題と成果物による評価。 ○C：課題と成果物による評価 定期試験50% 授業への貢献度・積極性：20% 課題：30%
テキスト	アントレプレナーとイントラプレナーのためのスタートアップマニュアル 日本ホスピタリエ協会 必要に応じてプリント
参考書	無し
履修上の注意	将来起業やEC（イーコマース）などを考えている学生には役立つ内容です。起業には興味がなくても、起業の視点を学ぶ事により組織での仕事のレベルが上がります。資料作成やグループワークにおける発表など積極的に授業に取り組む学生を歓迎します。【関連する科目】経営学入門（1年前期）／ウエディングナビゲーション（1年前期）
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F23C33	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容)</p> <p>トレンド分析によりマーケットの変化を予測し、ブランドプロデュース業務の各段階を理解するために、簡単なポートフォリオを作成し方法論を習得する。ブランド運営に必要な視点も養い、時代に合ったファッションブランドを立案することを目的とする。</p> <p>(授業目標)</p> <p>ファッションブランドプロデュースにおいて、アパレル業界の基礎知識を習得した上で特にSPAアパレル業態での事例を論理的に理解することを目標とする。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題解決策や行動計画を提案できる。</p>		
授業計画	1	ブランドプロデュースとは 本講義の概要説明、アパレルブランドプロデュースについて、アパレル基礎知識及び職種について	
	2	ファッション業界の現状 ブランドプロデュースケーススタディー、アパレル業界の仕組みについて	
	3	既存ブランド分析 ハイブランド・SPAブランド・個人ブランドなどのアパレルビジネスについて	
	4	ブランドコンセプト アパレルブランドのコンセプト設定について	
	5	ターゲット アパレルブランドのセグメンテーションとターゲティングについて	
	6	コレクションブランド分析 トレンドの流れ、コレクションブランドのトレンド分析手法の解説及びトレンドイメージマップ作成（課題）	
	7	商品企画 商品イメージに基づく商品企画の手法解説、コンセプトワークイメージマップ作成（課題）	
	8	マーチャンダイジング 主にSPAアパレルのマーチャンダイジングについて	
	9	店舗設計とVMD（PBL） 販売チャンネルとショップ内装プラン及びVMDについて、ショップイメージマップ作成（課題）	
	10	広告宣伝・販売促進（PBL） アパレルブランドのプレス及びプロモーションプラン活動について	
	11	ブランドのセグメント及びポジショニング（PBL） オリジナルブランドでどのマーケットを狙うのかを考察しポジショニングマップ作成	
	12	オリジナルブランド企画1（PBL） オリジナルブランドのコンセプトワーク（コンセプト・ターゲット設定）作成	
	13	オリジナルブランド企画2（PBL） オリジナルブランドの商品イメージマップ作成	
	14	オリジナルブランド企画3（PBL） オリジナルブランドのスタイリングプラン作成	
	15	オリジナルブランドレビュー（ゲスト講師） 外部現役ブランドプロデューサーによる学生オリジナルブランドの講評及び実際のオリジナルブランド運営業務内容についての講演	
到達目標・基準	◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題を理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館において指定されている書籍やファッションブランドに関する知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアをもとにアップデートすること。（90分）		
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚的媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。		

	テーマ単位で理解確認のため小テスト実施や課題制作をする。 現役の専門職講師による講演等を用意しファッション業界の現状理解を促進させる。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：最終課題を評価する 最終課題40%、課題40%、授業態度・貢献度20% クラスルーム課題にてフィードバックする。
テキスト	なし 参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典やVOGUE、ELLEなどのファッション雑誌を一読すること。 授業内PC使用（主にパワーポイント） 1年前期「ファッションビジネス論」の単位取得済みであることが本科目の履修の条件となる。 1年後期「ブランドプロデュース演習」は、本科目を単位取得済みであることが履修の条件となる。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服飾：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F33C32	実務教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ブランドプロデュース論で作成した自己のファッションブランドのコンセプトワークを基に、時代の流れを理解した上でデザイン商品企画・MD・セールス・プロモーションプランなどの実践的なブランドポートフォリオを作成することを目的とする。 (授業目標) 自己ポートフォリオを基に、理論的にプレゼンテーションする手法を習得できる。 (学習成果) ◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題解決策や行動計画を提案できる。 ◎E：自分の考えを資料に落とし込み、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 マイブランド企画演習について 本講義の概要、 マイブランド企画のポートフォリオ作成の解説 1年後期ブランドプロデュース論コンセプトワーク課題の確認</p> <p>2 マーケット状況分析による今年のF/Wをイメージするシーズンテーマ及びスタイリング企画 (PBL) マイブランドのコンセプトワークに基づくシーズンイメージマップ作成及びスタイリングイメージマップ3体作成 (写真コラージュ)</p> <p>3 マイブランド企画1 (F/Wスタイリングイメージの基づくファブリケーション) (PBL) スタイリングイメージに基づく素材・カラー展開設定及びファブリケーションイメージマップ作成</p> <p>4 マイブランド企画2 (カットソー・シャツデザイン展開及びABC分析) (PBL) 企画書1作成 (3型 × 2素材 = 6型) 平絵にて描繪</p> <p>5 マイブランド企画3 (ボトムスデザイン展開及びABC分析) (PBL) 企画書2作成 (3型 × 2素材 = 6型) 平絵にて描繪</p> <p>6 マイブランド企画4 (アウターデザイン展開及びABC分析) (PBL) 企画書3作成 (3型 × 2素材 = 6型) 平絵にて描繪</p> <p>7 マイブランド企画5 (アクセサリデザイン展開及びABC分析) (PBL) 企画書4作成 (シューズ・バッグ・アクセなど 6型) 平絵にて描繪</p> <p>8 プレゼンテーション1 マイブランドのコンセプトワーク及びデザイン展開プレゼンテーション</p> <p>9 マイブランド企画MD1 (VPスタイリング企画 3体) (PBL) スタイル画にて表現する 描繪</p> <p>10 マイブランド企画MD2 (カットソーMD) (PBL) カットソーアイテムのMD構成</p> <p>11 マイブランド企画MD3 (PBL) ボトムスアイテムのMD構成</p> <p>12 マイブランド企画MD4 (PBL) アウター・アクセサリアイテムのMD構成</p> <p>13 マイブランドの販売戦略プラン マイブランドの路面店出店プラン及び販売戦略プラン作成</p> <p>14 マイブランドのプロモーションプラン マイブランドのプロモーションプラン作成 期末課題確認及び提出</p> <p>15 プレゼンテーション2 マイブランドのプレゼンテーション及び講評</p>
到達目標・基準	◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題を理解できる。 ◎E：自己ブランドにおける自分の考えを人前で説明することができる。

事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス誌、インターネット、店舗調査などから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容を基にファッションブランドの企画・運営についてまとめる（25分）。
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら個人ワークをワークショップ形式で行う。 個別プレゼンテーションを積極的に実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：最終課題及び課題を評価する E：プレゼンテーションを評価する 最終課題40%、課題40%、授業態度・貢献度20% クラスルーム課題にてフィードバックする。
テキスト	なし 参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション関連やVOGUE、ELLEなどのファッション雑誌を一読すること。 授業内PC使用（主にパワーポイント） 1年後期「ブランドプロデュース論」の単位取得済みであることが本科目の履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服飾：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F33C33	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 本講義の履修修得が条件となるファッションデザイン論では、ファッションデザインの中でも主にアパレルデザインに重きを置き、ファッションブランドの商品企画の手法を理解及び修得する。 (授業目標) ファッションブランドの実際のデザインワークをケーススタディ的に実践する。主にスタイル画及び平絵を作成しながら企画デザイナー職の採用面接に必要なポートフォリオを最終的に作成することができる。 (学習成果) ◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題解決策や行動計画を提案できる。 ◎E：アパレル商品企画の手法を実践しイメージ通りに絵にて表現できる。
授業計画	1 本講義の概要説明 ポートフォリオ解説 ポートフォリオ作成導入編として、手持ちの課題等で自己ポートフォリオを作成開始する 2 ファッションデザイナーの実務解説 現役ファッションデザイナー（ゲスト講師：渡辺舞）によるデザイナーの業務解説 実際のブランドでのファッションデザインのケーススタディー スタイル画課題（次週用） 3 スタイル画作成（PBL） 現役ファッションデザイナー（ゲスト講師：渡辺舞）によるスタイル画演習 ファッションデザイナーの実務としての方法論を各学生の課題を見ながら解説する 4 平絵作成（PBL） 現役ファッションデザイナー（ゲスト講師：渡辺舞）による平絵演習 前週のスタイル画に基づくアイテムの平絵作成 各学生の授業内ワークを見ながら解説する 5 春夏素材 トップスデザイン展開（PBL） 実際の春夏用生地スワッチをもとにトップスのデザイン展開をイメージし平絵にて表現する （描絵） 6 秋冬素材 ボトムスデザイン展開（PBL） 実際の秋冬用生地スワッチをもとにボトムスのデザイン展開をイメージし平絵にて表現する （描絵） 7 今年度の F/W トレンド分析 コレクショントレンド分析およびストリートやライフスタイルからのトレンド分析及び予想イメージマップにて表現する （パワーポイント使用） 8 スタイリングを構成する同素材デザイン展開（PBL） F/Wトレンドイメージの中の代表的なスタイリングを決めて、そのスタイリングを構成するアイテムの同素材デザイン展開をする （描絵） 9 ファッションブランド研究 ポートフォリオを提出する先のファッションブランドに対する包括的なブランド分析を行いその内容を表現する。 （パワーポイント使用） 10 ファッションブランドに対するS/S商品企画提案（PBL） 前回で設定したファッションブランドに対してS/Sの商品企画提案書を作成する （描絵 及び パワーポイント使用） 11 ファッションブランドに対するF/W商品企画提案（PBL） 前々回で設定したファッションブランドに対してF/Wの商品企画提案書を作成する （描絵 及び パワーポイント使用） 12 今年のアウター企画（PBL） 今年F/Wのトレンドを盛り込んだアウターアイテムの企画デザインを平絵にて表現する （描絵） 13 今年ワンピース企画（PBL） 今年F/Wのトレンドを盛り込んだワンピースアイテムの企画デザインを平絵にて表現する （描絵） 14 今年ボトムス企画（PBL） 今年F/Wのトレンドを盛り込んだワンピースアイテムの企画デザインを平絵にて表現する

	<p>(描繪)</p> <p>15</p> <p>ポートフォリオ作成まとめ・提出</p> <p>前回までの課題をまとめ就活用ポートフォリオを作成する及び提出 (期末課題)</p>
到達目標・基準	<p>◎D: 『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題を理解できる。</p> <p>◎E: アパレル商品企画を絵にて表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習: 授業内課題作成に向けての事前準備や頭の中でのイメージトレーニングをしておくこと。(90分)</p> <p>事後学習: 作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを検証し修正しておくこと。(90分)</p>
指導方法	<p>講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら演習形式で行う。毎回テーマごとに進めていき、描繪での表現を含みポートフォリオを学生レベルに合わせてシナリオ的に作成していく。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D: 最終課題を評価する E: ポートフォリオを評価する</p> <p>最終課題50%、授業内課題30%、授業態度・貢献度20%</p> <p>クラスルーム課題にてフィードバックする。</p>
テキスト	<p>授業内で随時指示する。</p>
参考書	<p>なし</p>
履修上の注意	<p>スタイル画及び平絵作成(絵を描く)、PC(パワーポイント)使用</p> <p>1年後期「ファッションデザイン論」の単位取得済みであることが本科目の履修の条件となる。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>PBL型授業</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C36	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ファッション小売業において、良い商品、価値のある安さの提供は、どの店舗でも当たり前であり、店の差別化の条件とはいえなくなってきた。そのため、お客様に豊かな衣料サービスを提供できる販売スタッフが求められている。本講義では、ファッション販売に必要な接客技術や事務管理、商品知識、売場づくりの方法について解説する。また、ファッション小売業の現状と課題、進展についても取り上げて講義を行う。7月、12月に実施される「ファッション販売能力検定3級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ファッション業界で活躍できる人材として「ファッション販売能力検定3級」程度の知識を修得する。 (学習成果) ◎E：ファッション小売業における現状と課題について、日々のニュースや店舗調査などから、理解を深めることができる。
授業計画	1 ファッションビジネスの知識 ファッション産業の分類について 2 ファッション小売業の業態（1） 百貨店、専門店の特徴について 3 ファッション小売業の業態（2） SPAとセレクトショップの企画、組織形態の違いについて 4 アパレル業界の職種 アパレル業界の組織形態、本社スタッフと売場スタッフの役割について 5 ファッション小売業のマーケティング戦略 セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの設定について 6 コンセプトの策定 トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、営業計画の策定について 7 売場構成、商品陳列の基本知識 VMDにおける3つの手法、空間構成の種類、商品陳列の基本技術について 8 購買心理の7段階 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて 9 ファッション小売業における計数管理（1） 予算比、前年比、客単価について 10 ファッション小売業における計数管理（2） 値入高と粗利益、商品回転率と交差比率について 11 ファッション商品の知識 アイテム・デザインによる分類、ディテール、シルエット&ラインについて 12 素材の知識 素材の種類、その長所と短所、柄について 13 サイズ・品質表示 サイズの読み方、組成表示、取扱表示、原産国表示、品質マーク表示について 14 店舗調査の項目と方法 売場概略、商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客像、接客サービスについて 15 売れる販売員とは（PBL） 店舗調査を通して、売れる販売員の特徴やスキルを考察する
到達目標・基準	◎E：ファッション販売員に必要な基礎知識である業務内容、商品知識、売場づくりの方法について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースや店舗調査などからアパレル小売業の現状に触れる。分からない専門用語を調べてまとめること（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュース、店舗調査内容をまとめる（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト課題実施、②小テスト課題実施後における質疑応答

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験50%、小テスト課題30%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「ファッション販売3 ファッション販売能力検定3級公式テキスト」大沼淳著、一般財団法人 日本ファッション教育振興協会発行 「ファッション販売3 ファッション販売能力検定試験3級公式問題集」一般財団法人 日本ファッション教育振興協会発行
履修上の注意	日頃から店舗調査を行い、アパレル小売業の現状に触れることで、授業で学んだを知識を感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C37	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 近年、小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、小売業者による生活者ニーズに合った店づくり、商品の品揃えなど満足のいく対応が求められている。本講義は、流通における小売業の基本的役割を理解し、流通経路の重要性や店舗形態別小売業の特徴、計数管理や売場陳列の基本を明らかにしながら、店舗運営の重要性について解説する。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 (学習成果) ◎D：流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題について、自分の考えを述べるができる。
授業計画	1 流通とは何か 流通のしくみ、小売業の機能と役割について 2 店舗形態別小売業の基本的役割（1）百貨店と専門店 百貨店の課題と取り組み、専門店の種類について 3 店舗形態別小売業の基本的役割（2）量販店 チェーンストア展開によるスケールメリットについて 4 店舗形態別小売業の基本的役割（3）コンビニエンスストア 出店方法と運営上の特徴、本部と加盟店の関係について 5 組織形態別小売業の基本 レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの特徴について 6 無店舗販売の形態 訪問販売、移動販売、通信販売の特徴、O2OからOMOの変遷について 7 ショッピングセンターの現状と課題 商圏別分類と特徴について 8 小売業におけるマーケティング戦略 外部環境と内部資源の把握、標的市場と商圏の設定について 9 マーケティング・ミックスの構築 商品構成、価格設定、流通、販売促進について 10 戦略的な価格政策と心理的価格政策 消費者心理に基づいた価格政策について 11 売場における計数管理 予算比、前年比、客単価、買上率について 12 商品陳列の基本知識 陳列器具と販売方法における基本陳列の種類について 13 VMDの基本 売場におけるVMDの手法について 14 売上を上げる店舗運営とは（PBL） 実店舗の売上高を前年比105%にするために必要な店舗運営とは 15 流通業の課題 マーケティング5.0における顧客体験価値について
到達目標・基準	◎D：流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題を明確にできる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新製品や店舗運営に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト課題実施、②小テスト課題実施後における質疑応答

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験50%、小テスト課題30%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「販売管理」の2科目を同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②学期末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C38	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容)</p> <p>小売業における販売管理とは、事務管理から人事管理、法規、経営に関する分野まで多岐にわたる。本講義は、販売員の知識として必要な法規から経営に関する計数管理について解説していく。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>(授業目標)</p> <p>流通業界における販売員や店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。</p> <p>(学習成果)</p> <p>◎D：小売業経営に必要な人事管理、財務諸表の見方、販売活動に関する法規の知識を理解し、販売管理の重要性と課題を述べることができる。</p>		
授業計画	1	販売員の目的と役割 販売員と顧客の関係、クレームや返品への対応について	
	2	購買心理の8段階 顧客心理と接客販売技術について	
	3	顧客管理の基本的役割 顧客満足経営の基本知識、FSP（フリークエントショッパーズプログラム）について	
	4	販売員の法令知識（1）小売業に関する法規 事業の許認可に関する法規、小売業の適正確保に関する法規の変遷について	
	5	販売員の法令知識（2）販売活動に関する法規 割賦販売法、品質表示、景品表示法について	
	6	販売員の法令知識（3）環境に関する法規 各種リサイクル法と販売店の課題について	
	7	包装技術の基本 包装の種類と方法、慶弔進物の基本知識について	
	8	ディスプレイ効果を高める色彩の活用、店舗照明の基本 色の持つ特性、照明による演出について	
	9	POSシステム POSシステムのしくみ、販売データの活用方法について	
	10	在庫管理の意義 過剰在庫の発生原因、商品回転率と交差比率について	
	11	小売業における組織の基本原則 企業における組織形態、組織の基本原則について	
	12	小売業における従業員管理 職場の人事管理、人時生産性について	
	13	顧客管理の意義（PBL） 自分の固定客を年間で50名増やすためには、どのような仕掛けが必要か	
	14	損益計算書の見方 4つの費用と5つの利益、損益分岐点売上高の計算方法について	
	15	貸借対照表の見方 流動比率、当座比率、固定比率、固定長期適合率、自己資本比率の計算方法について	
到達目標・基準	◎D：小売業経営に必要な知識を理解し、販売管理の重要性を述べることができる。		
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で小売経営や販売に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト課題実施、②小テスト課題実施後における質疑応答		

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する小テスト課題、受講態度および授業への貢献度によって評価する。 定期試験50%、小テスト課題30%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「店舗運営」の2科目を同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②学期末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F23C37	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 現代の企業経営では、“マーケティングなくして経営なし”と言われるように、マーケティングは不可欠な位置づけにある。企業のマネジメントを遂行するためには、マーケティング機能をいかに統合的に組み合わせて展開するかが課題である。本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割やポイントについて理解を深める。 (授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解し、自分の見解や主張をまとめることができる。 (学習成果) ◎C：企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例を挙げ、理論に基づいた現状分析を行い、課題に対する解決方法を述べるができる。
授業計画	1 マーケティング環境の分析 SWOT分析とポーターの5つの競争要因について 2 顧客価値と顧客満足 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係、コストパフォーマンスについて 3 リレーションシップ・マーケティング パレートの法則、CRM（カスタマーリレーションシップマーケティング）について 4 サービス・マーケティング サービスの特性（無形性、同時性、消滅性など）、優れたサービスの定義（SERVQUAL）について 5 価格戦略 内的参照価格、消費者心理を考慮した価格政策について 6 流通戦略 4Pから4Cへ、売上に対する適切な家賃比率、二毛作ビジネスについて 7 販売促進の逆効果 流通における販売促進の3分類、値引きのネガティブ効果について 8 売上動向の把握 商品回転率と交差比率を活用した利益貢献度分析の方法について 9 経験価値マーケティング SENSE（感覚）、FEEL（喜怒哀楽）、THINK（思考）、ACT（行動）、RELATE（交流）について 10 ブランド戦略 ブランド要素、ブランド拡張、ブランド・エクイティ（資産価値）について 11 ラグジュアリーブランド戦略 ラグジュアリーとは何か、ラグジュアリーが持つ特性、4つの希少性について 12 不正競争防止法 周知なマークの不正使用、形態コピー商品の不正競争の規制、ステルスマーケティングについて 13 ソーシャル・マーケティング 企業の社会的責任（CSR）、コーズ・リレーテッド・マーケティングについて 14 継続企業の前提（1）（PBL） 100年続く企業の特徴について 15 継続企業の前提（2）（PBL） 将来にわたって事業継続していくために必要な条件について
到達目標・基準	◎C：企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例を挙げ、理論に基づいた現状分析を行い、課題を明確にできる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと（90分）。 事後学習：興味ある新聞記事やニュース内容をまとめておくこと（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト課題実施、②小テスト課題実施後における質疑応答

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：定期試験、理解力を確認するため実施する小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。定期試験40%、小テスト課題40%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「基礎コース マーケティング」小原 博著、新世社出版
履修上の注意	日頃からニュースなどで企業が取り組むマーケティング戦略を確認しておくことで、マーケティングの基本的な発想法を単なる知識としてではなく、感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F23C38	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ファッションの「表現」や「買い方」は、この10年間で大きく変容し多様化した。「服」は脇役となり、日本のファッションビジネスはいまや変革の時期を迎えている。本講義は、ファッションスタイルの視点からより豊かなライフスタイルを提案できるようになることを目的に、時代別・年代別のファッションコミュニケーション表現についてあらゆる視点から考察する。 (授業目標) トレンド把握や今後のファッションコミュニケーション手法の変化を考察していくとともにそれを自己表現することができる。 (学習成果) ◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題解決策や行動計画を提案できる。
授業計画	1 ファッションコミュニケーションとは 本講義の概要、ファッションとコミュニケーションの関係、流行のファッションとその主張と表現の関係について 2 中世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴 中世ヨーロッパの階級・宗教とファッション表現の関係 テーマ設定によるキーワードとイメージマップ作成 (課題) 3 近世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴 近世ヨーロッパの社会情勢とファッション表現の関係 近世ヨーロッパのファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題) 4 1940-50年代のファッションコミュニケーションの特徴 戦後の消費価値観の変化と10人1色の時代のファッション表現 50年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題) 5 60年代のファッションコミュニケーションの特徴 60年代ライフスタイルのファッション表現 60年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題) 6 70年代のファッションコミュニケーションの特徴 70年代ライフスタイルのファッション表現 70年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題) 7 80年代のファッションコミュニケーションの特徴 ライフスタイル啓蒙による10人10色への変化とファッション表現 80年代日本独自のファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題) 8 90年代のファッションコミュニケーションの特徴 ストリートファッション台頭による1人10色への変化とファッション表現 90年代ストリートファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題) 9 近未来のファッションコミュニケーション予測 将来の生活環境変化予測 2050年頃のライフスタイルキーワードと未来考察 (課題) 10 ノンバーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーションの役割について 自分スタイルでのコミュニケーション ファッションイメージマップ作成 (課題) 11 世代別比較 マーケティングコミュニケーションの手法、世代別コミュニケーション・ミレニアルとZ世代の比較 Z世代のスタイルイメージマップ作成 (課題) 12 ファッションスタイルのPR表現 (PBL) ライフスタイルや生き様からくるファッションスタイルについて そのスタイルイメージのPRツール作成 (課題) 13 セグメンテーション (PBL) セグメンテーションによるターゲティング及びポジショニングの関係 (STP) 今後のファッション業界の変化予想 (課題) 14 トレンドから来るファッションコミュニケーション (PBL) 社会現象に基づくトレンド予測について ファッショントレンド予測シナリオの検証 (課題) 15 D to C の今後のビジネス展開 (PBL) B to B, B to C そしてD to C のビジネス形態・コミュニケーション手法および今後の展開と変

	貌 ストーリーマーケティングに関して（授業内にて期末課題に導入する）
到達目標・基準	◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：授業内課題対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（90分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（90分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。授業内での課題およびアンケート提出がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：最終課題・授業内課題を評価する。 最終課題40%、授業内課題40%、授業態度・貢献度20% クラスルーム課題にてフィードバックする。
テキスト	なし 適宜資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどでファッションビジネスやファッションスタイルに関する記事をチェックすること。 授業内・課題作成にてPC使用（主にパワーポイント・ワード）
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F14C41	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 漠然としたウエディング業界について、深く理解することができるようになる、ウエディング業界のナビゲーター、案内役としての位置づけの授業。ウエディングの仕事に携わるために必要な仕事の哲学や、ウエディング独特のホスピタリティなどの基本的姿勢、仕事に欠かせない共感力コミュニケーション、および業界のしくみ、業種や職種など、最新の情報を学ぶことができる。 (授業目標) リアルな現場で働くプロフェッショナルも講師として迎え、ウエディング業界を将来の就職の選択肢の一つとして捉えるための、客観的な判断ができるようになる。 (学習成果) ◎C：ウエディングの仕事と役割から適性を判断し、自己のキャリアデザインに結びつけられる。 ◎D：ウエディングビジネス業界についての幅広い知識を身に付け、共感力コミュニケーション、ウエディングホスピタリティの考え方を理解する。
--	---

授業計画	1	ウエディングナビ ウエディングの意味価値編 結婚式とパーティの必要性を儀式文化の本質を通じて理解し、自分の言葉でその価値を表現する手法を会得する。
	2	ウエディングナビ 歴史編 ウエディングビジネスの歴史を日本の第二次世界大戦後以降に絞って学ぶ。日本の近代史とウエディングビジネスの関連性を知る。
	3	ウエディングナビ ウエディングのスタイル編 ウエディングセレモニーとレセプションの代表的なスタイルを学びそれぞれの特徴を知る。
	4	ウエディングナビ ハード編 ホテル、専門式場、ゲストハウス、レストランなど業態別のハード(建物)の特徴や魅力について学ぶ。
	5	ウエディングナビ マーケティングと集客ビジネス編 特殊な構造を持つウエディングマーケットについて学び、同時にSNS等を駆使した集客手法を知る。
	6	ウエディングお仕事ナビ ウエディングプランナーとドレススタイリスト ウエディングの二大職業と言われるウエディングプランナーとドレススタイリストの仕事内容とその魅力を完全ナビ。
	7	ウエディングお仕事ナビ バンケットキャプテンと料飲サービス カップルが長い時間をかけて準備したウエディングの当日を完璧に創り上げるバンケットキャプテンや料飲サービスの仕事内容とその魅力を完全ナビ。
	8	ゲストによるナビゲーション ウエディングプランナーを知る 現在もフリーウエディングプランナーとして活躍中の恵実樹氏にウエディングプランナーになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする
	9	ウエディングお仕事ナビ ブライダルビューティ ブライダルヘアメイク、エステティシャン、ネイリスト、ジュエリーアドバイザー、フローリストなどブライダルビューティに関わる仕事の内容と特徴を完全ナビ。
	10	ゲストによるナビゲーション ドレススタイリストを知る 現在も現役のドレススタイリストとして活躍中の白井みさと氏にドレススタイリストになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする。
	11	ウエディングお仕事ナビ フォトグラファーとビデオグラファー 女性の人気が高まりつつある人気職業ウエディングフォトグラファーとビデオグラファーの仕事の内容と魅力を完全ナビ。
	12	ウエディングお仕事ナビ ウエディングのさまざまな仕事 サウンド&ライトニングプランナー、司会者、WEBデザイナー、ウエディングパフォーマーなどウエディングを創り上げるさまざまな特殊な職業の仕事の内容と魅力を完全ナビ。
	13	ゲストによるナビゲーション フォトグラファーを知る 国内外で大活躍中の人気ウエディングフォトグラファー加藤ゆき氏にフォトグラファーになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする。
	14	ウエディングナビ 世界のウエディング編 海外ウエディングとリゾートウエディングの現状について学びその仕事の内容と魅力を完全ナビ。
	15	ウエディングナビ キャリアデザイン ウエディング業界でしなやかにキャリアをアップしていくためのキャリアデザインの事例を提示し、自分自身のキャリアデザインを描いてみる

到達目標・基準	○C:ウエディングの仕事と役割を理解し、自己のキャリアデザインの参考にすることができる ◎D:ウエディングビジネスの種別を説明することができる
事前・事後学習	事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。(90分) 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。(90分)
指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答(オンラインでも実施)
アセスメント・成績評価の方法・基準	C:レポートや発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 D:授業内の質問シート、お礼状、テキストのリーディングシート、3種別の提出物等の出来映えで評価する。 定期試験50%、授業への貢献度20%、質問シート10%、お礼状10%、リーディングシート10%
テキスト	ブライダルのお仕事2023ウエディングジョブ
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングセレモニー」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング、PBL	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：河田淳鼓）			
ナンバリング：F24C42	実務家教員による授業		
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>(授業内容) 我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。 (授業目標) 模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 (学習成果) ◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って最後までチームでやり遂げることができる。 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢</p> <p>2 結婚式の意味と意義 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ</p> <p>3 結婚式の歴史とハード 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ</p> <p>4 キリスト教式の結婚式 ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>5 神前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>6 人前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>7 人前式の企画手法 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える</p> <p>8 コンセプト立案 グループワーク 1 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る</p> <p>9 進行の決定 グループワーク 2 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る (音楽演出手法を学ぶ)</p> <p>10 進行の決定 グループワーク 3 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る</p> <p>11 進行の決定/ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク 4 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する</p> <p>12 進行の確認とリハーサル グループワーク 5 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 進行を再確認し、『場当たり』をする</p> <p>13 進行の確認とリハーサル グループワーク 6 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする</p> <p>14 進行の確認とリハーサル グループワーク 7 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする</p> <p>15 模擬結婚式(夏期休暇中) ゲスト講師：赤星講師・印南講師) (グループワーク、実習、プレゼンテーション) (スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証) 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げまでを実施</p>

到達目標・基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ○E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイデアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。(30分) 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。(60分)
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った講義形式。 また、毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、ノートがもう一つの教材になるような仕組みとする。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、また具体的な事例も挙げ、興味を持って授業に臨める環境をつくる。 第8回目から第12回目までは、グループワークとなるため、毎回の授業のテーマや着地点などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。 フィードバックの方法：ワークシートにより担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。なお、これにより、授業の最後に目標とした作業が完了しているかどうかを確認可能となり、次回授業までの課題が明確になる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って実施しているかの観点 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点 A：第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式準備貢献度 模擬結婚式の完成度20% 模擬結婚式準備貢献度20% 模擬結婚式実施貢献度20% 振り返りシート20% ミニテスト20%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
履修上の注意	夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディングナビゲーション」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 ブライダルコーディネーター技能検定要件科目
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
ナンバリング：F14C43	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。特に花嫁のインナービューティに関わる視点から学習し、挙式までのさまざまなビューティのプログラムを習得し、花嫁のトータルコーディネイトが企画立案できるように身につける。 (授業目標) 花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身につける。 (学習成果) ○D：ウエディングドレス、ヘアメイク、エステティック、ジュエリーなど企業研究を通じてウエディングビューティビジネスに関わる基本的知識を身につける。 ◎E：マーケットに合致したコンセプトづくりから具体的な花嫁のウエディングをビューティの視点で企画提案ができる。		
授業計画	1	ウエディングビューティについての考え方を学ぶ (意識調査) ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢 および共感力コミュニケーションを駆使した花嫁心理の理解とカウンセリング手法を得る。	
	2	婚礼衣装の基礎知識 (意識調査) 国内外の婚礼衣裳の歴史と衣裳の基礎知識を学ぶ。また、コーディネイト手法についても触れる。	
	3	招待客の装い (意識調査) ウエディングゲストの衣裳の正しいマナー、知識を得る。また、新郎の衣装についても触れる。	
	4	ブライダルスタイリストという仕事 (意識調査) ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法を得る。	
	5	ブライズビューティプログラム①インナービューティ (意識調査) インナービューティの考え方を習得し、花嫁の挙式までのビューティプログラムについて基礎知識を得る。	
	6	ブライズビューティプログラム②ブライダルエステのメニュー (意識調査) ブライダルエステのメニューについて基礎知識を得る。また、挙式までのプログラムの考案ができるようになる。	
	7	ブライズビューティプログラム③ブライダルビューティスケジュール (意識調査) 花嫁のビューティスケジュールについてエステティック、ヘアメイク、ネイルの組み込み方について知識を得る。また、ヘアメイク、ネイルのコーディネイトにも触れる。	
	8	ブライズビューティプログラム④ビューティエクササイズ (意識調査) ビューティエクササイズとして運動方法の手法を得る。また、花嫁の悩みに応じたアドバイスが出来るようになる。	
	9	ブライズビューティプログラム⑤ビューティセルフケア (意識調査) 花嫁のセルフケアについての基礎知識を得る。自身で実践することで花嫁にアドバイス出来るようになる。	
	10	ブライズビューティカンパニー①(グループワーク、プレゼンテーション) (意識調査) ドレス企業研究をする上での視点を考察する。グループでの役割分担をし、ドレス企業の研究を進めプレゼンテーションでの資料の制作を行う。	
	11	ブライズビューティカンパニー②(グループワーク、プレゼンテーション) (意識調査) ドレス企業の研究を進める中でより良いプレゼンテーションの手法について考察し、資料の完成度を高める。プレゼンテーションの評価をするための視点を考察する。	
	12	ブライズビューティカンパニー③(グループワーク、プレゼンテーション) (意識調査) ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する。	
	13	ブライズビューティカンパニー④(グループワーク、プレゼンテーション) (意識調査) ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネイトについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する	
	14	ブライズビューティカンパニー⑤ (グループワーク、プレゼンテーション) (意識調査) ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研	

	<p>究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する</p> <p>15 ブライズビューティカンパニー⑥（グループワーク、プレゼンテーション）（意識調査） ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する</p>
到達目標・基準	<p>○D：洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティについて説明できる。 ウエディング企業をリサーチする視点を持てる。 ◎E：花嫁の希望に沿ったウエディングビューティのトータルコーディネートを企画提案できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。(30分) 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。(60分)</p>
指導方法	<p>第1回から第13回まではパワーポイントを使った講義形式。クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第14回から第15回は実習形式。トータルビューティの提案のためのブライズカルテを使用する。 フィードバックの方法：課題提示⇒レポート提出(学生)⇒指示、指摘を記入し返却⇒再提出(繰り返す)、小テスト実施⇒小テスト結果にコメント記載のうえ返却⇒授業後におけるコメントへの質疑応答対応</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D：新郎新婦の衣裳、およびウエディングコスチューム企業についての知識を持っているか。 E：コンセプトに沿ったウエディングビューティをトータルコーディネートし提案することができるかを評価する。 授業への貢献度30%、プレゼンテーション30%、課題提出30%、ミニテスト10%</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 ・ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A 公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会（前期に購入した方は不要） ・プリント配布 ブライズカルテ ・パワーポイントフォーマット配布 プレゼンテーションのプロセス
参考書	
履修上の注意	<p>ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングナビゲーション」「ウエディングセレモニー」を履修することが望ましい。なお、ウエディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>グループワーク、プレゼンテーション</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服飾：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F24C44			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) 本科目はドレススタイリストに必要なスキル修得を目指す授業である。服飾芸術科ならではの視点から「ドレス」を多角的に学修する。またドレスメンテナンスからドレスのセールスポイントまでドレススタイリストとして活躍するための知識を幅広く学修する。</p> <p>(授業目標) 婚礼衣装の歴史から始まり、ドレスの着装方法、小物の合わせ方などスタイリングに必要な知識を修得し、新郎、新婦のトータルコーディネートを企画立案できるようにする。</p> <p>(学習成果) ◎D：新郎・新婦の希望に沿った幅広いコーディネート案を企画、提案できる。</p>		
授業計画	1	ドレスの歴史（1） 服飾芸術の視点からみた西洋のドレスの歴史	
	2	ドレスの歴史（2） 近代のウエディングドレスの歴史と知識	
	3	ドレス選択（1） 体型別ドレス選びの基本	
	4	ドレス選択（2）（PBL） 新郎、新婦のトータルコーディネート案を企画立案する	
	5	ドレス選択（2） ウエディングドレス装飾品（アクセサリ）の選択	
	6	ドレス選択（3） コーディネートテクニック	
	7	ドレス選択（4） ウエディングドレス装飾品（ブーケ）の選択	
	8	ドレスフィッティング（1） フィッティングの基本知識	
	9	ドレスフィッティング（2） 美しく着こなすためのフィッティングテクニック	
	10	ドレスセールス（1） ドレスセールスの基本知識	
	11	ドレスセールス（2） ドレスセールスのテクニックポイント	
	12	ドレスショープロデュース（1） ドレスの見せ方をショー形式で学修する（1）	
	13	ドレスショープロデュース（2） ドレスの見せ方をショー形式で学修する（2）	
	14	ドレスショープロデュース（3） ドレスの見せ方をショー形式で学修する（3）	
	15	トータルコーディネート提案（プレゼンテーション） 集大成として新郎、新婦のトータルコーディネート案を発表する	
到達目標・基準	◎D：新郎・新婦の希望に沿った幅広いコーディネート案を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。（30分） 事後学習：授業内での未知のワードについて、まとめのノートを作成する。（60分）		
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、ウエディング衣装に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。フィードバックの仕方：課題は評価を行い返却する。質問が授業後、直接個別対応する。		
アセスメント・成績評価の方法・	◎D：授業への貢献度、課題、授業内小テストを評価する。 小テスト40%、課題提出30%、授業への貢献度30%、		

基準	
テキスト	ドレススタイリストのためのトークスクリプト 日本ホスピタリエ協会 必要に応じてプリント
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングナビゲーション」「ウエディングセレモニー」「ウエディングビューティデザイン」を履修することが望ましい。なお、ウエディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：鈴木はるみ）			
ナンバリング：F24C43	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) プランニングをするうえで必要な23段階の理論（23-Step）を学ぶ。 コンセプトualウエディングを実施するため、①傾聴（ヒアリング）②企画（プランニング）③提案（プレゼンテーション）を基本にし、あらゆるカップルに対し、最適なプランニングを行うための手法を学ぶ。 プランニングの手法は、ウエディングに限らず色々な仕事にも役に立つ内容であるため、様々なケースに対して、プランニング・提案を実践する。 (授業目標) コンセプトメイクの手法を修得する。ケーススタディを通じて、ウエディングをはじめとするイベントプランニングの具体像を理解する。 (学習成果) ◎C：①傾聴（ヒアリング）②企画（プランニング）③提案（プレゼンテーション）の順序に沿って、コンセプトのあるプランニングを創り上げることができる。 ○D：ウエディングのプランニングの23段階の理論（23-Step）を正しく説明できる。
授業計画	<p>1 プランニングとは？ プランニングの基本的概念とプランニングを作るために必要な「傾聴」について理解する。</p> <p>2 プランニングの作り方/プランニングの23-stepメソッド 成功するプランニングの作り方と、その理論である23段階の理論（23-Step）のメソッドのしくみを理解する。</p> <p>3 プランニングの種類/時空間商品の特徴 企画（プランニング）の手法と、必要な要素（傾聴・立案・提案）の流れを把握する。</p> <p>4 感動のデザイン実践(グループワーク) デザインを行うことで、プランニングの手法を可視化させる。</p> <p>5 感動のデザイン実践(プレゼンテーション) プレゼンテーションを通し、相手に受け入れられるプランニングの作り方について学ぶ。</p> <p>6 プランニングの23-stepメソッド/コンセプトメイクの手法 プランニングに必要なデザインの概念とコンセプトメイクの手法を学ぶ。</p> <p>7 ネーミングとログライン ログラインとテーマの概念学び、事例分析をする。</p> <p>8 コンセプトストーリーメイク /コンセプトシャルアイテム コンセプトストーリーの概念を理解し、コンセプトメイクの全体像を把握する。</p> <p>9 ドレスショップ企画 (PBL) グループ毎にドレスショップを企画し、電子パンフレット風の発表ツールを作成する。</p> <p>10 ドレスショップ企画(プレゼンテーション) 「伝わる企画」を意識し、発表を行う。</p> <p>11 プランニングに必要なインタビューシート・フォーマット コンセプトや演出の現場で使われる各アイテムをフォーマットに落とし込む手法を学ぶ。</p> <p>12 音楽・照明・映像の演出手法 音楽、照明、映像という「時間軸演出」を演出機器の知識とともに学ぶ。</p> <p>13 カップルのコンセプトメイク① (PBL) ヒアリングデータ①を元に23段階の理論（23-Step）のコンセプトメイクに沿ってプランニングを考える。</p> <p>14 プランニングの23-stepメソッドの全ステップの確認 自分の言葉で、23-stepメソッドについて説明を行う。</p> <p>15 カップルのコンセプトメイク② (PBL) ヒアリングデータ②を元に23段階の理論（23-Step）のコンセプトメイクに沿ってプランニングを考える。</p>
到達目標・基準	◎C：提示された課題にそって、コンセプトのあるプランニングができる。 ○D：ウエディングのプランニングシート23段階の理論（23-Step）の概要を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：前回の授業を復習し、ポイントなどをまとめる。（90分程度） プレゼンテーションの前には、チーム内で協力し合い、内容をまとめ発表するための資料をまとめる。 事後学習：学んだ内容から出題されるテーマに対し、プランニングを行う。（90分程度） 23-Stepの内容を自分の言葉や事例を用いて、まとめる。

指導方法	毎回、パワーポイントや動画を使用して、可視化により理解を深める。 グループワークやプレゼンテーションではフィードバックを行い、常にインタラクティブな授業を取り入れる。 チーム内で協力し合うよう指導し、プランニングの本質に触れるような授業にする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：定期試験で、記述解答を評価。適切なコンセプトが選べているか、自分のプランニングが出来ているかを評価。 ◎D：グループワーク及びプレゼンテーションの積極性、課題の意図にふさわしいレポートかを評価。 グループワークを含めたプレゼンテーション及び課題40%、定期試験40%、授業態度・積極性を含めた貢献度20%
テキスト	書名①：究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方、著者：安東徳子、出版社：コスモ21、出版年：2017年 書名②：ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード 発行：B I A公益社団法人日本ブライダル文化振興協会、出版年：2023年（1年次に「ブライダルコーディネーターテキストスタンダード」を購入した方は不要）
参考書	
履修上の注意	ウェディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウェディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウェディングレセプション」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服飾：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：越智亮二）			
ナンバリング：F24C44			
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>(授業内容) ウエディングビジネスにおいて営業や集客のためのビジュアルデザイン技術や広報する技術は大変重要である。企業のHP、SNS、ロコミ等のメディアや情報ツールの比較検討やSWOT分析を通じて広報の重要性とビジュアルデザインの基本を学ぶ。 (授業目標) 実務の専門家による映像、写真、ペーパーアイテム、アーキテクチャー（建築）、コラージュ、Webメディア、グラフィックデザインなどの授業構成からウエディングに係るビジュアルデザインの理論と技術を修得することを目標とする。 (学習成果) ◎D：現代のウエディングビジネスにおける営業活動や集客のためのビジュアルデザイン技術の種類とその効果を理解する。 ○E：ビジュアル表現ツールを活用し、伝えるためのメディアデザインをすることができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 ウエディングのビジュアルデザインについて<ガイダンス> 現代のウエディング現場においてビジュアルデザインの必要性を理解し、活用事例で理解を深める。</p> <p>2 webメディアデザインの基本① 集客業務に必要なwebメディアの種類とクロスメディア手法を学ぶ。</p> <p>3 ウエディングフォト① ウエディングフォトの基本を学ぶ。</p> <p>4 ウエディングフォト② データの活用手法を学ぶ（web、アルバム、ペーパーアイテム、パンフレット等）。</p> <p>5 webメディアデザインの基本② 最新のHPメディアと今後の流れとSNSメディアの具体的活用法と今後の流れ（色・フォント・デザイン）を学ぶ。</p> <p>6 ウエディングムービー① ウエディングムービーの基本を学ぶ。</p> <p>7 ウエディングムービー② データの活用手法を学ぶ（web、披露宴映像演出、PV等）。</p> <p>8 ウエディングコラージュの手法と活用 コラージュで表現する手法とその活用方法を学びその価値を理解する。</p> <p>9 ウエディングアーキテクチャー（建築） ウエディングにおける建築デザインの手法とプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>10 ウエディングペーパービジュアルデザイン ウエディングのペーパーアイテムの種類とそのデザイン手法を学ぶ。</p> <p>11 ウエディングwebデザインの基本① 多様化してきた顧客と使用するデバイス。そんな現代のウエディングwebデザインの基本を学ぶ。</p> <p>12 ウエディングwebデザインの基本② ウエディングデザインにおけるフォントの選択、図表の表現方法を学ぶ。</p> <p>13 多様化する顧客を理解したビジュアルデザイン ユニバーサリーデザインの意味とその価値について学ぶ。</p> <p>14 効果的なプレゼンテーション パワーポイントを活用し効果的なウエディングプレゼンテーションを学ぶ。</p> <p>15 まとめとデモンストレーション 各メディアを活かしたトータルプレゼンテーションのデモを通じてヴィジュアルデザインの全容を理解する。</p>
<p>到達目標・基準</p>	<p>◎D：修得したウエディングのビジュアルデザイン専門知識を用いて、自らが学んだ内容を論理的に説明することができる。 ○E：習得したウエディングのビジュアルデザイン専門知識を用い、状況にふさわしい手段で相手に伝わるプレゼンテーション資料を作成できる。</p>
<p>事前・事後学習</p>	<p>事前学習：Classroom実習ノート（事前学習）に沿って課題に取り組む（90分） 事後学習：Classroom実習ノート（事後学習）のワークページを必ず完成させておく。（90分）</p>

指導方法	高い専門性をもつゲスト講師を招き、時代にマッチした知識と技術を合わせて学ぶ。 Classroom実習ノートを活用し、ビジュアルプレゼンテーションをトータルに理解できるようにする。 毎授業ごとに課題を定時しClassroom実習ノートに提出 フィードバックの方法① 事前課題を提示 ②レポート提出（学生） ③指摘事項を記入し返却 ④再提出
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：授業内のワークで課題に相応しい表現ができること。 E：ウエディングに相応しいビジュアル表現ツールを活用した資料の作成方法を理解しているか。 定期試験50%、課題提出状況30%、授業内のワークで作成した制作物20%
テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	履修者は、パワーポイントの基本操作が出来ることが望ましい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：河田淳鼓）			
ナンバリング：F34C45	実務家教員による授業		
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力</p>	<p>(授業内容) これまで修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬挙式に続き、模擬披露宴を計画し、実施する。 (授業目標) ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどチームを通じて、模擬披露宴を企画し実施することができる。 (学習成果) ◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのプロフェッショナルな視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し実施することができる。 ○E：プランニングの23-stepに基づき、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。</p> <p>2 パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリテイの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。</p> <p>3 ウエディングメニューとビバレッジ ウエディングメニューとビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。</p> <p>4 ウエディングケーキと引き出物・引き菓子 ウエディングケーキの歴史や演出に使う場合の方法やその演出効果、引き出物に関する考えかたや種類、そして引き菓子やプチギフトの種類を学ぶ。パーティのコンセプトや新郎新婦の特徴に合わせてのセレクトの仕方を学ぶ</p> <p>5 レセプションの進行 レセプションにおける効果的な演出例などを含みその進行とスクリプト作成の復習</p> <p>6 サービスコンセプトとオペレーション レセプションにおけるサービスコンセプトの考え方とそのオペレーションの種類について学び、模擬披露宴の場合のシュミレーションを行う</p> <p>7 ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレイングを通じて体得する</p> <p>8 23段階の理論 (23-Step) に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論 (23-Step) に基づきコンセプトメイクの実習をする。</p> <p>9 レセプション実習① (グループワーク、実習) (スマートフォン) カップルデータ (ペルソナ) に基づき、コンセプトメイクを行う。この段階で花嫁・プランナー・司会・Food&beverage・会場装飾・司会・プライズメイズなど、担当を決定し、その担当に分かれてグループワークを行う。</p> <p>10 レセプション実習② (グループワーク、実習) (スマートフォン) テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み、自分の担当する役割の中でどのようにそれらを表現するかを個人ワークおよび並行してグループワークを行う</p> <p>11 レセプション実習③ (グループワーク、実習) (スマートフォン) ウエディングビューティプラン、ウエディングのテーマなどに合わせた衣装やヘアメイクの検討、ひいては新郎の衣装を外部会社に依頼するための資料制作</p> <p>12 レセプション実習④ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 実施会場の決定とその場所のレイアウトや装飾やテーブルコーディネートを外部装花会社とウエディングメニューやケーキの相談を外部ケータリング会社と外部の会社担当と打ち合わせを行う</p> <p>13 レセプション実習⑤ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 進行表とスクリプトの作成および本番の各役割の動き方のオペレーションプランを考える</p> <p>14 レセプション実習⑥ (グループワーク、実習) (スマートフォン) オペレーションプランに基づいたシュミレーション (リハーサルを行う)</p> <p>15 模擬披露宴 (グループワーク、プレゼンテーション) (スマートフォン) 模擬披露宴の準備、本番、片付け</p>
<p>到達目標・基準</p>	<p>◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任もってやり遂げることができる。 ○E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。</p>

事前・事後学習	事前学習：B I A検定のテキストを読んでおくこと。(30分) 事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。(60分)
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回～第8回の座学で得た知識を総動員し、チーム内で模擬挙式にむけた計画を立案する。また、第9回～第14回までの講義にて、レセプションの準備をしつつ模擬披露宴を実際に運営することを通じて目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。 フィードバックの方法：グループワークに授業の課題としてレセプションの企画書のレポート提出 レポート提出(学生)⇒指摘事項を記入し返却⇒再提出 繰り返して本番を迎える
アセスメント・成績評価の方法・基準	A:主体性をもって参加できているか、また、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかの観点 E:コンセプトに基づいた表現や行動になっているかの観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%
テキスト	①ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会(1年次に購入した方は不要) ②究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21(1年次に購入した方は不要) ③ウエディング演出の23段階(23-Step) ④セレモニー実習ノート ⑤世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングプランニング」、「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングナビゲーション」を履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
ナンバリング：F14C46			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 着方の練習を重ね段階に合わせ帯結びを学ぶ。浴衣の着方と着付け、半幅帯の帯結びの技術を習得し、帯結びは基礎技術から創作まで行う。 (授業目標) 浴衣や小物について理解を深め、習得した技術を活かし楽しめることを目指す。 (学習成果) ◎E：浴衣が正確に美しく着られ、オリジナルの帯結びができる。 浴衣の着付けができる。
授業計画	<p>1 きものの基礎知識① 授業概要 授業に必要な浴衣・帯・小物などについて説明</p> <p>2 きものの基礎知識② きもの名称などについて説明 各自の小物の確認、浴衣のたたみ方</p> <p>3 きものの基礎知識③ 浴衣・小物アイロン掛け 浴衣のたたみ方</p> <p>4 浴衣の着方① 着方の練習、浴衣のたたみ方</p> <p>5 浴衣の着方② 着方の練習、浴衣のたたみ方</p> <p>6 浴衣の着方・半幅帯結び① 着方と帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>7 浴衣の着方・半幅帯結び② 着方と帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>8 浴衣の着方・半幅帯結び③ 着方と帯結び『蝶々結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>9 レベルチェック 着方の技術レベルと浴衣のたたみ方を確認</p> <p>10 浴衣の着付け① 相モデルで浴衣の着付けを練習</p> <p>11 浴衣の着付け② 相モデルで浴衣の着付けを練習</p> <p>12 浴衣の着方・半幅帯結び 着方と帯結び『つのだし風結び』『蝶々結び応用編』の練習</p> <p>13 レベルチェック 着付けの技術レベルを確認</p> <p>14 レベルチェックと創作帯 帯結びの技術が目標レベルに達しているかを確認する これまで習得した技術を活かし、オリジナルの帯結びを考える</p> <p>15 半幅帯の創作発表 創作帯の発表と講評</p>
到達目標・基準	◎E：基本の帯結びをしめ浴衣を着ることができる。 浴衣の着付け方を理解する。
事前・事後学習	事前学習：日頃からきものや浴衣に関心を持ち、雑誌等で多くの情報を得る。(20分程度)

	事後学習：授業で学んだ技術を復習する。また、理解できなかった箇所は、Classroomの動画資料を見直す。 (40分程度)
指導方法	マネキンや動画、パワーポイントなどを使用し、きものに関する基礎知識と着方の手順について説明を行う。 一斉に演習に入るが、個々の技術レベルに合わせ指導をする。 フィードバックの仕方：①課題の掲示：実技指導は、その場でアドバイスを行う。②課題の発表③評価及び採点④評価指摘箇所を再発表、授業後に個別の質問に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：レベルチェックと作品発表で評価する。 レベルチェック60%、作品発表20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリント配布
参考書	なし
履修上の注意	第1回目の授業で、浴衣から小物まで各自用意する物の説明をする。 注意事項 半幅帯：作り帯は使用不可 浴衣のサイズ：自分にあったものを用意すること
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F15C49	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) スキンケア、メイクアップなど一般的な美容に関する基礎知識を学び、自分自身に必要なケアについて考えます。</p> <p>(授業目標) かけがえのない自分を日々慈しみ、心を満たす美容の力を理解し、幅広いビューティー分野での活躍を目指します。「日本化粧品検定2級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>(学習成果) ◎D：日常的な美容法に関する一般的な知識を身につけ、自分自身にあった美容法を選び実践することができる。</p>		
授業計画	1	セルフビューティとは(1) 本講義の概要	
	2	セルフビューティとは(2) 人の美しさと美容 自分の考える「美」を理解する	
	3	身近な美容一般知識(1) まちがいがちな美容知識をチェック スキンケア、ヘアケア、メイクアップ	
	4	身近な美容一般知識(2) まちがいがちな美容知識をチェック スキンケア、ヘアケア、メイクアップ 化粧品検定3級試験	
	5	皮膚・肌の基礎知識 皮膚の構造や機能	
	6	メイクアップの基本テクニック(1) 一般的なメイクアップ手順と化粧品の目的	
	7	メイクアップの基本テクニック(2) 一般的なメイクアップ手順と化粧品の目的	
	8	メイクアップの基本テクニック(3) 一般的なメイクアップ手順と化粧品の目的	
	9	肌の手入れと正しい知識(1) 肌タイプと見分け方 肌悩みの原因とお手入れ	
	10	肌の手入れと正しい知識(2) 肌を劣化させるさまざまな要因 紫外線が肌に与える影響	
	11	美肌・美ボディ生活を送るには 効果的なマッサージの必要性と方法 美しい肌を作る生活習慣	
	12	ヘアケアの基礎知識 髪と状態にあったお手入れ	
	13	化粧品の基礎知識 化粧品とは 成分やルール	
	14	女性の身体 身体の特徴と変化	
	15	自分自身の美しさ 自分の考える美しさと美容法	
到達目標・基準	◎D：スキンケア、メイクアップなど一般的な美容に関する基礎知識身につけ、自分自身にあった美容法を考えることができる		
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキスト参考に課題に取り組む。(90分) 事後学習：講義中に紹介のあった内容を参考に、自分に合った美容法について調べる。(90分)		

指導方法	美容に関する情報を、Webサイト、パワーポイントなどの資料を用い、講義形式で行う。 授業中にスマートフォン、パソコンを用いた課題提出や宿題がある。 フィードバックは授業中、Google classroomにて実施する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：定期試験30%、課題40%、授業態度・貢献度30% 授業内で課題や小テストを実施する。 課題について調べたり、美容法を実践しレポートをまとめる。
テキスト	「日本化粧品検定協会 2・3級対策テキスト」 著者 小西さやか 発行所 株式会社 主婦の友社 出版年 2017年6月20日第2版第5刷発行
参考書	日本化粧品検定協会1級対策テキスト
履修上の注意	パソコンを毎回持参すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
久保田カオリ			
ナンバリング：F15C50	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。前半はメイクアップのそれぞれの基本的な技術を修得し、自分の顔で表現できるようにする。後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、それぞれのイメージメイクが表現できるようにする。 (授業目標) 客観的な視点から顔を分析しメイクプランを立てられるようにする。 (学習成果) ◎E：イメージと現状との違いを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。 ○D：メイクアップに必要な基礎知識を理解できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（実習：2～15回） 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、使用する道具について メイクアップの効果と目的を考える</p> <p>2 スキンケアと美しい肌とは（実習） 皮膚の基礎知識とスキントypes・肌トラブルの原因について理解する 正しいスキンケア方法を習得する（マッサージで健やかな肌を育てる）</p> <p>3 ベースメイクのテクニック（実習） 肌色知識とトラブルカバーで美しい肌を作る コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する</p> <p>4 チーク・ハイライト・シェーディングのテクニック（実習） 骨格の把握と立体を理解する チーク・ハイライト・シェーディングを実習する</p> <p>5 アイブロウのテクニック（実習） 基本のバランスと形・色を理解する ペンシルとパウダーで自然な眉を実習する</p> <p>6 アイメイクのテクニック（実習） 目元の観察と形・バランスを理解する 基本のアイシャドウ・アイライン・マスカラを実習する</p> <p>7 リップのテクニック（実習） リップバランスと形・色による印象を理解する 基本の塗り方を実習する</p> <p>8 トータルバランスメイク（実習） メイクの強弱、バランスを考えたトータルメイクを実習する トレンドを取り入れたベーシックな「フレンチ・シック」を表現する</p> <p>9 顔のプロポーシオンと「印象分析」 自分の顔の特徴を客観的に分析し、インプレッションマップに基づいた印象タイプを理解する</p> <p>10 印象表現メイク「キュート」の理論とテクニック（実習） キュートメイクの理論を学び実習する</p> <p>11 印象表現メイク「フレッシュ」の理論とテクニック（実習） フレッシュメイクの理論を学び実習する</p> <p>12 印象表現メイク「エレガント」の理論とテクニック（実習） エレガントメイクの理論を学び実習する</p> <p>13 印象表現メイク「クール」の理論とテクニック（実習） クールメイクの理論を学び実習する</p> <p>14 印象分析によるイメージチェンジメイク① 自身の顔分析を行い、現状とは異なるイメージへのチェンジメイクを考え、デザイン画を制作する (デザイン画の提出)</p> <p>15 印象分析によるイメージチェンジメイク②（実習） デザイン画を元に、自身の顔でトータルにチェンジメイクを表現する</p>
到達目標・基準	◎E：メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解できる。 ○D：メイクアップに必要な基礎知識を説明できる。

事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。(30分) 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・技術解説とデモンストレーションを行い、実際にセルフでメイクアップ実習を行う。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom にセルフメイクの写真提出⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・知識テストと技術テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ⇒技術テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・メイクアップデザインの課題を実施する。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom に課題結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：トータルメイクアップの実技試験を行い評価する。 ○D：メイクに必要な基礎知識に関する筆記テストを行い評価する。 実技50%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	JMAセルフメイク検定公式テキスト 日本化粧品検定2級3級対策テキスト
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・「セルフビューティ論」を履修することが望ましい。 ・実習はご自身の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 ・メイクの技術チェックや情報共有のため、人前でノーメイクの状態からモデルをすることがある。 ・ノーメイク、もしくはメイクした状態でアドバイスや評価を受けることがあります。 ・実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 ・メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。 ・授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
福島裕司			
ナンバリング：F15C51	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 前半はタッチアップするためのポイントメイクオフとポイントメイクをマスターすることを重点的に行う。後半はカウンセリングの手順を学び、スキンケアアドバイスとメイクアップの提案&メイクアップができる技術を身につける。 (授業目標) 美容やコスメの情報を学びながらメイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップができる。 (学習成果) ◎B 美容について学んだことを生かしながらコミュニケーション能力を高めカウンセリングできる。 ○A 接客マナーを身に付けて相モデルの好みを引き出しながら双方納得できるポイントメイクアップを施術できる。 ○C 肌の悩みの種類に対して的確なアドバイスができる。
--	--

授業計画	1 ガイダンス 授業目標、授業の進め方の説明、評価の仕方、使用する道具の説明 美容業界、ファッションブランド～アーチストブランドを学ぶ 2 ポイントクレンジング～スキンケア クレンジング～スキンケアの種類や手順を学ぶ 相モデルで実習 3 ベースメイクアップ 皮膚の知識やベースメイクの種類を学ぶ スキンケア～ベースメイクまで相モデルで実習 4 タッチアップ演習① ポイントメイクオフとポイントメイク リップテクニックを学ぶ リップの違いを学び実習する アイメイクの上からのタッチアップ方法 5 タッチアップ演習② ポイントメイクオフとポイントメイク アイメイク (アイシャドー・アイライン) アイシャドーとアイラインのメイク方法を学び実習する 6 タッチアップ演習③ ポイントメイクオフとポイントメイク アイメイク (アイライン・ビューラー・マスカラ) アイブローテクニック ビューラーとマスカラのメイク方法を学び実習する 7 タッチアップ演習④ ポイントメイクオフとポイントメイク アイブローテクニックを学ぶ アイブローの色と形を理解してモデルに合わせて実習する 8 ビューティカウンセリング① 接客の心得とは何かを学ぶ 笑顔～姿勢～挨拶まで学び、繰り返し練習する 9 ビューティカウンセリング② ホスピタルティマインドを学ぶ 接客に必要な知識を学び、演習する 10 ビューティカウンセリング③ 聴く力 販売ロールプレイングを学び接客力を上げる 11 ビューティカウンセリング④ 販売ロールプレイングを行い接客力を学ぶ 分析力 ゴールに向けて言語化 ビューティカウンセリングを行いメイクアップの提案 12 ビューティカウンセリング&メイクアップ① 実技チェック前半 ビューティカウンセリングを行いスキンケアとメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ 13 ビューティカウンセリング&メイクアップ② 実技チェック後半 ビューティカウンセリングを行いスキンケアとメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ 14 これからのビューティカウンセリング&メイクアップについて① ビューティカウンセリングを行いメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ 15 これからのビューティカウンセリング&メイクアップについて②
------	--

	いままでのフィードバックを行う。 授業の振り返りとこれからの美容について考え、レポートにまとめる
到達目標・基準	◎B 美容について学んだことを生かしながらコミュニケーション能力を高めカウンセリングできる。 ○A 接客マナーを身に着け相モデルの好みを引き出しながら双方納得できるポイントメイクアップを施術できる。 ○C 肌の悩みの種類に対して的確なアドバイスができる。
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。(20分) 事後学習：課題となったテーマについて、授業内容を振り返りながら技術を復習しておくこと。(25分)
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。 アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習(相モデルメイク)を行う。 フィードバックの方法…実習の場合はその場での技術の指摘、リタッチなど行う。課題提出の場合はGoogleClassroomを活用。課題提出(学生)→確認したのち、指摘事項を記入し、返却→再提出 繰り返し
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：接客を想定したコミュニケーションを実施し、カウンセリングシート、イラストも含めて仕上がっているかどうかを評価する。 A：カウンセリングシート通りに、メイクアップが仕上がっているかを評価する。 C：肌の悩みに対して種類別にアドバイスができる。 カウンセリングシート30%、実技20% 課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	セルフメイク演習、セルフビューティ論を履修していることが望ましい。 実習は学生同士がお互いにモデルとなって行う形式である。(相モデル) メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服飾：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F25C50	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) メイクアップを施す対象である「顔」についての理解を深め、社会における「顔」の役割やメイクアップの必要性について見識を深める。 (授業目標) 多様性の時代において、それらを理解し、自らのフィールドで学んだことを実践できる力を修得する。メイクアップの持つ可能性について自身の見解を述べるができる。 (学習成果) ◎D：顔の持つ社会的な役割とメイクアップの多様な活用方法を説明できる。 ○C：現状から課題を抽出し、適切な方法で解決策を提示できる。
授業計画	1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、これまで学んだ事と応用演習について。メイクアップの役割を幅広く捉え、可能性を考えていく。 2 「顔」「化粧」とは 社会活動における顔の役割、なぜ化粧をするのかを考える。課題シートに記入し、シェア、プレゼンテーションを行う。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) 3 ファッション業界とメイクアップ ファッション業界では、どのようなメイクアップの役割があるのかを考える。具体的にブランドを設定してメイクアップ実習を行う。 (ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書く) 4 表現とメイクアップ 舞台、映像などの世界では、どのようなメイクアップの役割があるのかを考える。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。 (ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書く) 5 女性の顔、男性の顔 (実習) 性別における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) 6 子どもの顔、老人の顔 (実習) 年代における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。 7 世界の「顔」と「化粧」 多様な人種と文化の元、違った顔の特徴や文化としての化粧、風習としての化粧について考える。 8 顔と心 顔と心のつながりについて考える。メイクアップセラピーについて。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) 9 自分の顔、他者の顔 自分の顔の特徴を客観的に理解する。自分の理想とするイメージに近づけるためにはどんなメイクアップが必要か考える。 他者の顔を観察し、魅力を見つめる。主観的な良し悪しとなる表現は避け、説明することに挑戦する。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) 10 人の魅力と美しさ 人の魅力と美しさとは何か、多様な美しさについて考える。 11 時代と顔 時代と共に移り変わる化粧と、その背景にある社会情勢や精神性について知る。 12 似合うメイクアップ (1) (PBL) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル (セルフメイク) 実習。

	13	似合うメイクアップ (2) (PBL) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル (セルフメイク) 実習。
	14	メイクアップの可能性について (1) (プレゼンテーション) 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。
	15	メイクアップの可能性について (2) (プレゼンテーション) 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。
到達目標・基準	◎D：メイクアップの多様な活用方法を理解している。 ○C：課題を見出し、目指す方向性を把握している。	
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。(30分) 事後学習：課題となったテーマに該当する顔について、授業内容を振り返りながら観察する。電車の中、街中、身近な人、web上の画像など、題材となる顔を観て感じたことを課題シートに記入する。(30分)	
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習 (セルフメイク) を行う。 授業内でスマートフォンやパソコンを使用し、課題制作や提出がある。 フィードバック方法： Google classroomを使用した課題、提出物については随時授業内にてレビューする。	
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：試験でシチュエーションに合ったイメージのメイクアップを提案できるかを評価する。 ○C：課題において、メイクアップの方法を具体的に記述できているかを評価する。 実技30%、プレゼンテーション30%、課題20%、授業への貢献度20%	
テキスト	なし 適宜データで資料を共有	
参考書	「顔の百科事典」日本顔学会 「メイクセラピー入門3級対策」「メイクケアセラピー公式テキスト」一般社団法人メイクセラピストジャパン 「<よそおい>の心理学」サバイブ技法としての身体装飾 荒川歩 鈴木公啓 木戸彩恵 「化粧の力の未来」資生堂みらい開発研究所 「「粧う」ことで健康寿命を伸ばす化粧療法」池山和幸 「化粧にみる日本文化」	
履修上の注意	一般的な「女性が美しくなるためのメイクアップ」に限らず実習 (セルフメイク) を行うため、授業終了時にメイクを落とす場合があり、授業に必要なメイク道具のほか、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。	
アクティブ・ラーニング、PBL	プレゼンテーション シンク・シェア・ペア (質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) ブレイン・ダンプ (与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる)	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F15C53	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>（授業内容） 美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。</p> <p>（授業目標） 相モデル（ペア）演習、グループ演習を通し、コミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。</p> <p>（学習成果） ◎B：ペアワーク、グループワークを通し、コミュニケーション能力を高めることができる。 ◎E：ヘアメイク演習を通し、トータル（ヘア、メイク、洋服）バランス能力を高めることができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス、道具の使い方（実習：1～5.7.9.11.15回） ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	2	ヘアアレンジ基礎 一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピニング ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー	
	3	ヘアアレンジ基礎 シニヨン・すき毛の使い方 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	4	ヘアアレンジ基礎 逆毛 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	5	ヘアアレンジ基礎 三つ編み・編み込み ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	6	ヘアアレンジ基礎（ペアワーク、グループワーク） アイロン ・ヘアデモンストレーション	
	7	流行ヘアアレンジ・メイク（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	8	流行ヘアアレンジ・メイク（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション	
	9	カジュアルヘアとモードヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	10	カジュアルヘアとモードヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	11	ブライダルヘア（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	12	ブライダルヘア（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション	
	13	トータルで考えるイメージヘア（1）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン	
	14	トータルで考えるイメージヘア（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン	

	15 スタイル作成 ・技術確認
到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し相手に提案することができる。 ◎E：ヘアアレンジの基礎（編み込み、カジュアルアレンジスタイル）ができる。
事前・事後学習	事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝え指導を行い、学生の取り組む状況を確認しながら個別に技術チェックを行い、仕上がりアドバイスを伝え、授業後、質疑応答の対応を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服飾：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F25C52	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	（授業内容） 美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。 （授業目標） 相モデル（ペア）演習、グループ演習、ヘアカウンセリングデスクッション能力、ヘアメイクを通し、トータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身につける。 （学習成果） ○B：ペアワーク、グループワークを通し、ヘアカウンセリングのコミュニケーション能力を身につける。 ◎E：ヘアメイク実習を通し、イメージしたことをバランスを考慮し解説しながら形にする技能を高める。
--	--

授業計画	1	ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認（実習：1～6.8.9.11.15回） ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用
	2	ヘアアレンジ確認と応用（1） ポイントスタイルアレンジ ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用
	3	ヘアアレンジ確認と応用（2） すき毛を使った応用テクニック ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用
	4	ヘアアレンジ応用（1） ボリュームスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用
	5	ヘアアレンジ応用（2） ルーズスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用
	6	ヘアアレンジ応用（3） 飾りの付け方バランス ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用
	7	ヘアアレンジ応用（4）（ペアワーク、グループワーク） 浴衣スタイル ・ヘアデモンストレーション
	8	ヘアアレンジ応用（5） パーティースタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用
	9	カジュアルヘアとショーヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用
	10	カジュアルヘアとショーヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション
	11	ブライダルヘア ・ヘアデモンストレーション 実習 ※ウィッグ、キーパー使用
	12	トータルで提案するヘアメイク（1）（ペアワーク） ・トータルプランニング説明 ※スマートフォン
	13	トータルで提案するヘアメイク（2）（ペアワーク） ※スマートフォン

	14	トータルで提案するヘアメイク（3）（ペアワーク） ※スマートフォン
	15	スタイル作成 ・技術確認
到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し、キレイさと身だしなみを意識したヘアアレンジを身につける。 ◎E：ヘアアレンジの応用（美容器具の扱い方、TPOアレンジスタイル）ができる。	
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）	
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝え指導を行い、学生の取り組む状況を確認しながら個別に技術チェックを行い、仕上がりアドバイスを伝え、授業後、質疑応答の対応を行う。	
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%	
テキスト	なし	
参考書		
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り	
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：浜口アヤ）			
ナンバリング：F15C55	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ネイルとジェルに関する基礎理論を学ぶ。自分の爪やネイルチップを使って、ネイルケアやジェルネイルを施術する。正しい筆の使い方、ジェルの操作性、アートのバランスなどの演習を行う。個人制作では、ベーシックデザインを活かしてネイルチップの上にオリジナルのデザインを表現する。 (授業目標) 爪の名称や用具用材の特徴を知り、正しい知識のもとにセルフケアを学び、サロンクオリティーに近づけるシンプルなデザインを学ぶ。 (学習成果) ○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を学び、理解する。 ◎E：課題に応じたネイルアートを作成し、いろいろな技法を修得する。
授業計画	<p>1 ネイルアート演習 1 について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 学科：爪の形、構造、ハンドケア</p> <p>2 実技：マニキュア ワンカラー 学科：マニキュアで使用する材料の成分を学習し適切な扱い方を学ぶ。 実技：ポリッシュの塗り方 カラー別4パターン。</p> <p>3 実技：マニキュア ラメグラ ポリッシュで出来る事をさらに深める。正しい落とし方を学ぶ。</p> <p>4 実技：マニキュア フレンチ ポリッシュでフレンチは難しいけど、それなりに魅せる方法を学ぶ。</p> <p>5 実技：マニキュア 学科：ジェル理論 次回から始まるジェルに向けて、事前に学習。ジェルネイルは化学薬品である事から接触性皮膚炎を起こす事もあります。 この授業で正しい知識を得て、正しい使い方を学ぶ。</p> <p>6 実技：ジェルネイル ワンカラー・ジェルネイルオフ 教材の確認。実際にジェルネイルを塗ってみて、ポリッシュとの違いを学ぶ。 ジェルネイルの正しいオフの仕方。</p> <p>7 実技：ジェルネイル プレパレーション 学科：モチが良くなる方法 自分の手を使って角質を除去します。ポリッシュもジェルも爪に何か塗る時際に大事なのは、下処理。 それが出来なければどんな綺麗に塗れてもすぐ剥がれてしまうことを学ぶ。</p> <p>8 実技：ジェルネイル グラデーション ラメといっても100種類以上あります。”派手になる”概念は捨てて、オフィスにも0Kなさりげないラメから、華やかなラメを使用。 指先の煌めきにテンションが上がる感覚と共にセルフのクオリティーを上げる。ジェルでしかできないアート。グラデーションは、どんな職業についても出来るネイル。指の太さや爪の形によってグラデーションの似合う幅は変わる事。皮膚の色により似合う色が違う事を感じて学ぶ。</p> <p>9 実技：ジェルネイル フレンチネイル ポリッシュでは難しかったフレンチが、ジェルではそれなりに魅せる事ができる。 その為の筆の使い分けなどを取得。</p> <p>10 実技：ジェルネイル 課題授業の練習 5枚の作品を制作。課題授業の練習をする。</p> <p>11 実技：ジェルネイル マーブル・天然石・べっ甲 ジェルの特性を活かして行う授業。正解のない、自分の感性で作るアートを学ぶ。 極細の筆や太い筆を使用し練習。柄の配置など、バランスとアートのコツを学び魅せ方を身につける。</p> <p>12 実技：ジェルネイル フラワーアート 作品制作のクオリティーを上げる技術を学ぶ。花のアートは、季節や流行を問わず1年中人気。 絵を描く事が苦手でもバランスの取り方を学べば、それなりに魅せる事ができる事を学ぶ。</p> <p>13 作品のデザイン画制作・練習 作品に向けて、タイムアウトにならないよう事前に作品画を制作する事で、講師と相談しながら決めていきます。 仲間と共有しながら自分なりの個性を表現する事を学ぶ。</p> <p>14 個人制作 作品提出</p>

	<p>テーマ：「自分の為のウェディングネイル」 5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。 個人制作 作品提出 テーマ：「自分の為の成人式ネイル」 5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。</p>
到達目標・基準	<p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を身に付け、デザインの名前、用具の名前を説明できる。 ◎E：課題に応じたネイルアートを作成できる。個人制作では、自ら考えたデザインを表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：前回学んだ事を練習し定着させる。ファッションや雑貨のデザイン、インターネットなどからネイルアートとして表現できるデザインの知識を得ておくこと。(30分) 事後学習：授業で伝えた内容に関してレポートにまとめ、デザインの名前、用具の名前を覚えること。制作物は期日までに提出すること。(30分)</p>
指導方法	<p>ネイル概論では、爪の構造・名称・ジェルネイルの成分を学習。 講師によるデモンストレーションを見た後に、練習。 ネイルチップを使用して練習するが、自分の爪を使用する場合もある。 基礎アート、応用アートを修得。最後に作品のデザイン画を作成、授業内で作品制作。 【フィードバックの方法】レポート、作品を提出→指摘事項を記入し直接返却、その際に質疑対応</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D：ネイルに関する用語、デザインの知識を理解し、表現できているのかを評価する。 E：課題に応じたネイルアートの完成度を評価する。 課題70%、授業貢献度30%</p>
テキスト	<p>必要に応じて、プリントを配布</p>
参考書	<p>・NAIL MAX ・NAIL VENUS ・NAIL UP ・その他ファッション雑誌など</p>
履修上の注意	<p>自身の爪を使用する授業の時は、ジェルネイルやスカルプチュアネイルなど、実習の妨げになるので外しておくこと。 初心者の方でも安心して受講できるよう、ネイルの基礎デザインから応用デザインまで幅広く学ぶことができる。 課題授業で制作したアート作品は全て提出し、成績として評価する。 使用教材は個人教材・共通教材のため大切に使うこと。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>実習</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：浜口アヤ）			
ナンバリング：F25C54	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 本科目「ネイルアート演習2」は、将来ネイリストは志望しないが、ネイル演習の履修を希望する学生を対象としたクラスである。ネイリストを志望する場合は、「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」のシラバスを参照すること（「ネイルアート演習2」と「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」の開講時間は異なるため、時間割を確認すること）。 【SLセルフレベルアップコース】 (授業目標) アート筆を使用して細かいアートにチャレンジする。 SNSで目にするアニマル柄・氷ネイル・立体アート等を制作し、プロに近いアートの知識と技能を修得する。 (学習成果) ○D：ネイルアートの基礎的な知識からプロのレベルに近い知識を身につける。 ◎E：演習1よりもクオリティを上げる為の爪の形・アートの技能を修得する。
授業計画	<p>1 ネイルアート演習2について ～SLセルフレベルアップコース～ 【SLセルフレベルアップコース】 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。</p> <p>2 実技：ジェルネイル 春のアート① 【SLセルフレベルアップコース】 ジェルをミックスしたり、多様な筆を使用して季節や流行のアートを制作。</p> <p>3 実技：ジェルネイル 春のアート② 【SLセルフレベルアップコース】 季節や流行のアートを制作。</p> <p>4 実技：ジェルネイル 押しネイル① 【SLセルフレベルアップコース】 推しのカラーを使って、ハートいっぱいのネイルを制作。</p> <p>5 実技：ジェルネイル 押しネイル② 【SLセルフレベルアップコース】 推しのインisialを手書きしたり、アート筆で字を描く方法を学ぶ。</p> <p>6 教材の説明・プッシャー・ニッパーの使用法 【SLセルフレベルアップコース】 教材の使い方・プッシャーとニッパーの正しい使い方を学び、ケアレベルを上げていく。</p> <p>7 実技：ジェルネイル アニマル柄 【SLセルフレベルアップコース】 いろんな形と色使いで、アニマル柄を表現する。</p> <p>8 実技：ジェルネイル 梅雨ネイル 【SLセルフレベルアップコース】 しずく・水滴・たらし込み。ジェルの特性を活かしたアートを学ぶ。</p> <p>9 実技：ジェルネイル 夏のアート① 【SLセルフレベルアップコース】 オーロラ・氷ネイル。フィルムを使用してキラキラの世界観を作る。</p> <p>10 実技：ジェルネイル 夏のアート② 【SLセルフレベルアップコース】 立体的に作る夏のアートを学ぶ。</p> <p>11 実技：ジェルネイル 秋のハロウィンアート 【SLセルフレベルアップコース】 これまでに学んだ事を活かし、さらにレベルを上げていく。</p> <p>12 実技：ジェルネイル 冬のクリスマスアート 【SLセルフレベルアップコース】 プロが学びたいようなアート技法を学べる授業。</p> <p>13 作品のデザイン画制作・練習 【SLセルフレベルアップコース】 作品に向けて、タイムアウトにならないよう事前に作品画を制作する事で、講師と相談しながら決めていきます。 仲間と共有しながら、演習1よりもクオリティの高いアート作品を考える。</p> <p>14 個人制作 作品提出 【SLセルフレベルアップコース】 テーマ：「○○に似合うネイル」5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。</p>

	15 個人制作 作品提出 【SLセルフレベルアップコース】 テーマ：「推しに捧げるネイル」5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。
到達目標・基準	【SLセルフレベルアップコース】 ○D：季節やテーマに沿って、色合い、技法、学んだ事を活かさせたデザイン知識を修得。 ◎E：サロンクオリティーに近い仕上がりになる技術を修得。
事前・事後学習	【SLセルフレベルアップコース】 事前学習：完成度を上げる為には、より良いものを沢山見る事。リサーチ（20分） 事後学習：自宅で自分の爪やネイルチップに練習する。（30分）
指導方法	【SLセルフレベルアップコース】 授業前に、アートの説明を行いデモンストレーション。 その後ネイルチップに練習。 【フィードバックの方法】レポート、作品を提出→指摘事項を記入し直接返却、その際に質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	【SLセルフレベルアップコース】 D：毎回の授業で指示する配置や気をつけるポイントをよく聞いているか仕上がりで知識レベルを評価する。 E：サロンクオリティーに達しているかを工程、仕上がりで評価する。 技術行程・仕上り60%、授業態度・貢献度40%
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	
履修上の注意	【SLセルフレベルアップコース】 実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュアは禁止。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：浜口アヤ）			
ナンバリング：F25C54	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	（授業内容） 本科目「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」は、将来ネイリストを志望する学生に対応したクラスである。ネイリストは志望しないが、ネイル演習の履修を希望する場合は、「ネイルアート演習2」のシラバスを参照すること（「ネイルアート演習2（検定対応クラス）」と「ネイルアート演習2」の開講時限は異なるため、時間割を確認すること）。 【PK検定取得コース】 （授業目標） 手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン、カラーリング、フラットアート「フラー」の演習を行ない、爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなどの知識を身に付け、ネイルケア、カラーリング、ネイルアート技能を修得する事を目標とする。 ※学生同士互いにモデル・プラクティスハンド・自分の手を使用。 （学習成果） ○D：爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなどJNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級取得レベルの知識を身につける。 ◎E：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートなどJNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級取得レベルの技能を修得する。
--	--

授業計画	1 ネイルアート演習 2 について ~PK検定取得コース~ 【PK：検定取得コース】 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。 ネイル検定3級・ジェル検定の内容、モデルについて。
	2 PK：ジェルネイル検定初級 【PK：検定取得コース】 ジェル検定初級課題の「アート”ピーコック”」を学ぶ。
	3 PK：ジェルネイル検定初級 【PK：検定取得コース】 赤いポリッシュと赤いジェルを塗る。
	4 PK：ジェルネイル検定初級 【PK：検定取得コース】 ジェル検定試験同様の仮試験を実施。
	5 PK：ジェルネイル検定初級 【PK：検定取得コース】 ネイル検定3級の手指消毒～ネイルケアまでを学ぶ。
	6 PK：ネイル検定3級 教材の説明・プッシャー・ニッパーの使用方法 【PK：検定取得コース】 教材の使い方・プッシャーとニッパーの正しい使い方を学ぶ。
	7 PK：ネイル検定3級 教材配布 【PK：検定取得コース】 自分の手、または相モデルにてプッシャーとニッパーの正しい使い方を練習。
	8 PK：ネイル検定3級 テーブルセッティング 【PK：検定取得コース】 演習1で学んだ、ファイリングを再度確認。 ネイル検定3級の手指消毒～ネイルケアまでの通し。
	9 PK：ネイル検定3級 【PK：検定取得コース】 プッシャー・ニッパーの使用法の復習。 手指消毒～ネイルケアまでをプレクティスハンド、または相モデルにて練習。
	10 PK：ネイル検定3級 【PK：検定取得コース】 学科：過去問を使用し学科対策 筆記試験合格に向けて必須項目の指導。 検定アートの説明
	11 PK：ネイル検定3級 【PK：検定取得コース】 検定アートも含めて、通し練習。
	12 PK：ネイル検定3級 【PK：検定取得コース】 これまで学んできた事の復習と共に、受験時の採点ポイントを抑える。 実技検定に合格するために必要な事を復習。
	13 PK：ネイル検定3級 【PK：検定取得コース】

	<p>14 検定アートも含めて、通し練習。 PK：実技テストについて(60分)・検定学科のテスト(30分) 【PK：検定取得コース】 実技の通し練習と筆記テスト。</p> <p>15 PK：演習2 検定試験の実技テスト 【PK：検定取得コース】 検定を受験する為に必要な知識・理解度の実技テスト。</p>
到達目標・基準	<p>【PK検定取得コース】 ○D：JNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識を修得する。 ◎E：JNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの技能を修得する。</p>
事前・事後学習	<p>【PK検定取得コース】 事前学習：前回授業で学んだ事を忘れないよう復習する。3級ネイルアート「フラワー」のデザインを考える。ネイル検定に必要な物の確認・用意しておく。(30分)</p> <p>事後学習：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートを行う。過去問題を繰り返し行い覚える。(60分)</p>
指導方法	<p>【PK検定取得コース】 JNECネイリスト技能検定試験3級、ジェルネイル検定初級の試験内容を把握する。 講師によるデモンストレーションの後、理解度・疑問点などを指導し、実技の練習がメインとなる。 後半授業では、検定試験同様のタイム入れをプラクティスハンドや相モデルで行う。 【フィードバックの方法】レポート、作品を提出→指摘事項を記入し直接返却、その際に質疑対応</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>【PK検定取得コース】 D：JNECネイリスト技能検定試験3級の知識を提出課題で評価する。 E：JNECネイリスト技能検定試験3級の技能を工程、仕上りで評価する。 技術行程・仕上り70%、授業態度・貢献度30%</p>
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	【PK検定取得コース】JNAテクニカルシステムベーシック
履修上の注意	<p>【PK検定取得コース】 実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュアは禁止。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服飾：選択
担当教員			
西村リサ			
ナンバリング：F35C55	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 視覚的な自己表現が必要不可欠な時代となり、客観的に自己の見え方、印象について管理する能力が重要で す。自分自身の目指す姿をイメージし、「どう見せたいのか」を考えてプロフィールシートを作成します。 (授業目標) メイクアップ効果による容貌の変化と自己表現の重要性を理解し、客観的な視点で対外的に表現したい自己に ついて考える。多彩な表現方法、ツールを知り、表現力を身につけることで人間力を磨き、創造的に社会と関 わることができる。 (学習成果) ◎C：10年後の自分像を思い描き、それに相応しいアピランス（見た目）を表現できる。
授業計画	1 セルフプロデュースとは 本講義の概要、評価方法、課題について 2 セルフプロデュースの必要性について（グループワーク） 個人の生涯における容貌の変化と美容、化粧行為による自己表現について。自己客観視につい て。 3 セルフィメージ・セルフビューティの重要性について（グループワーク） 自分に対する自己イメージや美容法について省みながら、自己理解を深める。 4 セルフブランディングについて（グループワーク） 現在のファッション、ヘアスタイル、メイクアップによる自己表現が与える印象について理解し、 オリジナリティや強み、特技、経験などから、自分ならではのポジショニングと相応しいアピア ランスについて考える。 5 印象管理 人の印象を構成する要素とは何かを学び、客観的に自分の印象について理解する。 場面やライフステージにおいて、どのように見せることが望ましいか考える。 6 印象表現 パーツのサイズや配置など、顔の印象に変化を与える要素を理解し、PCを用いシミュレーション を行 7 顔の印象分析理論(ゲスト講師) 顔の造形、パーツなどのもつ特徴が、人それぞれの印象を形成していることを学び、自己理解を 深める。 8 セルフプロデュース (1) (PBL) 10年後の自分をイメージしプロフィールシートを作成する。 コンセプト（キャラクター、業種、肩書き、経歴、キャッチコピーなど）を決め、相応しい見た 目について考える。 9 セルフプロデュース (2) (PBL) 10年後の自分をイメージしプロフィールシートを作成する。 デザイン（色、フォントなど）を決める。 10 セルフプロデュース (3) (PBL) 10年後の自分をイメージしプロフィールシートを作成する。 プロフィール写真を決める。 11 セルフプロデュース事例紹介（ゲスト講師） 実社会で活躍されているゲスト講師の事例を学び、リアリティを持って手法や重要性を理解す る。 12 プロフィール発表(プレゼンテーション) 作成したプロフィールを少人数グループで発表する。 13 多様な表現方法とツール メイクアップによる自己表現と社会への発信方法について学ぶ。 14 プロフィール発表(プレゼンテーション) 選抜者によるプロフィール発表。 15 10年後の自分をプロデュースする 自分の未来に広がる可能性を最大限に感じるために、今の自分ができることは何か。 10年後の自分を明確にイメージし、日常的に必要なセルフケアやメイクアップ方法を考える。

到達目標・基準	◎C：10年後の自分像を思い描き、それに相応しいアピランス（見た目）を計画できる
事前・事後学習	事前学習：次回の授業中に提示されたキーワードについて調べ、課題に取り組む。（90分） 事後学習：プロフィールシート作成にむけ、講義内容を振り返り、プリントなどのワークは一人の時間で再度じっくり読み返したり、深掘りする。図書館の書籍を参考に、マーケティングやデザインに関する知識を広げておく。（90分）
指導方法	関連する情報を、Webサイト、パワーポイントなどの資料を用い、講義形式で行う。 授業中にスマートフォン、パソコンを用いた課題提出や宿題がある。 フィードバックは授業中、Google classroomにて実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：定期試験20%、課題50%、授業態度・貢献度30% 授業内で課題や小テストを実施する。
テキスト	なし 必要に応じ、プリントを配布
参考書	「パーソナル・マーケティング」本田直之 「「売れる個人」の作り方」安藤美冬 「現実は厳しい でも幸せになれる」アルバート・エリス
履修上の注意	パソコンを毎回持参すること。 セルフビューティ論を履修していることが望ましい。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、西村リサ			
ナンバリング：F36C56	実務家教員による授業		
添付ファイル			
参考資料①2022年版説明会.pdf	昨年度のプログラム概要説明です		
参考資料②2022年版Spring_日程表.pdf	昨年度費用です 本年度は為替、米国の経済状況により変更あります		
参考資料③2022年版アメリカ・グローバルキャリアプログラム紹介.pdf	昨年度の日程です 本年度は説明会で発表します		

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) インターンシップ1は、本学が指定する海外インターンシッププログラム「America Global Career Program」(昨年度資料は添付ファイル参照)に参加し所定の成果を出すことで、インターンシップ1及びインターンシップ2の単位合計2単位が取得できるプログラムで、開講期間内ではなく夏期もしくは春期休暇期間中に実施する。 インターンシップ研修を通じ、アメリカ文化に触れ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。 インターンシップ先として、JAL、KDDI、JTB、BOOK OFF等の日本企業のロサンゼルス支社等をはじめ、アパレル、美容、ホテル、広告、エンターテインメント、幼稚園等と多岐に渡る。本人の希望と語学力等によりインターンシップ先を決める。 (授業目標) 自分らしい「生き方」「働き方」を見出すキッカケを掴め、「自分ひとりでは体験できない機会」を体験する。世界中で挑戦する人・企業と出会い、多様な価値観に触れ、感じる場をつくることで新しい可能性を自覚し、グローバルに活躍できる人材となることを目標とする。 (学習成果) ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：海外の社会に触れ、語学力を含めたコミュニケーション力を養うことができる。
授業計画	1 説明会（課外時間にて実施予定） 海外インターンシップの意義、目的との意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、参加費用、研修先案内等説明する。後日申込受付をする。 2 オンライン個別相談（課外時間にて実施予定） ロサンゼルスのコディネーターとZOOMで面談し、希望インターンシップ先と英語力を確認する。後日、インターンシップ先企業の決定通知がある。 3 最終説明会（課外時間にて実施予定・渡米の1～3週間前） 渡航や滞在先、研修内容についての説明会を実施し、後日現地滞在先決定の通知がある。 4 合同ビジネス研修（渡航先で4日間実施・滞在はホテル） LAダウタウンクエスト、グローバルリーダーフォーラム、企業訪問等、他校を含む参加する日本の学生が合同で実施する。 5 実地研修（個別）（渡航先で2～3週間実施・滞在はホームステイ） 受け入れ先企業にて、日々の業務を行う。研修終了後、学びの振り返りと実習先企業へプレゼンテーションを実施する。 6 報告面談（課外時間にて実施予定） 帰国後、担当教員へ報告、面談を行い、総合的な評価のもと単位認定となる。
到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。
事前・事後学習	事前学習：語学力に応じてインターンシップ先が決まるため、事前に語学力を身に着けること。 希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を働きたいか等の目標を設定することが望ましい。 事後学習：帰国後は研修内容をプレゼンテーションする。その内容は、就職活動の面接等でも活かせるよう準備すること。
指導方法	担当教員の他、ロサンゼルスのコディネーターの協力の基、実施する。事務関連は教務部が行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	所定の事前・事後研修、実習を修了し、報告会及び面談により総合的に2段階で評価（Passもしくは、Drop）する。 インターンシップ1の研修・実習時間は、事前・事後学習を含めて45時間、インターンシップ2は、1の45時間を含め、継続して90時間以上の研修・実習をすることで単位が取得できる。従って18泊19日コース、24泊25日コースの修了者ともインターンシップ2の研修・実習時間要件を満たすため1.2合わせて2単位取得することができる。 なお、履修登録はインターンシップ修了後に登録すること。従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 また、以下項目を基準に評価する。 A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要なことがあることを経験している。
テキスト	研修期間中に配布する。

参考書	特になし。
履修上の注意	<p>「アメリカ・グローバルキャリアプログラムインターンシップ」は、本学が指定する海外インターンシッププログラムで、アメリカロサンゼルスのコディネート会社であるLighthouse Career Encourage USA Corpの協力のもと、実施する。</p> <p>*令和6年度の実施概要は、授業計画1の説明会内で発表する。 *昨年度日程、費用等の概要は添付ファイルを参照のこと。 *研修・実習に係る渡航費、滞在費、食費、保険、プログラム実習費は参加者の負担となる。 *インターンシップは無報酬となる。 *新型コロナウイルスによる影響、インターンシップ先等の都合で変更の場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	特に無し

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、西村リサ			
ナンバリング：F36C57	実務家教員による授業		
添付ファイル			
参考資料①2022年版説明会.pdf	昨年度のプログラム概要説明です		
参考資料②2022年版Spring_日程表.pdf	昨年度費用です 本年度は為替、米国の経済状況により変更あります		
参考資料③2022年版アメリカ・グローバルキャリアプログラム紹介.pdf	昨年度の日程です 本年度は説明会で発表します		

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) インターンシップ2は、本学が指定する海外インターンシッププログラム「America Global Career Program」(昨年度資料は添付ファイル参照)に参加し所定の成果を出すことで、インターンシップ1及びインターンシップ2の単位合計2単位が取得できるプログラムで、開講期間内ではなく夏期もしくは春期休暇期間中に実施する。 インターンシップ研修を通じ、アメリカ文化に触れ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。 インターンシップ先として、JAL、KDDI、JTB、BOOK OFF等の日本企業のロサンゼルス支社等をはじめ、アパレル、美容、ホテル、広告、エンターテインメント、幼稚園等と多岐に渡る。本人の希望と語学力等によりインターンシップ先を決める。 (授業目標) 自分らしい「生き方」「働き方」を見出すキッカケを掴め、「自分ひとりでは体験できない機会」を体験する。世界中で挑戦する人・企業と出会い、多様な価値観に触れ、感じる場をつくることで新しい可能性を自覚し、グローバルに活躍できる人材となることを目標とする。 (学習成果) ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ◎B：海外の社会に触れ、語学力を含めたコミュニケーション力を養うことができる。
授業計画	1 説明会（課外時間にて実施予定） 海外インターンシップの意義、目的との意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、参加費用、研修先案内等説明する。後日申込受付をする。 2 オンライン個別相談（課外時間にて実施予定） ロサンゼルスのコディネーターとZOOMで面談し、希望インターンシップ先と英語力を確認する。後日、インターンシップ先企業の決定通知がある。 3 最終説明会（課外時間にて実施予定・渡米の1～3週間前） 渡航や滞在先、研修内容についての説明会を実施し、後日現地滞在先決定の通知がある。 4 合同ビジネス研修（渡航先で4日間実施・滞在はホテル） LAダウントウンクエスト、グローバルリーダーフォーラム、企業訪問等、他校を含む参加する日本の学生が合同で実施する。 5 実地研修（個別）（渡航先で2～3週間実施・滞在はホームステイ） 受け入れ先企業にて、日々の業務を行う。研修終了後、学びの振り返りと実習先企業へプレゼンテーションを実施する。 6 報告面談（課外時間にて実施予定） 帰国後、担当教員へ報告、面談を行い、総合的な評価のもと単位認定となる。
到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ◎B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。
事前・事後学習	事前学習：語学力に応じてインターンシップ先が決まるため、事前に語学力を身に着けること。 希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を働きたいか等の目標を設定することが望ましい。 事後学習：帰国後は研修内容をプレゼンテーションする。その内容は、就職活動の面接等でも活かせるよう準備すること。
指導方法	担当教員の他、ロサンゼルスのコディネーターの協力の基、実施する。事務関連は教務部が行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	所定の事前・事後研修、実習を修了し、報告会及び面談により総合的に2段階で評価（Passもしくは、Drop）する。 インターンシップ1の研修・実習時間は、事前・事後学習を含めて45時間、インターンシップ2は、1の45時間を含め、継続して90時間以上の研修・実習をすることで単位が取得できる。従って18泊19日コース、24泊25日コースの修了者ともインターンシップ2の研修・実習時間要件を満たすため1.2合わせて2単位取得することができる。 なお、履修登録はインターンシップ修了後に登録すること。従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 また、以下項目を基準に評価する。 A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要なことがあることを経験している。
テキスト	研修期間中に配布する。

参考書	特になし。
履修上の注意	<p>「アメリカ・グローバルキャリアプログラムインターンシップ」は、本学が指定する海外インターンシッププログラムで、アメリカロサンゼルスのコディネート会社であるLighthouse Career Encourage USA Corpの協力のもと、実施する。</p> <p>*令和6年度の実施概要は、授業計画1の説明会内で発表する。 *昨年度日程、費用等の概要は添付ファイルを参照のこと。 *研修・実習に係る渡航費、滞在費、食費、保険、プログラム実習費は参加者の負担となる。 *インターンシップは無報酬となる。 *新型コロナウイルスによる影響、インターンシップ先等の都合で変更の場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	特に無し

講義科目名称： キャリアゼミ：デザイン クリエーションゼミ 授業コード：
(ファッション)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F36A58			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>「デザイン クリエーションゼミ (ファッション)」 (授業内容) 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。</p> <p>(授業目標) 前半は、ファッション業界の職種を知り、デザイン画における人体の理解を深め自分の世界観を表現するスキルを身につけることを目標とする。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。</p> <p>(学習成果) ◎D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。 ○E：独自のクリエイションを研究し、さらに将来のビジョンを思考できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス、2年生ディスカッション (平光) 授業内容、授業の進め方、課題について説明 2年生から就職活動体験談やゼミでの学びの成果の発表を聞き、今後の指針を得る</p> <p>2 職種研究 (ゲスト講師) 現役デザイナーからファッション業界の現状を聞く</p> <p>3 スティリズム (ファッションデザイン) (1) (ゲスト講師) スティリズムとは、カラーリサーチを行う</p> <p>4 スティリズム (ファッションデザイン) (2) (PBL) (ゲスト講師) エクササイズ (ムードボード製作、コラージュ製作)</p> <p>5 スティリズム (ファッションデザイン) (3) (ゲスト講師) デザインアプローチを学ぶ</p> <p>6 スティリズム (ファッションデザイン) (4) (ゲスト講師) 人体の理解と表現 プロポーションの描き方を学ぶ</p> <p>7 卒業生とディスカッション (平光) 社会で活躍している卒業生から就職活動体験談や現在の仕事内容を聞き、今後の指針を得る</p> <p>8 SPI試験実施 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う</p> <p>9 オリエンテーション 就職活動の進め方、26卒のポイント (キャリアセンター) 就職活動のスケジュール、就職活動の準備について</p> <p>10 就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法 (キャリアセンター) 自己分析を通して自分の強みについて</p> <p>11 履歴書の書き方 (1) 前回の復習、志望動機の作り方 (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>12 履歴書の書き方 (2) 履歴書作成ワーク (キャリアセンター) ポイントを押さえた履歴書を完成させる</p> <p>13 面接のポイント (1) 人事が見ている面接のポイント (キャリアセンター) 人事担当者が面接で重要視する点について</p> <p>14 面接のポイント (2) 面接の基本を体験 (キャリアセンター) 面接の流れを学ぶ</p> <p>15 振り返り (平光) キャリアゼミの振り返り</p>
到達目標・基準	◎D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している ○E：自分のキャリアを論理的に思考できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する (15分)。 事後学習：各回の課題を完成させる (30分)。 指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習

	毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく
指導方法	(前半) 論理思考をベースに、ディスカッション形式でキャリアデザインを進める。 学生の主体性と積極性を重視し、思考を深めるよう指導する。 (後半) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表(学生)、③講評及び採点し返却、④授業後における採点について質疑応答 パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：授業態度(参加度、積極性)を評価する。 ○E：課題を評価する。 作品40%、課題30%、授業への貢献度30%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	適宜プリント資料を配布する。
履修上の注意	(前半) ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 (後半) 業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラーニング、PBL	(前半) PBL型授業 (後半) 履歴書実作、模擬面接などの実践

講義科目名称： キャリアゼミ：デザイン クリエーションゼミ 授業コード：
(デジタル)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F36A58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>「デザインクリエーション (デジタル) ゼミ」 (授業内容) 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 課題設定、制作、ディスカッション、ブラッシュアップ形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。 (授業目標) 前半は学科担当教員、後半8回はキャリアセンターが指導を行う。デジタルリテラシーを養い、クリエイティブな発想を表現する。デザインの背景を考え、企画したものを実際に形にする。デザインを点で考えるのではなく、線で考えてストーリーを考える事で、伝達力を強める。Adobeのクリエイティブソフトを使い、企画やデザイン制作を行い、就活で使えるポートフォリオを作成する。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。 (学習成果) ◎C: 目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる ◎B: デジタルクリエーション技能を向上させ、ポートフォリオを使用したプレゼンテーションによって、コンセプトに基づくデザイン説明ができる</p>
授業計画	<p>1 本講座について (中村) 概要説明と業界研究 伝わるポートフォリオとは</p> <p>2 Adobeについてとワイヤーフレーム (中村) Adobeソフトの説明とポートフォリオ制作に向け、ワイヤーフレームを作成 何を伝えたいか課題を設定する</p> <p>3 自己紹介ページ作成 (中村) エントリーシートの自由記入欄を想定しデジタルスキルを使い制作する</p> <p>4 自己紹介ページ作成 (中村) エントリーシートの自由記入欄を想定しデジタルスキルを使い制作する</p> <p>5 ポートフォリオ制作 (中村) 進みたい業界に合わせ、伝えたい人柄や伝えたい表現ができていないかディスカッション 課題の設定から解決につながっているか相対ディスカッションしブラッシュアップ</p> <p>6 ポートフォリオ制作 (中村) 写真合成を多様し企画を膨らませ、ブラッシュアップを重ねる</p> <p>7 作品発表 (中村) 制作まとめ・発表・講評</p> <p>8 SPI試験実施 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う</p> <p>9 オリエンテーション 就職活動の進め方、26卒のポイント (キャリアセンター) 就職活動のスケジュール、就職活動の準備について</p> <p>10 就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法 (キャリアセンター) 自己分析を通して自分の強みについて</p> <p>11 履歴書の書き方 (1) 前回の復習、志望動機の作り方 (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>12 履歴書の書き方 (2) 履歴書作成ワーク (キャリアセンター) ポイントを押さえた履歴書を完成させる</p> <p>13 面接のポイント (1) 人事が見ている面接のポイント (キャリアセンター) 人事担当者が面接で重要視する点について</p> <p>14 面接のポイント (2) 面接の基本を体験 (キャリアセンター) 面接の流れを学ぶ</p> <p>15 振り返り (中村) キャリアゼミの振り返り</p>
到達目標・基準	◎C: 就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している ◎B: 就活業界に合うポートフォリオを制作することができる
事前・事後学習	事前学習：次回授業時に必要な素材や写真を集め表現を具体的に作る。また、指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習 (15分) 事後学習：デザインパーツなど各回の課題を完成させる。また、毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく (30分)

指導方法	(前半) 学生の主体性と積極性を重視し、思考を深めるよう指導する。何を伝えるポートフォリオにすると良いのかなどを話し合い、表現方法を全員で事例や手法などをディスカッションし制作に反映させる。 Adobe操作に関しては遅れの出る学生の出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 (後半) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックは、制作の過程で適宜個人的に行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C:授業態度(参加度、積極性)を評価する。 B:作品の完成度を評価 作品50%、履歴書や模擬面談20%、授業態度(参加度、積極性)30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	(前半) Adobeソフト使用 各自PC持参 (後半) 業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。 ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング、PBL	(前半) ポートフォリオに関する企画や自分ページ制作(PBL) (後半) 履歴書実作、模擬面接などの実践

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション ビジネスゼミ (プランニング) 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F36A58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	「ファッションビジネスゼミ (プランニング)」 (授業内容) 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。 (授業目標) 前半は、アパレル業界の本部 (特に企画デザイナー・MD・プレス) での役割と仕事内容を理解する。産学授業でのグループワークによるプレゼンあり。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を身につける。 (学習成果) ◎C：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題解決策や行動計画を提案できる。 ○D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。
授業計画	<p>1 ファッション業界の現状 (大滝) 本ゼミナールの概要、ファッション業界のしくみ本社の仕事内容について キャリアセンターより就職活動の流れについて (ZOOM)</p> <p>2 本部の就職研究 (個人ワーク) (大滝) アパレル本部のMD・企画デザイナー・プレス職の職務内容及び役割について</p> <p>3 アパレル企画デザイナーの仕事内容 (大滝) アパレルデザイナー職の仕事内容を演習課題にて体験し職業選択を検討する</p> <p>4 産学授業：プレス (PR) 職に関する講演及び産学課題説明 アパレルブランド (株式会社TSI予定) の人気ブランド (JILL by JILL STUART, FREE'S MART予定) のプレス担当ゲスト講師によるPRに実務解説及び産学課題説明</p> <p>5 産学課題グループワーク 1 (大滝) (PBL) グループワークにて産学課題のフレームを組み立てる</p> <p>6 産学課題グループワーク 2 (大滝) (PBL) グループワークにて産学課題の詳細を詰めてまとめる 産学課題提出</p> <p>7 産学授業：アパレルブランド (株式会社TSI予定) へのグループプレゼン及び講評 (大滝) (PBL) プレス (PR) 担当のゲスト講師に向けて、グループプレゼンをする。 プレゼンの内容に関しての講評及び優秀グループ選出</p> <p>8 SPI試験実施 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う</p> <p>9 オリエンテーション 就職活動の進め方、26卒のポイント (キャリアセンター) 就職活動のスケジュール、就職活動の準備について</p> <p>10 就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法 (キャリアセンター) 自己分析を通して自分の強みについて</p> <p>11 履歴書の書き方 (1) 前回の復習、志望動機の作り方 (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>12 履歴書の書き方 (2) 履歴書作成ワーク (キャリアセンター) ポイントを押さえた履歴書を完成させる</p> <p>13 面接のポイント (1) 人事が見ている面接のポイント (キャリアセンター) 人事担当者が面接で重要視する点について</p> <p>14 面接のポイント (2) 面接の基本を体験 (キャリアセンター) 面接の流れを学ぶ</p> <p>15 振り返り (大滝) キャリアゼミの振り返り</p>
到達目標・基準	◎C：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題を理解できる。 ○D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情

	<p>報を得ておく (20分)。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく (25分)。</p> <p>指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習 毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく</p>
指導方法	<p>(前半) パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業及びブランドの調査を行い、商品特性やプロモーション表現を学ぶ。</p> <p>(後半) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C：プレゼンテーション、課題を評価する。 D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30% クラスルーム課題にてフィードバックする。</p>
テキスト	<p>なし 適宜資料を配布する。</p>
参考書	<p>適宜資料を配布する。</p>
履修上の注意	<p>(前半) 特にアパレル業界において就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、プレゼンテーション形式等で行う。</p> <p>(後半) 業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	<p>(前半) プレゼンテーション BPL型 産学授業 (後半) 履歴書実作、模擬面接などの実践</p>

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション ビジネスゼミ 授業コード：
(セールス)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F36A58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>「ファッション ビジネスゼミ (セールス)」 (授業内容) 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、ワーク、プレゼンテーション形式で行い、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。</p> <p>(授業目標) 前半は、ファッション業界の企業と職種を知り、店舗調査を通して販売に必要な知識を理解する。後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を身につける。</p> <p>(学習成果) ◎C：ファッション小売業における現状と課題をあげ、解決方法について論理的にプレゼンテーションすることができる。 ○D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。</p>		
授業計画	1	ファッション業界の基礎、ファッション販売員の役割 (井上) 本ゼミナールの概要、業態別におけるファッション販売員の役割について	
	2	ファッション販売員の研究 (1) ワーク (井上) (PBL) 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは	
	3	ファッション販売員の研究 (2) プレゼンテーション (井上) (PBL) 「ファッション販売員の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
	4	2年生内定者体験講話、就活サイトの活用方法 (井上) 就職活動の注意点とアドバイス、キャリアNavi、Webの活用方法	
	5	店舗運営の研究 (1) ワーク (井上) (PBL) 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは	
	6	店舗運営の研究 (2) ワーク (井上) (PBL) 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは	
	7	店舗運営の研究 (3) プレゼンテーション (井上) (PBL) 「店舗運営の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
	8	SPI試験実施 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	9	オリエンテーション 就職活動の進め方、26卒のポイント (キャリアセンター) 就職活動のスケジュール、就職活動の準備について	
	10	就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法 (キャリアセンター) 自己分析を通じた自分の強みについて	
	11	履歴書の書き方 (1) 前回の復習、志望動機の作り方 (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて	
	12	履歴書の書き方 (2) 履歴書作成ワーク (キャリアセンター) ポイントを押さえた履歴書を完成させる	
	13	面接のポイント (1) 人事が見ている面接のポイント (キャリアセンター) 人事担当者が面接で重要視する点について	
	14	面接のポイント (2) 面接の基本を体験 (キャリアセンター) 面接の流れを学ぶ	
	15	振り返り (井上) キャリアゼミの振り返り	
到達目標・基準	◎C：ファッション小売業における現状と課題をあげ、解決方法を考えることができる。 ○D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく。 指定した資料を用いて自己分析を行い、興味のある業界を調べておく (20分)。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく (25分)。		
指導方法	(前半) パワーポイントを使用した講義とワーク形式で授業を展開する。特に、ワーク、プレゼンテーション		

	を積極的に実施する。プレゼンテーションでは、学生同士による他己評価の他、教員から総評を行う。 (後半) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：プレゼンテーション、課題を評価する。 ○D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	(前半) 日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。 (後半) 業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラーニング、PBL	(前半) ワーク、プレゼンテーション、PBL型授業 (後半) 履歴書実作、模擬面接などの実践

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
安東徳子、佐藤賢志			
ナンバリング：F36A58			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	「ウエディングゼミ」 (授業内容) 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。 (授業目標) 前半は、専門のゲスト講師を招き、業界の専門知識やスキルを講義、演習から主体的に学修する。また身近な社会現象等も取り上げグループワークで討議を行い、プレゼンテーションで発表する力を養う。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。 (学習成果) ◎C：身近な社会現象に対し興味を持ち、思考力を働かせ考察する。 ○D：ウエディングホスピタリティを理解し、就職のための知識を身につける。 目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。
授業計画	1 ウエディングゼミガイダンス (安東) ウエディング業界に特化した就職活動の概要を知る 2 就活に必要な2つの準備 (安東) 自己分析と企業研究の手法を学ぶ 3 人事担当者から学ぶ就活 (ゲスト講師①専門式場) 専門式場の採用活動を知る 4 人事担当者から学ぶ就活 (ゲスト講師②ゲストハウス) ゲストハウスの採用活動を知る 5 人事担当者から学ぶ就活 (ゲスト講師③ウエディングコスチューム企業) ドレスショップの採用活動を知る 6 人事担当者から学ぶ就活 (ゲスト講師④ホテルウエディング) ホテルウエディングの採用活動を知る 7 自分の就活スタイル (安東) 就職活動の方向性を決める指針を学ぶ 8 オリエンテーション、SPI模試 (キャリアセンター) 3月から本格的にスタートする就職活動の流れと必要な準備について SPI模擬試験実施 9 就職活動の準備について (キャリアセンター) 求人探し方や企業研究の方法 10 履歴書の書き方を知る (1) (キャリアセンター) 自己分析を通して自分の強みを考える 11 就職活動、面接でのマナー講座 (キャリアセンター) 就職活動に必要なマナー(立居振舞、言葉遣い)などの基本を学ぶ 12 履歴書の書き方を知る (2) (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて 13 就職活動に必要な面接のポイント (1) (キャリアセンター) 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ 14 就職活動に必要な面接のポイント (2) (キャリアセンター) 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ 15 振り返り (安東) キャリアゼミの振り返り
到達目標・基準	◎C：社会問題に対し、自分の考えを持ち討議できる。 ○D：ウエディング業界で働くために修得すべきことを理解できる。
事前・事後学習	事前：各回毎のテーマについて、予習しておくこと。(20分) 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること。(25分)
指導方法	(前半) 通常の授業と違いゼミ形式で行うので、学生の主体性と積極性を重視する。 テーマ毎の課題提出をする。 (後半) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。

	フィードバックの仕方：添削を行いコメントを記載し返却する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：グループワークでの自己提案力と貢献度 D：ウエディング業界の理解度 授業態度（参加度、積極性）を評価する。 課題60%、授業への貢献度40%
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版（1年前期に購入済み） プリント配布（式場見学シート、組織に求められる8つの適性、40秒の自己PRチェック表）
参考書	
履修上の注意	（前半）ウエディング関連企業に興味を持っていること。 ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。 （後半）業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラー ニング、PBL	（前半）グループワーク （後半）履歴書実作、模擬面接などの実践

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
西村リサ、小松千佳			
ナンバリング：F36A58			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>「ビューティゼミ」 (授業内容) 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半は学科担当教員、後半はキャリアセンターが指導を行う。</p> <p>(授業目標) 前半は、ビューティ業界を目指すための心構え、マナー、業界知識を身に付ける。後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。</p> <p>(学習成果) ◎D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる 自己理解を深め、企業や業種の特性と自分と相性について考えられる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス (西村) 本ゼミナールの概要、ビューティ業界について	
	2	就職活動準備 (1) (西村) ビューティゼミ2年生内定者による就職活動の流れについて	
	3	職種研究 (1) (ゲスト講師) ビューティ業界で働く方のキャリア、仕事内容について (4) 化粧品・ネイル・エステ業界	
	4	職種研究 (2) (ゲスト講師) ビューティ業界で働く方のキャリア、仕事内容について (1) 化粧品・ネイル・エステ業界	
	5	職種研究 (3) (ゲスト講師) ビューティ業界で働く方のキャリア、仕事内容について (2) 化粧品・ネイル・エステ業界	
	6	職種研究 (4) (ゲスト講師) ビューティ業界で働く方のキャリア、仕事内容について (3) 化粧品・ネイル・エステ業界	
	7	化粧品業界について (西村) 化粧品業界の仕組みやルールを学ぶ	
	8	SPI試験実施 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	9	オリエンテーション 就職活動の進め方、26卒のポイント (キャリアセンター) 就職活動のスケジュール、就職活動の準備について	
	10	就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法 (キャリアセンター) 自己分析を通して自分の強みについて	
	11	履歴書の書き方 (1) 前回の復習、志望動機の作り方 (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて	
	12	履歴書の書き方 (2) 履歴書作成ワーク (キャリアセンター) ポイントを押さえた履歴書を完成させる	
	13	面接のポイント (1) 人事が見ている面接のポイント (キャリアセンター) 人事担当者が面接で重要視する点について	
	14	面接のポイント (2) 面接の基本を体験 (キャリアセンター) 面接の流れを学ぶ	
	15	振り返り (西村) キャリアゼミの振り返り	
到達目標・基準	◎D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している 志望企業や職種の実務について述べる事ができる 志望企業や職種の採用時期や就労形態を理解している		
事前・事後学習	事前学習：美容雑誌、インターネット等美容に関する最新情報を調べる (20分)。		

	事後学習：ゼミで学んだことを調べ、就職活動に役立てるようまとめておく（25分）。 指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習 毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく
指導方法	（前半）美容業界で活躍したい学生を対象にした就職活動準備のためにゲスト講師を招いて行うゼミナールである。希望職種を明確にし、そのためには何が必要かを考え主体的に学ぶ。各自の興味にもとづいた就職活動準備を行えるよう指導する。 （後半）パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 課題を評価する。 課題70%、授業態度・授業への貢献度30%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	図解即戦力 化粧品業界のしくみと仕事がこれ1冊でしっかりわかる教科書
履修上の注意	（前半）受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。 （後半）業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラーニング、PBL	（前半）グループワーク、プレゼンテーションなど （後半）履歴書実作、模擬面接などの実践

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
中村公子、村木桂子			
ナンバリング：F36A58			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 各学生の将来を見据えて十分なガイダンスを実施しながら、最適な進路を選定する。 志望する大学の編入学試験に向けて綿密なスケジュールを策定し、計画的な学習支援を行う。 各自のスケジュールに合わせた個別指導を実施する。 (授業目標) 自己の目的を定め、目的に合った目標と計画を大まかに立て、自分なりに計画の実現に向かって努力する。 (学習成果) B：自らの将来を正しく選択するため必要な情報を見定めて収集し、整理・保存ができる。 ◎C：自分の目標に対して計画を立てることができ、実現を目指して学びを進めることができる。 ○D：短期大学での学びを基に、編入先の大学で通用する幅広い知識を得る。
授業計画	1 オリエンテーション・学習計画書の作成 (中村、村木) キャリアセンターガイダンス (30分) 編入に向けての準備オリエンテーション 学習計画書を作成し、編入学試験までの道筋を立てる 2 進学準備カウンセリング (1)、情報収集・試験対策 (1) (中村、村木) 各自の計画に沿って必要な支援を整える 情報収集の方法を知り、常に最新の情報に触れられるようにする 学科、小論文など試験に必要な対策を行う 3 情報収集・試験対策 (2) (中村、村木) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 4 情報収集・試験対策 (3) (中村、村木) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 5 情報収集・試験対策 (4) (中村、村木) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 6 情報収集・試験対策 (5) (中村、村木) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 7 情報収集・試験対策 (6) (中村、村木) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 8 SPI試験実施 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う 9 オリエンテーション 就職活動の進め方、26卒のポイント (キャリアセンター) 就職活動のスケジュール、就職活動の準備について 10 就職活動の基本 自己分析と企業研究の方法 (キャリアセンター) 自己分析を通して自分の強みについて 11 履歴書の書き方 (1) 前回の復習、志望動機の作り方 (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて 12 履歴書の書き方 (2) 履歴書作成ワーク (キャリアセンター) ポイントを押さえた履歴書を完成させる 13 面接のポイント (1) 人事が見ている面接のポイント (キャリアセンター) 人事担当者が面接で重要視する点について 14 14回目 面接のポイント (2) 面接の基本を体験 (キャリアセンター) 面接の流れを学ぶ 15 振り返り (キャリアセンター) 履歴書の書き方と面接のポイントの振り返り
到達目標・基準	B：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じる。 ◎C：目標に向かって自分なりに試行錯誤しながら、合格を目指して自分なりに学びを進める。 ○D：受験に必要な知識や表現力を身につける。
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ、対策を行う (30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う (30分)。

指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策・論述及び面接指導を行う。 フィードバックの仕方：各課題に対応じて、添削指導や口頭でのフィードバックを行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：複数の情報から収集すべきものを整理し、自分の計画に生かすことができているかどうかで判断する。 C：面接等から、志望大学合格のための計画が正しく実行されているかどうかで判断する。 D：試験勉強などへの取り組みから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	『直前30日で9割受かる中村祐介の志望理由書・自己推薦書』（2018）角川書店
履修上の注意	編入学を希望する学生は、本科目を履修登録すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	特になし

講義科目名称： デザイン クリエーションゼミ（ファッション） 授業コード： 1721

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服飾：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F37C59			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) デザイン関連、ものづくり関連の業界を目指す学生を対象にしたゼミである。キャリアゼミ（デザインクリエーションファッション）で学んだステイリズムを実際にカタチで表現し、各自オリジナル作品を製作する。作品製作を通して自身の適性を見極め、キャリア形成における明確な目標を掲げ、目標をクリアする為の計画を組み立てる。</p> <p>(授業目標) 作品製作を通して自身の知識・技術を向上させ、自身が思い描いたイメージを服飾造形作品として表現する力を身につける。</p> <p>(学習成果) ◎D：クリエイション技能を理解し、立体研究により自身が思い描く作品を表現することができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス (PBL) (平光) 概要説明、自分の好きな世界観を言語化すると、どのようなタイトルになるか考える</p> <p>2 モデリズム (実習：パターンメイキング・縫製) (ゲスト講師) 立体造形の基礎を学ぶ</p> <p>3 業界研究 (1) (平光) 副資材を扱う企業について学修し、業界研究を行う</p> <p>4 モデリズム (実習：パターンメイキング・縫製) (ゲスト講師) 造作品の基本構造を学ぶ 造形実習 (1)</p> <p>5 モデリズム (実習：パターンメイキング・縫製) (ゲスト講師) 造形実習 (2)</p> <p>6 モデリズム (実習：パターンメイキング・縫製) (平光) ディテールの研究 (1)</p> <p>7 モデリズム (実習：パターンメイキング・縫製) (ゲスト講師) ディテールの研究 (2)</p> <p>8 モデリズム (プレゼンテーション) (ゲスト講師) 副資材を扱う企業について学修したことをプレゼンテーションする</p> <p>9 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) (ゲスト講師) カットソー作品を製作し、立体研究について学ぶ</p> <p>10 業界研究 (2) (平光) 副資材を扱うショールームを見学し、業界研究を行う</p> <p>11 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) (ゲスト講師) ディテールの再現 (1)</p> <p>12 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) (ゲスト講師) ディテールの再現 (2)</p> <p>13 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) (平光) デザイン画の修正、ポートフォリオ作成</p> <p>14 作品製作 (実習：カットソーによる立体研究) (ゲスト講師) プレゼン資料作成</p> <p>15 発表 (プレゼンテーション) (ゲスト講師) 企業でのプレゼンテーションを想定し、製作した作品を発表する</p>
到達目標・基準	◎D：立体作品により、オリジナリティを表現できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する (20分)。 事後学習：各自のスケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う (25分)。
指導方法	学生の主体性と積極性を重視し、思考を深める。 作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。

	フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評及び採点、④授業後における採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：作品の完成度とオリジナリティを評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習、プレゼンテーション、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服飾：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F37C60			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容)</p> <p>ブランドや企画立ち上げなどに関係した就職を希望する学生を対象にしたゼミである。どの様にサービスや商品を発信していくかのブランドストーリーを作り作品制作する。コンセプトの表現をビジュアルデザインを通して行うことで効果的なブランディングの表現力を養い、今後のビジネスに活かすことを目的とする。各自目指す業界に合わせた制作課題を設定し、完成までのフローを組み立てる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>AdobeのIllustratorやPhotoshopなどのクリエイティブソフトを使い、デジタルの複合スキルを身につける</p> <p>(学習成果)</p> <p>○B：積極的に作業を進め、責任感を持って最後までやり抜くことができる</p> <p>◎C：デジタル技術を向上させ、コンセプトに基づく表現ができる</p>		
授業計画	1	ガイダンス・Adobeについて (PBL)	本ゼミナールの概要 Adobeの基本操作とできることについて学ぶ
	2	業界研究と目標課題設定 (PBL)	業界研究をし課題を見つけ、企画書概要を作る 就活の際に使えるポートフォリオや職種や業界に合わせた企画書を含むポートフォリオを活かしたマネジメントについて知る
	3	コンセプト設定 (PBL)	商品やサービスに対してコンセプト設定をしレイアウトする
	4	ブランディングデザイン研究 (PBL)	様々なブランディングにまつわるデザインを知り、表現する方法での違いを学ぶ 効果的な表現方法を考察しディスカッションを重ねる
	5	ブランドストーリー設定 (PBL)	コンセプトに基づくマーケティング方法やビジュアルアイデンティティなどブランドの発信方法を決めて全体のストーリーを設定する
	6	ワイヤーフレーム計画 (PBL)	ワイヤーフレームを作成することでブランディング制作を可視化する
	7	ビジュアルアイデンティティ制作 (PBL)	ストーリー発信に効果的なブランディングの為のデザインパーツを制作し完成させる
	8	作品制作の為の計画 (PBL)	デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける
	9	トーン&マナー設定 (PBL)	デザインルールを決めることでブランドの世界観の統一を図る
	10	企画内容発表 (PBL)	企画内容がコンセプトの伝わるものになっているか発表をし今後の作品制作に活かす
	11	作品制作 (PBL)	ビジュアルアイデンティティを活かした作品制作 (グッズ・カタログ・ウェブなど企画に合う制作を実施)
	12	作品制作 (PBL)	ビジュアルアイデンティティを活かした作品制作 (グッズ・カタログ・ウェブなど企画に合う制作を実施)
	13	作品完成・撮影 (PBL)	作品を完成させ・企画書に入れるための撮影をする
	14	まとめ (PBL)	作品を全て揃え、企画と制作まとめる。
	15	学修成果発表 講評 (PBL)	各作品を鑑賞し、意見を出し合い今後につなげる。また、自分の特性を客観的に考察する
到達目標・基準	○B：主体的な態度で作業に取り組み、作品を完成できる ◎C：デザインソフトを使い、制作ができる		
事前・事後学習	事前学習：ブランド発信におけるデザインの背景やコンセプトを考察する (10分)		

	事後学習：各自スケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う(35分)
指導方法	<p>全体で取組課題を設定し、そこから自分の適正に合わせて課題設定をしていく。 主体的に参加し、課題に取り組む必要がある。 個人サポートと全体サポートを交互に行い、操作性や進捗を確認 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う</p> <p>フィードバックは適宜個人的に行うが、全体講評は最終授業で口頭で行う</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○A：主体的な態度で作業に取り組み、計画性を持って取り組める ◎E：コンセプトに基づく表現ができた作品になっている 作品60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%</p>
テキスト	適宜フォーマット配布
参考書	
履修上の注意	<p>Adobeソフト使用 各自PC持参 作品制作の為自主的な受講態度が求められる 「ファッションデジタル演習」の科目履修をすることでデジタル技術を本科目にも活かすことができる</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL・作品鑑賞・意見交換

講義科目名称： ファッション ビジネスゼミ（プランニング） 授業コード： 1741

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服飾：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F37C61	実務家教員により授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) ファッション業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、特に将来アパレル会社の本部（企画デザイナー・MD・プレスなど）にとって必要なコンセプトワーク・商品企画・MD・ブランドプロモーションなどの視点を養い『理想のアパレルブランド』を立案することを目的とする。</p> <p>(授業目標) アパレル会社のブランドビジネスに必要な知識やスキルを理解する。</p> <p>(学習成果) ◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題解決策や行動計画を提案できる。 ◎E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて、理論的にプレゼンテーションすることができる。</p>		
授業計画	1	ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状解説、グループ分けアンケート	
	2	オリジナルブランド概要決定（PBL） グループワークにてオリジナルアパレルブランドの概要を決定する。	
	3	ブランドコンセプト（ワーク）（PBL） ファッションブランドの研究を基にオリジナルアパレルブランドのコンセプトワークを作成する	
	4	ターゲット設定（ワーク）（PBL） ターゲット設定及びターゲットイメージマップを作成する	
	5	店舗設計（路面店）（ワーク）（PBL） オリジナルアパレルブランドの路面店用店舗物件選択、店舗内装プランを作成する	
	6	商品構成・商品イメージ（ワーク）（PBL） オリジナルアパレルブランドが展開する商品イメージ及び商品構成プランを作成する	
	7	VPスタイリングプラン（ワーク）（PBL） 商品イメージを基に店頭でもVPをイメージし3体のスタイリングプランを作成する。	
	8	広告宣伝プラン及び3ヵ年計画（ワーク）（PBL） 路面店オープンと連動するプロモーションプランをリアルとバーチャルにて作成する。 ブランド運営の総合的なシナリオを3ヵ年計画する。	
	9	コンセプトワークプレゼンテーション（プレゼンテーション） 各グループがメンバー全員でプレゼンテーションをする。 担当教員の評価及び修正ポイントを把握する。	
	10	コンセプトワークブラッシュアップ（PBL） 担当教員より指摘された修正ポイントを理解し、グループワークにてコンセプトワークをブラッシュアップする。	
	11	起業・事業計画（ワーク）（PBL） オリジナルアパレルブランド立ち上げに向けたデビュー準備と収支プランを作成する。	
	12	MD・商品企画 1（ワーク）（PBL） ブランドの商品企画プラン作成	
	13	MD・商品企画 2（ワーク）（PBL） ブランドの商品企画プラン作成	
	14	MD・商品企画 3（ワーク）（PBL） ブランドの商品企画プラン作成	
	15	最終確認 課題提出 MD構成・商品計画プレゼンテーション（プレゼンテーション） 各グループがメンバー全員により商品計画・事業計画の最終プレゼンテーション	
到達目標・基準	◎D：『ファッションの知識を活かして考える力』ファッションに関する知識や情報収集・分析から、課題を理解できる。 ◎E：自分の考えを人前で説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビジネス情報誌、インターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容を基に「アパレルブランドの運営」についてまとめる（25分）。		

指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業をシナリオ的に展開する。特に、ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。 理想のアパレルブランドを立案することで、それを構成する様々な本社業務の役割や実務を体験する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：課題の取り組みや授業貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30% クラスルーム課題にてフィードバックする。
テキスト	適宜資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	SNS等のインターネットでファッションに関する知識や感性を養い、アパレルブランドの実店舗やオンラインショップも随時リサーチする。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服飾：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F37C62	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	<p>(授業内容) ファッション業界における販売職の就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、ワーク、プレゼンテーション形式等で行う。</p> <p>(授業目標) 1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「売れる販売員の条件」「売上を上げる方策」を踏まえて、店長や売場責任者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い、「理想のアパレル店舗」を立案することを目標とする。</p> <p>(学習成果) ◎C：店舗調査を積極的に行い、現状分析を踏まえた課題と実践的な対策を述べるができる。 ○D：店舗運営に必要な知識を理解し、論理的にプレゼンテーションすることができる。</p>		
授業計画	1	ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について	
	2	異業種研究（1）（ワーク） 「人気のある店舗における4P戦略」研究	
	3	異業種研究（2）（ワーク） 「人気のある店舗における4P戦略」研究	
	4	異業種研究（3）（プレゼンテーション） 「人気のある店舗における4P戦略」プレゼンテーションおよび評価と振り返り	
	5	異業種研究（4）（ワーク） 「売上が低迷している店舗における4Pの課題と解決策」研究	
	6	異業種研究（5）（ワーク） 「売上が低迷している店舗における4Pの課題と解決策」研究	
	7	異業種研究（6）（プレゼンテーション） 「売上が低迷している店舗における4Pの課題と解決策」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り	
	8	店舗運営の現状（1）（ワーク） 「アパレル小売業における店舗運営の現状」研究	
	9	店舗運営の現状（2）（ワーク） 「アパレル小売業における店舗運営の現状」研究	
	10	店舗出店の現状（1）（ワーク） 「アパレル小売業における店舗出店の現状」研究	
	11	店舗出店の現状（2）（ワーク） 「アパレル小売業における店舗出店の現状」研究	
	12	店舗運営および出店の現状（プレゼンテーション） 「アパレル小売業における店舗運営および出店の現状」プレゼンテーションおよび評価と振り返り	
	13	理想の店舗（1）（PBL） 「理想の店舗に必要な条件（ヒト、モノ、カネ、ノウハウ）」研究	
	14	理想の店舗（2）（PBL） 「理想の店舗に必要な条件（ヒト、モノ、カネ、ノウハウ）」研究	
	15	理想の店舗（3）（プレゼンテーション） 「理想の店舗」プレゼンテーションおよび評価と振り返り	
到達目標・基準	◎C：店舗調査を積極的に行い、現状分析と課題について述べるができる。 ○D：店舗運営に必要な知識を理解し、プレゼンテーションすることができる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分） 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。プレゼンテーションでは、学生同士による他己評価の他、教員から総評を行う。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：店舗調査から正確に現状分析を行い、課題を抽出しているかを評価する。 ○D：プレゼンテーションの取り組みおよび発表を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、課題と解決策を考える習慣を身につけること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ワーク、プレゼンテーション、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、佐藤賢志			
ナンバリング：F37C63			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ウエディングプランナー、ウエディングドレススタイリスト等のブライダル関係に就職を望む学生に対して、ゲスト講師と専任教員が連動してゼミ形式で授業を行う。 (授業目標) 専門的知識と実践力を身につけ、就職に対する意識付けを図る。就職活動と連動させた相談も行き、対応策も学修する。 (学習成果) ◎B：ウエディングの現場で求められる共感力コミュニケーション能力を身につける。 ◎C：自分に適した企業を判断しウエディング業界への就職活動をする。
授業計画	<p>1 ウエディングゼミガイダンス シラバス説明、授業概要、就職活動について</p> <p>2 就職活動の取り組みについて 2021年度採用の企業と周辺業界の動向を知り、求められる人材に照らし合わせながら強化すべきことを見直す</p> <p>3 共感力コミュニケーションの必要性とその手法 就職活動、社会人になっても役に立つ共感力コミュニケーションについて学ぶ</p> <p>4 就職活動に必要な視点を磨く3-why-wtep 今朝のwebニュースの実例を題材にした就職試験対策、3-why-stepの思考プロセスを理解する</p> <p>5 就職活動成功共有 過去の学生の就職成功事例を紹介</p> <p>6 3-why-stepのケーススタディ 1 環境問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)</p> <p>7 3-why-stepのケーススタディ 2 教育問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)</p> <p>8 3-why-stepのケーススタディ 3 物販と流通をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)</p> <p>9 3-why-stepのケーススタディ 4 テクノロジーをテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)</p> <p>10 企業から見た面接とは 印象の良い選考官と印象の悪い選考官、印象の良い学生と印象の悪い学生について共感力コミュニケーションの視点で考える</p> <p>11 模擬面談と発表 1 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>12 模擬面談と発表 2 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>13 模擬面談と発表 3 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>14 模擬面談と発表 4 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>15 ウエディングゼミまとめ 就職活動の把握、まとめ</p>
到達目標・基準	◎B：日常生活の中でも共感力コミュニケーションを応用できる。 ◎C：様々なウエディング業種の違いを判断することができる。
事前・事後学習	ウエディング業界の情報を得ておくこと。 毎回のテーマを理解し就職活動に役立てること。 事前：各回毎のテーマについて、予習しておくこと(20分)。

	事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること（25分）。
指導方法	通常の授業と違い、学生の主体性と積極性を重視する。テーマ毎の課題提出をする。 フィードバックの方法：①テーマごとの課題（質問疑問も含む） ②毎授業に回答の内容を共有指導 ③質問疑問に対する回答を共有。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：グループワークでの自己提案力と貢献度 C：ウエディング業界の企業考察 課題60%、授業への貢献度40%
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版（1年時に購入済み） プリント配布（組織に必要な8つの適性シート、3-why-stepシート）
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
西村リサ、小松千佳			
ナンバリング：F37C64			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) ビューティ業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ビューティ業界で働く心構えを学ぶ。 (授業目標) 広義に美容をとらえ、自信の生涯を通じてどのように美容と関わっていくのか考えを深め、女性の多様なキャリア形成について実例とともに学ぶ。 (学習成果) ◎D：美容への多様な関わり方を理解し、自分が関心を持っている美容について探求できる。 ◎E：自分の考えや思いを的確に表現できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (西村) 本ゼミナールの概要、授業の進め方</p> <p>2 女性の多様なキャリアとライフスタイル (1) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 言葉1つで全てが変わる！ライティングの基礎知識</p> <p>3 女性の多様なキャリアとライフスタイル (2) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識</p> <p>4 女性の多様なキャリアとライフスタイル (3) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識</p> <p>5 女性の多様なキャリアとライフスタイル (4) (西村) (PBL) 個人研究 多様な美容と表現</p> <p>6 女性の多様なキャリアとライフスタイル (5) (ゲスト講師：馬場さおり) 求められる知識や技術 売り込むためのセールスライティングの基礎知識</p> <p>7 女性の多様なキャリアとライフスタイル (6) (西村) (PBL) 個人研究 自分の興味関心のある事柄について考える</p> <p>8 女性の多様なキャリアとライフスタイル (7) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 女性の健康と食事</p> <p>9 女性の多様なキャリアとライフスタイル (8) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 マクロビオティックについて</p> <p>10 女性の多様なキャリアとライフスタイル (9) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 マクロビオティック望診</p> <p>11 女性の多様なキャリアとライフスタイル (10) (ゲスト講師：小山田明子) 求められる知識や技術 女性のライフステージと身体</p> <p>12 女性の多様なキャリアとライフスタイル (11) (ゲスト講師) 求められる知識や技術 学びとキャリアの広がりについて・フリーランス</p> <p>13 女性の多様なキャリアとライフスタイル (12) (西村) (PBL) 個人研究 自分の興味の方向性を見極め、研究する</p> <p>14 女性の多様なキャリアとライフスタイル (14) (西村) (PBL) 個人研究 課題グループ発表 (プレゼンテーション)</p> <p>15 ガイダンス (西村) (PBL) 個人研究 課題全体発表 (プレゼンテーション) 自分らしい生き方を目指して～ワークライフバランスについて</p>
到達目標・基準	◎D：自分の持っている知識や情報をまとめることができる。 ◎E：自分の考えを言語化しアウトプットできる。

事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする（20分）。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い自分自身のキャリア形成やライフスタイルについて考える（25分）。
指導方法	各自パソコンを使用してノートをとる。 パワーポイント等を使用する。 フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題を評価する。 ○E：課題を評価する。 課題80%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	「「妊活食事法」コウノトリごはん」小山田明子 セルバ出版
履修上の注意	毎回パソコンを持参すること。 受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL プレゼンテーション ディスカッション 実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村公子、村木桂子			
ナンバリング：F37C65			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 学生自ら志望する大学合格に向けて綿密なスケジュールを策定し、計画的な学習を行う。各自のスケジュールに合わせた個別指導を受ける。 (授業目標) 自己の目標に対して、発生しそうな問題を自分なりに想定したうえで現実的な計画を立て、達成に向けて努力する。 (学習成果) ◎C：自己の目標に対して計画を大まかに立てることができ、自分なりに試行錯誤しながら状況に合わせて勉強を進めていくことができる。 ○D：短期大学での学びを基に、編入先の大学で通用する幅広い知識を得る。
授業計画	<p>1 オリエンテーション・進学準備カウンセリング 受験先決定に向けたカウンセリング 編入に向けて本格的な準備を始める</p> <p>2 学習計画書の作成(1)、情報収集・試験対策(1) 編入学試験までの学習スケジュール管理について学習する 自ら行うこと、支援を必要とする項目を整理する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>3 学習計画書の作成(2)、情報収集・試験対策(2) 第1志望校合格に向けて、各自の学習スケジュールを作成する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>4 志望理由書の書き方(1)、情報収集・試験対策(3) 編入学のポイントとなる志望理由書の書き方について学習する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>5 志望理由書の書き方(2) 情報収集・試験対策(4) 編入学のポイントとなる志望理由書の書き方を実践練習する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>6 面接対策(1)、情報収集・試験対策(5) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>7 面接対策(2)、情報収集・試験対策(6) 面接での受け答えについて実践練習する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>8 状況確認及び進学カウンセリング、情報収集・試験対策(7) 現在の対策状況を確認し、必要があれば対策を練り直す 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>9 情報収集・試験対策(8) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>10 情報収集・試験対策(9) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>11 情報収集・試験対策(10) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>12 情報収集・試験対策(11) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>13 情報収集・試験対策(12) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>14 情報収集・試験対策(13) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>15 対策状況最終確認及び進学カウンセリング、今後のスケジュール確認 前期の対策をふりかえり、編入学に向けて今後の方針を確認する</p>
到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し必要な計画を立て、合格を目指して自分なりに勉強を進める。 ○D：受験に必要な知識や表現力を身につける。
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ計画立案する(30分)。

	事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う(30分)。
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策・論述及び面接指導を行う。 フィードバックの仕方：各課題に対応じて、添削指導や口頭でのフィードバックを行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：面接等から、志望大学合格のための計画が正しく実行されているかどうかで判断する。 D：試験勉強などへの取り組みから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	『大学受験文系大学・学部の志望理由書の書き方：A0入試・推薦入試対策』（2007）シグマベスト 『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』（2015）大修館書店
履修上の注意	自主的に志望大学の情報収集等を行い、学びに生かすこと。 オープンキャンパス等に積極的に参加し、報告すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	服飾：選択
担当教員			
服飾芸術科専任全員			
ナンバリング：F37C66			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 企業（自治体）等の今日的課題解決を通じ「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。指定するプロジェクトに参加して連携先の課題解決のためにグループで活動し、所定の成果を出すことで単位修得ができる。開講期間内に限らず夏期もしくは春期休暇期間中にも実施することがある。 (授業目標) 社会で活躍する企業人等と出会い、実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、より専門分野の学びを深め、ジェネリックスキルを高める必要性に気づく場をつくることで、社会でリーダーとして活躍できる人材となることを目標とする。 (学習成果) ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。
授業計画	1 オリエンテーション プログラムの意義・目的について、参加メンバー紹介とグループ作り、スケジュール説明、注意事項 他 2 課題の理解 連携先の企業（自治体）からの課題説明 3 課題解決案の作成（グループワーク） 講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する（5～6週） 4 中間報告会（プレゼンテーション） 各自取組中の状況報告を行い、取り組むべき方向性について連携先からアドバイスをいただき、解決案をブラッシュアップする 5 課題解決案の実現（グループワーク） 課題解決案をまとめ、それを実現し、結果についての調査・分析をまとめる（5～6週） 6 結果報告会とふりかえり（プレゼンテーション） 結果の報告をし、連携先の評価を受ける。活動全体のふりかえりをする ※プロジェクトの内容によって変更することがある
到達目標・基準	実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、成果実現のために最後まで貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。
事前・事後学習	事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。
指導方法	産学官連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等に向っての活動もある。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで、2段階で評価（Passもしくは、Drop）する。 A：平常点および成果発表で評価する。 C：平常点および成果発表で評価する。 平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど）50%
テキスト	なし
参考書	プロジェクトによって異なるため、それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する。
履修上の注意	*「プロジェクト演習」の授業名で複数のプロジェクトが展開する。それぞれの実施概要は、開講期間中に都度説明会内で発表する。参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 *放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 *プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる。 *履修登録はプロジェクト終了後に登録となる。担当教員の指示にしたがうこと。

アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL
-----------------	--------------------------------

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服飾：選択
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
ナンバリング：F38C68			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 「短期海外研修」は、本学が指定する短期留学プログラムに参加し所定の成果を出すことで、開講期間内ではなく夏期もしくは春期休暇期間中に実施する。 短期留学プログラムを通じ、異文化に触れ、他者と協力して共に創り上げる力や自己肯定感をもって最後までやり遂げる力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。 (授業目標) 自分らしい「考え方」を見出すキッカケを掴め、「国内では体験できない機会」を体験する。世界中の多様な価値観に触れ、感じる場をつくることで新しい可能性を自覚し、グローバルに活躍できる人材となることを目標とする。 (学習成果) ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ◎B：海外の社会に触れ、語学力を含めたコミュニケーション力を養うことができる。
授業計画	1 説明会（課外時間にて実施予定） 短期海外研修の意義、目的との意義と目的について、日程、参加内容 費用、留学先案内等説明する。後日申込受付をする。 2 オンライン個別相談（課外時間にて実施予定） コーディネーターとZOOMで面談し、留学先と英語力を確認する。 3 最終説明会（課外時間にて実施予定・渡米の1～3週間前） 渡航や滞在先、留学先についての説明会を実施し、後日現地滞在先決定の通知がある。 4 実地研修（個別）（渡航先で2～3週間実施・滞在はホームステイ・学生寮） 留学先にて、日々の授業・アクティビティを行う。 5 報告面談（課外時間にて実施予定） 帰国後、担当教員へ報告、学内プレゼンテーション・面談を行い、総合的な評価のもと単位認定となる。
到達目標・基準	◎A：留学先での主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ◎B：留学先教員、他の学生とコミュニケーションの必要性を理解する。
事前・事後学習	事前学習：語学力に応じて参加クラスが決まるため、事前に語学力を身に着けること。 あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。また海外短期留学を通じ、どのような学びやアクティビティに参加したいか等の目標を設定することが望ましい。 事後学習：帰国後は学んだ内容・経験をプレゼンテーションする。その内容は、就職活動の面接等でも活かせるよう準備すること。
指導方法	担当教員の他、留学先のコーディネーターの協力の基、実施する。事務関連は教務部が行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	所定の事前・事後研修、実習を修了し、報告会及び面談により総合的に2段階で評価（Passもしくは、Drop）する。 海外短期研修の時間は、事前・事後学習を含めて45時間の学びとアクティビティをすることで単位が取得できる。 なお、履修登録は海外短期留学後に登録すること。従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 また、以下項目を基準に評価する。 A：留学先での主体性・チームワーク・責任感の必要性があることを経験している。 B：留学先教員、他の学生とコミュニケーションの必要性があることを経験している。
テキスト	短期留学期間中に配布する。
参考書	特になし。
履修上の注意	「アメリカ・グローバルキャリアプログラムインターンシップ」は、本学が指定する海外インターンシッププログラムで、アメリカロサンゼルスのコディネート会社であるLighthouse Career Encourage USA Corpの協力のもと、実施する。 *令和6年度の実施概要は、説明会内で発表する。 *渡航費、食費、保険、プログラム実習費は参加者の負担となる。（プログラム内容を確認すること） *新型コロナウイルスによる影響、留学先等の都合で変更の場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服飾：選択
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
ナンバリング：F38C69			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 学習成果 A：他者と協力して共に創り上げる力 B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 C：目標と計画を立てて課題を解決する力 D：知識を活かして考える力 E：学んで理解する力	(授業内容) 海外インターンシップは、本学が指定する海外インターンシッププログラム「America Global Career Program」に参加し所定の成果を出すことで、開講期間内ではなく夏期もしくは春期休暇期間中に実施する。インターンシップ研修を通じ、アメリカ文化に触れ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。 インターンシップ先として、JAL、KDDI、JTB、BOOK OFF等の日本企業のロサンゼルス支社等をはじめ、アパレル、美容、ホテル、広告、エンターテインメント、幼稚園等と多岐に渡る。本人の希望と語学力等によりインターンシップ先を決める。 (授業目標) 自分らしい「生き方」「働き方」を見出すキッカケを掴め、「自分ひとりでは体験できない機会」を体験する。世界中で挑戦する人・企業と出会い、多様な価値観に触れ、感じる場をつくることで新しい可能性を自覚し、グローバルに活躍できる人材となることを目標とする。 (学習成果) ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：海外の社会に触れ、語学力を含めたコミュニケーション力を養うことができる。
授業計画	1 説明会（課外時間にて実施予定） 海外インターンシップの意義、目的との意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、参加 費用、研修先案内等説明する。後日申込受付をする。 2 オンライン個別相談（課外時間にて実施予定） ロサンゼルスとのコーディネーターとZOOMで面談し、希望インターンシップ先と英語力を確認する。後日、インターンシップ先企業の決定通知がある。 3 最終説明会（課外時間にて実施予定・渡米の1～3週間前） 渡航や滞在先、研修内容についての説明会を実施し、後日現地滞在先決定の通知がある。 4 合同ビジネス研修（渡航先で4日間実施・滞在はホテル） LAダウタウンクレスト、グローバルリーダーフォーラム、企業訪問等、他校を含む参加する日本の学生が合同で実施する。 5 実地研修（個別）（渡航先で2～3週間実施・滞在はホームステイ） 受け入れ先企業にて、日々の業務を行う。研修終了後、学びの振り返りと実習先企業へプレゼンテーションを実施する。 6 報告面談（課外時間にて実施予定） 帰国後、担当教員へ報告、面談を行い、総合的な評価のもと単位認定となる。
到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。
事前・事後学習	事前学習：語学力に応じてインターンシップ先が決まるため、事前に語学力を身に着けること。 希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。 事後学習：帰国後は研修内容をプレゼンテーションする。その内容は、就職活動の面接等でも活かせるよう準備すること。
指導方法	担当教員の他、ロサンゼルスとのコーディネーターの協力の基、実施する。事務関連は教務部が行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	所定の事前・事後研修、実習を修了し、報告会及び面談により総合的に2段階で評価（Passもしくは、Drop）する。なお、履修登録はインターンシップ修了後に登録すること。夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 インターンシップの研修・実習時間は、事前・事後学習を含めて45時間以上を単位認定とする。18泊19日コース、24泊25日コースがあるが、どちらの場合も1単位を認定する。 また、以下項目を基準に評価する。 A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。
テキスト	研修期間中に配布する。
参考書	特になし。
履修上の注意	「アメリカ・グローバルキャリアプログラムインターンシップ」は、本学が指定する海外インターンシッププログラムで、アメリカロサンゼルスとのコーディネーター会社であるLighthouse Career Encourage USA Corpの協力のもと、実施する。 *令和6年度の実施概要は、説明会内で発表する。 *昨年度日程、費用等の概要は添付ファイルを参照のこと。 *研修・実習に係る渡航費、滞在費、食費、保険、プログラム実習費は参加者の負担となる。 *インターンシップは無報酬となる。

	*新型コロナウイルスによる影響、インターンシップ先等の都合で変更の場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	特に無し